



Junior

ジュニアの部

平成29年度(第19回) **NHK**

全国短歌俳句大会

NHK Zenkoku Tanka Haiku taikai

入選作品集

もくじ

ごあいさつ	1
NHK全国短歌大会ジュニアの部	3
NHK全国俳句大会ジュニアの部	53
審査について	104
学校の取り組み	105
参加校名・団体一覧	108

つ さ い あ ご

「NHK全国短歌・俳句大会」ジュニアの部は、NHK学園が平成元年から開催してきた大会を前身とします。平成十一年からはNHKも主催者に加わり、今回で十九回目を迎えました。今回も多くのみなさまからご投稿いただき、ありがとうございます。全国から寄せられた作品は、幼児、小・中学生あわせて短歌は一九、九二五首、俳句は四三、八一一句を数えました。

日常のなかでの小さな気づきや感動を、自分の言葉で素直に表現した作品が多く見られました。また、大切な友達や家族を詠んだ作品や、ジュニア世代ならではの視線で平和への思いを表現した作品も多く寄せられました。全国の小学校、中学校では、短歌・俳句を詠む機会を増やす取り組みが増えています。

熱意をもって子どもたちの感性を大切に育もうと努める先生方や、保護者の皆様の姿勢に、心から敬意を表します。

NHKとNHK学園では、新しい時代を生きるみなさまが、伝統的な短詩型文芸に取り組むことで、日本語の持つ美しさや定型のリズムをしっかりと受け継ぎ、新たな文化を創造していくことを心から願っています。

NHKでは、Eテレで毎月第四日曜に放送している「短歌胸キュン」「俳句さく咲くー」など、若い世代の方々にも短歌・俳句を通じて日本語の魅力に触れていただける番組をお届けしています。これからもNHKのさまざまな放送番組を活用し、短歌・俳句に親しんでいただければ幸いです。

最後に、全国の学校関係者や保護者のみなさま、大会の開催にあたりご尽力くださいました選者のみなさま、ご支援を賜りました各団体のみなさまに厚く御礼申し上げます。

平成三十年一月吉日

N H K 会 長 上 田 良 一

N H K 学 園 理 事 長 浜 田 泰 人

平成29年度 (第19回)

NHK全国短歌大会

ジュニアの部

もくじ

ジュニア大賞	4
学校大賞・学校優秀賞・特別賞	5
●幼児・小学生の部	7
選者のことば 佐佐木 頼綱	9
特選・秀作	10
入選	16
●中学生の部	27
選者のことば 佐伯 裕子	29
特選・秀作	30
入選	36

ジュニア大賞



小学生の部

さくらんぼ兄弟いっぱい生まれてるこのあといつしよに旅へ出ていく

東京都 新宿区立西戸山小学校 4年

石原福太郎

ぼくの先祖山ぞくと聞いて夢に見たきれいな川と深い山々

岡山県 倉敷市立乙島小学校 5年

田口 聖太

流れ星なかなかこない待つ私あ流れて来たパティシエになる

大分県 津久見市立青江小学校 6年

宮成 和奏

ジュニア大賞



中学生の部

僕は虫次へ次へと食べてゆく次へ次へとページをめくって

青森県 五所川原市立五所川原第一中学校 2年

葛西 康平

扇風機涼むわたしにおばあちゃん「ここええわな」と午後のスーパ―

大阪府 茨木市立太田中学校 2年

石田 咲希

電卓の一番下に住み着いた「しよすうてん」のようだね僕ら

長野県 塩尻市立広陵中学校 3年

藤森 相貴

学校大賞



東京都

渋谷区立神南小学校

東京都

海城中学校

特別賞



広島県

庄原市立比和小学校

中国

上海日本人学校浦東校

学校優秀賞



神奈川県

カリタス小学校

広島県

ぎんがの郷小学校

愛知県

東海学園東海中学校

短歌

幼児・小学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

心の柔らかさ

● ● ● ● ●
佐佐木頼綱

おねえちゃんだいきだからなめちゃうよだいきだからさんぽにいこう くぼ木心ゆ
大人の短歌には無い魅力が小学生の短歌には満ち溢れている。夏休みで友達と駆け回っ
たり、川に飛び込んだり、虫や花をライバルに見立てて競争している彼らが詠んだ短歌に
は、多くの発見や感動、大人の歌に無い躍動感やリズムの楽しさがあるのである。文頭に
あげた一首は本当のお姉ちゃんなのか、もしくははペットの犬に成り代わって詠んだ歌か。
発想や思考回路を追っているうちに楽しくなってしまう。

たいそうのこうえんできいたおとふたつせみのなきごえゆらゆらはっぱ
なつやすみぬけたまえばのすきまからつるつるつるつるつとそうめんたべる 久保木友
志賀琉斗

無邪気で明るい歌、心が柔らかい歌が多いのも特徴の一つだろう。自分が発見した面白
い物、楽しい事を自分の言葉で表現している。

僕にだって一人になりたい時があるそういうものか十一歳は 黒部功陽
学校へいっしょに行けるのあとちょっと心さみしい秋の始まり 市沢明日香

高学年になって芽生えはじめる自意識や切なさも魅力である。詠草には消しゴムで何度
も言葉を入れ替えた跡がある。子供ならではの感受性が三十一音の型にはめる作業の中で
意識化され、豊かな言葉になっていったのだろう。

応募作品を読みながら、小学校時代の様々な感情を思い出した。心の機微とは文言化し
て残さないと忘れてしまう物なのかもしれない。保存性の高い短歌に出来たかどうかで人
生の豊かさもまた変わってくるのではないだろうか。



● 佐佐木頼綱
ささきよりつな
昭和五十四年東京都生れ。
「心の花」会員。

特選 佐佐木頼綱 選

もぐれたよみずのなかってしずかだねきらきらひかるともだちのあし

宮城県 聖ドミニコ学院小学校 1年 本藏 暖香
初めて水中に潜れたという一生に一度しかない瞬間を作品にした歌。水中の音、色、景色と作者の感じたことをしっかりと描いている為、臨場感が伝わってくる。「きらきらひかるともだちのあし」は大人には書けない表現ではないだろうか。

のびのびと足をのばしてこいでいるブランコにのり空へのぼった

青森県 三沢市立木崎野小学校 4年 船水 和奏
足を伸ばし勢いをつけてブランコを漕ぐ楽しさが伝わってくる一首。「のびのび」「のばし」「のり」「のぼった」の「の」の音のつながり、そして「空」という広がりのある情景へ投げ出される結句が心地よい。

あめにさくいろとりどりのかさのはなかあさんのはなさがしだすぼく

岩手県 岩手大学教育学部附属小学校 4年 千田 龍潤
迎えに来たお母さんを教室の窓から探している歌。傘を花と表現し鮮やかな一首になっている。とりどりの色の中から、作者は慣れ親しんだ母親の傘の色を探している。結句に「ぼく」を出したのが良かった。お母さんと僕の温かい関係が伝わってくる。

うとうと足でふとんをさがしてるタオルケットじゃ今夜は涼しい

群馬県 神流町立万場小学校 4年 黒澤 結
夜のまどろんでいる心を詠んだ歌。眠っている時間を作品にしたこと、そして半分眠っている時の心の動きを丁寧に言葉にしたことが良い。去年の夏は雨が多くて涼しかった。そんな一夜の歌だろうか。

さくらんぼ兄弟いっぱい生まれてるこのあといっしょに旅へ出ていく

東京都 新宿区立西戸山小学校 4年 石原福太郎

さくらんぼを兄弟と捉えた感性が楽しい作品。少年は赤い実が転々と実る夏のさくらんぼ畑を見ているのだろう。これから収穫されて全国へ発送されるさくらんぼを擬人化し物語に仕立てている。

ぼくの先祖山ぞくと聞いて夢に見たきれいな川と深い山々

岡山県 倉敷市立乙島小学校 5年 田口 聖太

家族の誰かに家の由来を教えてもらったのだろう。興奮した少年は山賊が活躍したであろう川と山の昔に思いを馳せる。「きれいな川と深い山々」という言葉からは少年の憧れが伝わってくるし、読者にも様々な山賊の物語を喚起する。

ゆかた着て歩くにつれてすそおどる私の心はずみ続ける

神奈川県 カリタス小学校 6年 峰島あや香

お祭りに近づいてゆくワクワクさが楽しい歌。家から着てきた浴衣は少し崩れてきているかもしれないが、その崩れが作者の心のはずみにかかっている。動きのある浴衣のイメージが美しく、「続ける」と時間が続いてゆく結句もいい。

流れ星なかなかこない待つ私あ流れて来たパティシエになる

大分県 津久見市立青江小学校 6年 宮成 和奏

流れ星を探す時間、そして願いを掛ける一瞬をうまく一首に仕上げた作品。上の句で流れ星を待つゆっくりな時間を描き、下の句は流れ星を見つけた一瞬の心の動きや動作が畳み掛けるように示される。ギアチェンジするような速度の変化が面白い。

秀作 佐佐木頼綱 選



たいそうのこうえんできいたおとふたつせみのなきごえゆらゆらはっぱ

千葉県 ユーカリハローキッズ 6歳 久保木 友

なつやすみぬけたまえばのすきまからつるつるつるつるとそうめんたべる

東京都 渋谷区立神南小学校 1年 志賀 琉斗

あさがおのはながさいたといもうとがうれしいかおをのぞかせてくる

佐賀県 白石町立北明小学校 1年 香月 真樹

夏休みかかとの高いサンダルで足はすれたが少し大人に

茨城県 リリー文化学園リリーベール小学校 3年 小宮 颯香

傘さかさ風でとべそう空高く会ってみたいなひいじいちゃん

埼玉県 さいたま市立上小小学校 3年 松本みゆな

なつのあめポツポツかずをかぞえてるのこりのやすみふえればいいな

埼玉県 西武学園文理小学校 3年 見澤 宙

あさいよりふかいプールが楽しくて前より大きくなったなわたし

静岡県 浜松市立県居小学校 3年 上島 実天

夏休み山の向こうの友の顔思いうかべて宿題をする

福島県 桜の聖母学院小学校 4年 眞下 結友

けい流にジャンプで友達飛びこんだまねして飛べない足がガクガク

茨城県 リリー文化学園リリーベール小学校 4年 西尾 香り

小説を読んで心が動きだすはやる心でページをめくる

埼玉県 加須市立鴻菱小学校 4年 西村 優諒

こうしゅうの山の小道を馬に乗りかけてくぼくはたけ田信玄

東京都 渋谷区立神南小学校 4年 鳥越 楨史

一輪車バランスとつてのつたときスイスイこけて風と一つに

広島県 ぎんがの郷小学校 4年 喜多村香里

あつい日にならんで買ったかき氷体の中につめたく入る

福岡県 麻生学園小学校 4年 右田 修士

空の旅流れる雲と夏の海宝石のようにうかぶ島々

千葉県 千葉市立扇田小学校 5年 笠井日菜乃

飛行機に乗って行ったその国は小龍包のやさしいにおい

広島県 ぎんがの郷小学校 5年 吉光 絢菜

聞こえるなりんりんんとすず虫の歌でかなでるすてきな恋文

宮崎県 日向市立坪谷小学校 5年 稲田 百華

にらみあい予想するんだ次の球フルスイングで遠くへ飛ばせ

青森県 平川市立金田小学校 6年 小田桐陽朗

ざぜんくみ耳をすまして目を閉じるとどこからかピアノの音がする

山形県 米沢市立六郷小学校 6年 伊藤 心暖

僕にだって一人になりたい時があるそういうものか十一歳は

東京都 渋谷区立神南小学校 6年 黒部 功陽

暑き昼窓開け放ち寝転がる視界の隅で風鈴が鳴る

東京都 渋谷区立神南小学校 6年 久世 孝彦

霧深く華厳の滝は見えないが音と力を確かに感じる

東京都 渋谷区立神南小学校 6年 鶴田 栞梨

梅雨になりくもの間に晴れ間見え青い絵の具をたらしめたみたい

東京都 八王子市立鹿島小学校 6年 松井 優佳

子どもらが帰ったあとの夕ぐれに麦わら帽子ぽつんと一つ

神奈川県 洗足学園小学校 6年 浦田茉優子

学校へいっしょに行けるのあとちょっと心さみしい秋の始まり

長野県 高森町立高森南小学校 6年 市沢明日香

ゆっくりと縄文土器をそつともつタイムスリップしているみたい

岐阜県 郡上市立大和西小学校 6年 小倉 萌愛

ぼくの犬何もほえずにぼくを見る遊んでほしいのじつと目を見る

岡山県 倉敷市立乙島小学校 6年 金廣 一爽

犬のラブ目があいたまま死んでいたいっしょに登ったあの山を見て

岡山県 倉敷市立乙島小学校 6年 池田 華梨

日も暮れて耳をすませばきょんきょんとしかのなき声ひびく高原

福岡県 麻生学園小学校 6年 オリバー八尋 蕙美

ゴシゴシゴシ紙の上すべりそうじする今日も働くぼくの消しゴム

大分県 津久見市立青江小学校 6年 園田 海斗

あつい夏くちからにげる氷のおとカリカりはじけるさわやかなおと

鹿児島県 始良市立永原小学校 6年 北郷 ゆら

入 選

くわがたをだいききなんだ二ひきいる手におしっこをしてもかわいい
 さつぽろに米とやさいのはいたつだ帰りはかぞくでプラネタリウム
 いろいろな色で楽しいクレヨンわたしにもたまに色をつけたい
 白い米黒いのりが歯にペタリうめしゃけおかかどれにしよう
 あさはやくラジオたいそういちにさんみんなげんきにきょうが始まる
 たいこにはばちと心をおつけてるたたくぞたたけい音だすぞ
 ねぶたの日かねやたいこと笛の音合わせてさけぶやーやどー
 パチパチとずっとつづけばいいのになぼとんとさみしいせんこう花火
 みんなと緑のしばふで昼ねした日光につつまれスースーねむる
 カブトムシ光をあてると目が光りつのを動かしかくする
 やまあるきのぞいてみたよつちのあなジーゼミのようちゆうさん
 青い空赤道はさんで続いてる向こうは寒くこちらは暑い
 キヤーという悲鳴の方にふり向けば母のバッグでせみひと休み
 朝顔がゆ明け前にさいたんだ一日二こか一日三こ
 妹のわらった顔でいやなことまほうみたいにあわつと消えた
 夏ざしきすだれあふれる日の光それにまぎれてふうりんの音
 トンボがねぼくの手のひらとまったよぼくがタクシー歩いて進む
 ただいまの声といっしょにかけたしたそぼのえがおとおいしいにおい
 佐渡の海夜空いろどるスターマイン暗やみ照らすいかつり漁船
 なつやすみあのこはなにをしてくるかなしんがつきまたいっしょにあそぼう

2年	群馬	埼玉	美齊津真統
2年	北海道	小林	愛実
3年	北海道	伊藤	北翔
3年	北海道	安口	かなで
4年	北海道	森口	桃花
3年	青森	長内	聖尚
3年	青森	駒井	敬太郎
3年	青森	松田	海焯
4年	青森	後藤	萌々子
5年	青森	泉	思依
6年	青森	工藤	楓士
1年	茨城	片岡	一貴
5年	茨城	稲田	董子
6年	茨城	江幡	和奏
3年	群馬	高岸	奨
4年	群馬	小林	咲良
4年	群馬	松岡	凜華
5年	群馬	天田	琉生
5年	群馬	井上	依織
5年	群馬	眞塩	ひろ

入 選

かぶとむしつのでたたかうくわがたとみんな食べたいえさのとりのあ

とさんどうつかれたほくのくうちゅうをゆうがにはばたくらんちようのむれ

青もみじ風にゆられて水たまりほとんとおちてゆうらりゆらり

ホウセンカ太陽あびてうれしそうピンクや赤の宝石みたい

なつの森三十六どじゃあつすぎて落ち葉にひっこむありの集団

ミンミンと鳴かない日がやってくるさみしいさみしい夏の終わりだ

つゆ空のプールじゅ業が心配でバックにつけたてるてるぼうず

なすトマトとうもろこしにスイカしそたくさんでるじいちゃん畑

光あび真っ赤にそまるトマトさん一口かじり顔が笑った

妹が生まれる予定七夕にわたしの家のおりひめみたい

ばあちゃんの畑のトマトまるかじりカラカラのどが喜んでいる

別れぎわ祖母の涙にみんな泣きセミも泣いてるまた来年ね

秋の夜道のまん中にねこじゅっぴきおこさないように静かに歩く

弟ととんぼ飛ぶ中帰り道ドアを開ければ家族の笑顔

こんじきの光舞い散る夏の夜ほたるが開く光のパーティー

やみの手をにぎり合う女子二人おどかす男子に大げきどする

東照宮木わくの中に技こめて江戸の暮らしを語る彫刻

セミくんがあたまのうえをまわってるいいにきたかもにがしたおれい

おねえちゃんだいですきだからなめちゃうよだいですきだからさんぽにいこう

3年 埼玉 伊藤 瑠南

3年 埼玉 栗原 隼人

3年 埼玉 坂本 滯音

3年 埼玉 前島 愛香

3年 埼玉 眞崎 喜彦

4年 埼玉 小池 結葉

4年 埼玉 箱崎 太郎

4年 埼玉 福田 彩陽

4年 埼玉 本澤 蘭

4年 埼玉 松本 七海

4年 埼玉 横浜 瑠奈

5年 埼玉 笠原はるな

5年 埼玉 黒田 源太

5年 埼玉 中村 凧士

6年 埼玉 大本 芽生

6年 埼玉 小堤 結夏

6年 埼玉 森 柑水

1年 千葉 大木 美月

2年 千葉 くぼ木心ゆ

2年 千葉 倉持 はな

入 選

にわプールはだかであそぶ弟にむぎわらぼうしかぶせてあげる

わたしのが見つからなくて出おくれるサンダルいっぱいそぼのげんかん
かぶとむしおとうとまねてさわってみるはねがばたばたやっぱりこわい

元気かなてん校しちゃったお友達写真たてには二人の笑顔

ぼくはもも流れるプールももたろうどんぶらこっこふえがなるまで

新ぼんに親族総ぜい五十人いえいのそうそぼ満面の笑み

夏野菜ゴーヤにオクラモロヘイヤもろこしトマト信号の色

いちようの木じゃんけんするのもみじの木いつももみじは負けっぱになる

弟は家来みたいに便利だないっしょに遊んでいっしょに笑う

夏の夜川辺にそって歩いたら山のすきまに花火が見えた

集会でねむくなるががまんした今日だけは聞きたい最後の校長先生

初めての一人旅だよ東京のばあばん家^ちまでリュックおどるよ

にしのそらあおとオレンジまざりあいめをうばわれるあきのゆうぐれ

こいのぼりそらのうえまでとんでいくかぜをきりぬきそよそよといく

青空はまるで大きな海みたいくもがさかなのかたちにてる

パクパクもたべるおとうとモモいろのほっぺピンクでかわいいいえがお

ながれ星ビューンと光ってきれいだな夏にキラキラぼくのおもいで

こおりはねおちやを入れるとふうりんだなつをすごしたそふのいえの音

やつがたけザアザアとふるあめのなか木のおいすうむねいっばいに

のりくらでにんじゃしゅぎようだ！生きのびるたきにとびこめ夜道を歩け

2年	千葉	佐藤	杏樹
2年	千葉	新城	智花
2年	千葉	須藤	芹梨
3年	千葉	川畑	明日香
3年	千葉	菅	拓真
4年	千葉	飯高	雅喜
4年	千葉	及川	詩織
4年	千葉	門脇	琴音
4年	千葉	清舛	彌森
4年	千葉	峯岸	麗奈
5年	千葉	植木	佑哉
6年	千葉	玉置	亮太
6年	千葉	長坂	颯大
2年	東京	井上	光哉
2年	東京	小野田	晶
2年	東京	金井	隼
2年	東京	西村	康太郎
3年	東京	家人	晴輝
3年	東京	木下	稜太郎
3年	東京	佐々木	りの

入 選

夏の日にクーラつけるすずしいな家族みんなで一つのへやに

えんぴつを強くにぎりさあ書こうせんふうきのおとへやにひびくな

夏の海のぞいて見れば魚たち目を丸くしてにげていったよ

宮古島海はふるふる風にゆれとても大きいゼリーのようだ

自転車で夏の京都を走りぬくきおん祭りの人なみかきわけ

洋服のそでがだんだん短くなり夏にどんどん近づく感じ

橋の上蒸気機関車響く音水面輝く大井川かな

のどかわきラムネをガブツとのんだなら口の中で夏が広がる

たのしみはあんこたっぷりたいたやきをゆっくりゆっくり食べる時

青嵐ぼうし飛ばされ走る君拾った後はおさえて歩く

水面を二人でとぶよ赤とんぼくつつきすぎて進みにくいな

時計屋の時計はどれが本当の時刻なのかがわからなくなる

あばれてもにげられないよこいのほり自由になったらどこ行くつもり

雪道をサクサク音たて歩いたら雪と同じで心もフワフワ

夏終わり秋に近づき彩やかな赤いもみじがとびらを開く

炎天下浜辺の上でやかかれてる焼肉気分で海へと走る

口あいたドーンとひびく七色のらくがきみたい夜空のダリア

命取りつりで学んだ大事なことを食べてるものはすべて生き物

梵魚寺の神様たちの大きな目来る人びとをじっと見守る
遊具たち待ちわびている雪解けをはやく聞きたいにぎやかな声

3年 東京 村上 暖佳

4年 東京 新田遼太郎

4年 東京 春川 りの

4年 東京 宮嶋 香耶

5年 東京 安藤 弘基

5年 東京 齋藤 優奈

5年 東京 鈴木 凱流

5年 東京 宮崎いちは

6年 東京 小家 美結

6年 東京 小林ななみ

6年 東京 徳永 真帆

6年 東京 中畑 鈴歩

6年 東京 野崎 敦也

6年 東京 堀向 桃花

6年 東京 宮本里乃亜

5年 神奈川 上原 璃奈

5年 神奈川 大空 和叶

5年 神奈川 中尾莉穂葉

6年 神奈川 鮎川 瑠菜
6年 神奈川 安沢 英里

入 選

空へ飛べみんなの思い千羽づる鳴りひびく鐘祈る八月

スイカ切る緑と黒のあでやかな縦線もよう夏を彩る

青空に黒い絵の具をたらしたら光と雨の激しい嵐

金銀と飛車角落ちでいざ勝負なみだをふいてもう一局

泳ぎ出す風に吹かれてこいのぼり泳ぎつかれて季節が変わる

明治村建物の中つまれて昔の人の温かさかな

夏休み宿題しに行く図書館は小学生の満員列車

あおい空海といっしょに見ればかがみ世界もつと見ればあおい森

夏休み海にプールに日焼けして楽しさ語るゴーグルのあと

枝豆が夏空の下たくましく花火のようにさやははじけそう

アイスティーミルクとシロップかき混ぜてマール模様をじつと見つめる

いつの日か君への想いがあふれ出て届くといいなわたしの想い

稲妻は天界一の忘れん坊今日も音だけ忘れていった

この夏も育ててみたよミニトマトすっぱいけれどなぜかおいしい

ラムネびん私と共に汗をかく青きビー玉ビン越しの空

外出たらセミ大声で大合唱家ではカリカリ鉛筆の音

美ら海でジンベイザメと自どりするとれた写真はマンタのしっぽ

ひまわりの大家族たち集まって太陽へ向けせいくらべする

強烈な太陽の下実が熟すマンゴアの味沖縄の味

火でできた花が手先で咲いている落ちないように息を殺して

6年	神奈川	石井	沙奈
6年	神奈川	大瓦	莉咲
6年	神奈川	大場優賀子	
6年	神奈川	菊野	紫織
6年	神奈川	木村	友香
6年	神奈川	熊谷穂乃香	
6年	神奈川	倉田	咲希
6年	神奈川	小島	皆也
6年	神奈川	小林	苺花
6年	神奈川	小山石璃子	
6年	神奈川	今野せいら	
6年	神奈川	佐藤	環奈
6年	神奈川	佐藤将太郎	
6年	神奈川	白田	花純
6年	神奈川	谷	有紗
6年	神奈川	田村	大樹
6年	神奈川	長嶋	隼矢
6年	神奈川	藤野	梨花
6年	神奈川	細谷	心菜
6年	神奈川	柳瀬	心優

入 選

風ふけばたくさんの森がさわさわと新しいにおい夏の緑陰

水ふうせん近所の家族やっついてびしょびしょになって笑っていたんだ

春の空見上げる時にふっているいつやむのかな桜の涙

草原でバツタがぼくを探しててジャンプしっつかけて寄ってくる

夕やけがほのかにぼくを照らしてるでもその瞬間も消えてなくなる

妹と外で走るとペタッペタ足元見ると小さなぞうり

もみじがり小さな手のひら集まって赤ちゃんたちのささやき聞こえる

とうろうのゆらゆらもえるともしびがおばあちゃんのえがおおもいだす

ぼくはペンみんなのためにみをけずるみんなのためにはたらいている

夏の夜ホタルとびかう虫の音夏特別の音の授業よ

アルプスの上にかんだ満月を母と二人で見ながら帰る

なつまつりゆかたをきたようれしいなこんこんげたのおとがひびくよ

とんぼさんとんでるはやいおにごっこびゅうびゅうおにがおいかけていく

かわあそびうきわのれっしゃうんてん中あゆがはねたのりたのりかな

はかそうじおはかの前でほうこくをサッカーピアノがんばっています

川あそびぼくはおよがず魚とりいっぱいいたけどのがしてばかり

日やけしてかゆくなつたよかゆすぎだぼくのせなかはきょうりゆうだ

バチバチと線こう花火燃えているまるで心のスポットライト

飛鳥寺大仏様がむかえてる笑顔ですつと何百年も
 そうめんはなつにびったりひんやりだつるとおともすずしげ

4年 新潟 三富 香奈

6年 新潟 本間 美衣

5年 長野 久保田陽斗

5年 長野 佐土 駿

5年 長野 種村 良美

5年 長野 横山 夏南

6年 長野 板倉 優奈

6年 長野 各務 美華

6年 長野 白鳥 桃菜

6年 長野 松村 青悟

6年 長野 宮崎 結菜

1年 岐阜 猪俣 美空

1年 岐阜 杉下 凜

2年 岐阜 石田 昊聖

3年 岐阜 塚本 美音

3年 岐阜 春田 尋斗

4年 岐阜 杉原 悠斗

5年 岐阜 本多珠々奈

6年 岐阜 赤塚 朔
 1年 静岡 上畠光志朗

入 選

ついたらねおひるになにをたべようかじいちゃんといくなつのとうほく

太陽が気合いを入れて顔出した止まらないあせ光りがやく

祖母の手をそっと放して帰り道鼻に手をあてまほうのかおり

お母さんほんとの年齢知ってるよぼくは見たんだ運転免許

なごやじょうしゃちほこふたつむきあっておしゃべりしてるたのしそうだね

お魚さんどうして友だちいじめるのたったひとりの友だちなのに

あき0さいからだぶにぶにきもちいいストレッチだけはおれまけちゃうよ

しゅくだいはわたしのまえにそびえたつうすくてあついむずかしいかべ

タンポポの綿毛が風で空を飛び新しい場所へ急なひっこし

ひさびさに兄と二人で愛犬と散歩しながら歩く公園

橋の上夜空に星が光ってる橋の下ではおどっているよ

打つたびに太鼓の皮も答えてるキンと伝わる張りつめた音

ぼくのをすいこむかがみふしぎだなあたまたまいれたらごつんとぶつかる

ゆうえんちひとりでじえつとこーすたうちゅうにいけるろけつとみたい

あめのひにしんだじいちゃんおもいだすくものかたちがかおみたいだから

妹とけんかをしたとき空にじ思わず二人でずっと見ていた

走り出す小さい背中の弟が十年後には青年となる

誕生日八月お盆で休みの日亡きばあちゃんも来てくれたかな

ずっとお化け屋敷でくつ無くしどこだどこだと少し目開ける
組体操めりこむ石をがまんして仲間と目指す最高の演技

2年	静岡	杉山	慶多
4年	静岡	高橋	茉里
6年	静岡	齋藤	七望
6年	静岡	鈴木	皓大
1年	愛知	蟹江	優衣
3年	滋賀	水谷	早菜
4年	滋賀	寺田	悠翔
6年	京都	中野和香葉	
6年	奈良	上田ひかり	
6年	奈良	宮本	凱
4年	鳥取	平松	輝久
5年	鳥取	池内	佑奈
1年	岡山	加藤慧一郎	
1年	岡山	佐藤	孝祐
1年	岡山	田原	琉偉
6年	岡山	荒木	結衣
6年	岡山	青木	瑠奈
6年	岡山	秋山	琥珀
6年	岡山	井上	蓮大
6年	岡山	加藤	至温

入 選

姉ちゃんにと父さん作ったおにぎりを食べてしまっていてまだに言えない

口ゲンカほくと妹たたき合いなぜか妹ほくより強い

パチパチと鳴り止まぬ拍手いつまでも手に取るギター改めて見る

あまのがわびかびかひかるあまのかわきれいなおとかきれいなみずか

さくらんぼふたごがいっしょにくつついてるあかいところがあたまなのかな

キラキラと川で光るよふんわりとさわると自分もうかんだよう

ささの葉がさらさらさささ音鳴ってみんな楽しむ夏の夜だよ

木のおいづめばつむほどにおい出るつみ木で高くタワーを作る

ゆかた着てまち中歩くよ楽しいよげたが歌うよカタカタカタ

こんには花もひらいてピンク色山は一面花でうまるよ

かいゆうかんジンベイザメにゆったりとせなかにのっておよいでみたい

春の風いちご畑を通りぬけモグモグ食べるいっぱい食べる

一足を田んぼに入れてはまっちゃんすいこまれるよどろの中へと

夏の間だんごみたいなのはりせんぼ追いかけていたら海の向こうへ

すずめの子毛がふさふさで飛べないよ友だちの手にすわっているよ

ピョンピョンと草原飛んで足あたるむずむずするな緑の草が

梅雨の時期草花たちがわれ先に雨にあたると背をのばしてる

水たまり中をのぞけば自分の顔ちがった世界が見えるといいな

ばあちゃんが作った梅ぼしすっぱくて走り出したい気持ちになった
なんでだろ首をかしげたそのうちに赤い夕日はきえていた

6年 岡山 松浦 哲郎

6年 岡山 山本 健星

6年 岡山 吉永の子

2年 広島 佐藤 心美

2年 広島 前津宗明里

3年 広島 加藤 星菜

3年 広島 高橋 絵吏

3年 広島 土井 康太

3年 広島 藤木 文二

3年 広島 松岡あさひ

3年 広島 門田 保子

4年 広島 大嶋 悠弥

4年 広島 立花 大虎

4年 広島 中原 巧豊

4年 広島 八杉 聡広

4年 広島 山本 響子

5年 広島 加藤 望花

5年 広島 田邊 理緒

5年 広島 津田のか
山口 花菜

入 選

ホタルたちパチパチ光りこんべいとう山のうつつわにたくさんいるよ
 棒を持ち大きな果実を打ちこわせ中身の赤色太陽のよう
 えんぴつと時計の秒針音だけがこの部屋中にひびきわたる
 大山の先まで見えぬ草原で草木のかおりがぼくをむかえる
 ささやかな風とうらはら子どもたちオニのような顔白熱の試合
 つばきはね赤くこくなり咲きほこるはかない最後誰か見えていて
 大雨で地に黄色の矢つきささるゴロゴロ音たて消えては落ちて
 化石ほり石をたたいてほっていくうずまき化石何年ねてたの
 夏休みひこうき乗って八千キロトルコのばあちゃんまってておくれ
 母の日は花をいっぱいプレゼント他はないのと聞くお母さん
 ピストルがなったしゅんかん風おこり赤白同時に全力しっそう
 お正月もらえてうれしいお年玉こっそり部屋で確かめてみる
 花火がねドンドンドンとなりひびくまるで夜空が怒るかのよう
 青空がみるみるうちに焼けていくまるでそれは炎のようだ
 風船に夢をたくして飛ばしたよいつもの空が今日はカラフル
 トンボくんうらやましそうにプール見て入ってみようかまよう顔だな
 美しいリボンみたいなオリオン座冬の季節の特大スター
 たくさんのかんせいうけてゆうやみの一面に咲く打ち上げ花火
 春の朝さくらの雨がふってくるいつもの道がさくらの道だ
 こくわがたはじめてみたよこんにちはよるになつたらいっしょにねようね

6年	広島	岩倉	瑞姫
6年	広島	小川純之介	
6年	広島	小島敬二郎	
6年	広島	平賀	陵太
6年	広島	藤井	愛渥
6年	広島	藤田	心咲
6年	広島	三谷	祐太
6年	広島	和田	弥子
3年	愛媛	ギルチツエリン	
6年	高知	石元	彩葉
6年	高知	垣内	智晴
6年	高知	片田	菜々
6年	高知	塚原	碧虎
6年	高知	寺尾日向葵	
6年	高知	羽方あさひ	
6年	高知	廣澤	權士
6年	高知	森澤	博章
6年	高知	安岡	桃香
6年	高知	山岡	蒼空
1年	福岡	桑原康史郎	

入 選

ひまわりが私の顔を見ているよ黄色と茶色夏の友だち

夏の海青空いっぱいいきもちいなしお風ふいてとばされそうだ

雲の峰空のキャンパス筆を持ち思いどおり心へえがく

夏の店どこにげてもせまりくるクーラーじごくみんな平気か

コツコツとグルリと回るうちのねこ時間をいつもしらせてくれる

花火見て空みあげたらほしひとつじいちゃんいっしょに見てるかな

かきごおりブルーハワイでふじさんにいちごのみつでさくらじまだよ

あついひのたいようめざしやまのぼる木を見あげたらくろいおうさま

なつのふねキラキラひかるイルカの子また来年もあえるかな

太陽をとつぜんかくす黒い雲家に帰れずなくスズメたち

雨がふり外であそべずおべんきようかえるは外であそんでるのに

夏休みなす食べながら夏祭りなからはじまる夏の思い出

びょうしつでミンミンとなくセミのこえけんさのチャイムよくきこえない

七つ釜したたる水が海となり夏の太陽映しかがやく

春もあけ春から夏へいれかわる川に葉っぱが流れていくよ

シユワシユワとはじけるソーダ元気だねほくも入っておどってみたい

イルカショー六ぴき立って夏まつりくるりおどったイルカのダンス

ふっと見る空には雲がふわふわといつも形を変えて旅する

よるの空星があふれんばかりに夜空一面がうかぶ島のように

なみのおとともすてきなおとがなりおとにあわせておどってゆこう

3年 福岡 小川 咲希

3年 福岡 黒川 泰雅

4年 福岡 原 瑚々未

5年 福岡 大上 滉一郎

5年 福岡 宮崎 真衣

2年 佐賀 大石 こうたろう

2年 佐賀 木村 真己

3年 佐賀 池田 将太

3年 佐賀 馬場 月乃

5年 佐賀 黒田 悠世

5年 佐賀 原 総一郎

6年 佐賀 田島 伊知朗

6年 佐賀 高武 朋華

6年 佐賀 丹治 朱莉

6年 佐賀 山田 光成

6年 大分 石谷 誠流

3年 宮崎 山本 美空

5年 宮崎 尾形 舞

5年 宮崎 甲斐 文佳

3年 鹿児島 細谷 こまち

なつのうみうきわでゆらりなみにのりひっくりかえるわたしとうきわ
 ラジオから体そうするぞとさそわれてねむい体にむちをうちつつ
 ドドドドぞあぞあしたぞぼくの胸花火の音で始まった太鼓踊り
 庭に出て風鈴の音におどる木々とてもすずしい夏の音楽
 ばあちゃんと地ごくめぐりに行きました赤・青・グレイぼこぼこぼこぼ

3年	鹿見島	満山	幸奈
5年	鹿見島	多胡	優心
6年	鹿見島	榎谷	健
6年	鹿見島	原田	瑛俊
5年	アメリカ	イサルマリー	花子

短歌

中学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

選者のことば

日々の発見を大切に

佐伯 裕子

中学生の投稿歌を選んでいるうちに、その発想の面白さに引き込まれてきました。まだ、短歌的な抒情に左右されていない良さ、というのでしょうか。その反面、やや乱れたリズムの歌も多かったように思います。素直な日々の発見は、五七五七七のリズムに乗ることで、より生き生きとしてくるのです。

僕は虫次へ次へと食べてゆく次へ次へとページをめくって

「本の虫」という慣用句があります。この一首はそのことのみを言っていますが、「僕は虫」という衝撃的な初句によって、新しく迫力のある内容になりました。「次へ次へ」のリフレインも効果をあげています。これを、「僕は本の虫」としてしまおうとどうでしょう。表現の発見によって、新しくなった歌と言えるでしょう。

夏休み祖父母の家で待ち受ける写真の中の小さな私

さりげない一首です。でも、祖父母の家で待っていてくれた写真に注目したところに発見があります。「小さな私」が待っていたのです。大切に飾っている祖父母の気持ちとともに、ただ「飾ってあった」としない作者の表現力に驚いてしまいました。

扇風機涼む私におばあちゃん「ここええわな」と午後のスーパ―

思わず微笑んでしまった一首。「ここええわな」という関西の日常語がすごい。ともに涼んだというだけなのですが、思い切ったセリフを拾って歌が生きてきました。「おばあちゃん」の性格の発見といえるでしょう。

ふとした日常のなかの発見と感想が、いかに歌を魅力的にするか分かると思います。それは、ほんの小さな発見でいいのです。生活の周辺をよく観察して、その感想を手放さないようにしたいものです。



佐伯 裕子
さえきゆうこ
昭和二十二年東京都生まれ。
「未来」選者。

特選

佐伯裕子選



父親の指さす方を見つめれば蝶がふわりと7階の庭

東京都 八王子市立第四中学校 1年 茂木詩音織

結句の「七階の庭」が生きています。現代的な高層のテラスや庭園なのでしょう。「父親」の指の先に見えた喋々のいとしさ、軽やかさ。こんなに高い所に飛んで来ているのだ、という感動なのです。

ベネチアに笹舟一つ浮かべたいオールカラーの地理の教科書

愛知県 長久手市立北中学校 1年 西田くろえ

「笹舟」はいかにも日本的なもの。それをベネチアに浮かべたい、といっています。下句への展開が面白く、教科書のカラー写真のベネチアなのだと分かります。想像力のある一首です。

忘れたらいいんだよって言うように雨がとつぜんザーッと降った

愛知県 安城市立東山中学校 1年 池内 陸

雨の降り方を表す「ザーッ」は、ありがちなオノマトペですが、上句が素敵です。「忘れたらいいんだよ」と聞こえたのでしょうか。忘れられない嫌なことがあったのでしょうか。雨が、天からの声のようです。

ゲーム機がおいでおいでと呼ぶ声にそれを振りきる僕のいる夏

山口県 柳井市立柳井中学校 1年 秋守 充樹

ゲームをしたくてたまらない夏休みです。ゲーム機が呼ぶ声がユーモラス。その声を「振り切る僕」が、ずいぶん客観的に表わされています。突き放した見方にどこか可笑しい感じがあるのです。

僕は虫次へ次へと食べてゆく次へ次へとページをめくって

青森県 五所川原市立五所川原第一中学校 2年 葛西 康平

読み終えると、本の虫となって読書をしていることがわかります。「僕は虫」という大胆な初句によって、何かを食べる虫のイメージが重なって来ます。「本の虫」という慣用句を新しくした歌です。

扇風機涼むわたしにおばあちゃん「ここええわな」と午後のスーパー

大阪府 茨木市立太田中学校 2年 石田 咲希

大型スーパーのようです。扇風機が回っている前で涼んでいる「私」。いきなり「おばあちゃん」が現れて言う言葉が何とも愉快でした。「ここええわな」。関西の言葉が生き生きと聞こえてくるようです。

夏休み祖父母の家で待ち受ける写真の中の小さな私

福岡県 福岡県立嘉穂高等学校附属中学校 2年 田上 冴月

巧みな一首です。「祖父母」の家で待っているのは、幼い日の「私」の写真です。大切に飾られていることが伝わってきます。さらに、自分を「待ち受ける」という表現に、巧妙な仕掛けがあるので。

電卓の一番下に住み着いた「^{しょうすうてん}」のようだね僕ら

長野県 塩尻市立広陵中学校 3年 藤森 相貴

電卓画面の目立たない小数点に着目したところ、独創的でした。そのような小さな、境目にいる「僕ら」という意識。「電卓の一番下に住み着いた」が、効果的に「僕ら」の存在を表しています。

秀作

佐伯裕子選



陽を浴びてフェリーは行くよありったけ大きな空と海を吸い込む

宮城県 仙台市立吉成中学校 1年 横溝麻志穂

さわれるかためす間も無くその虹をのっぼのビルは食べてしまった

長野県 塩尻市立広陵中学校 1年 藤森 深生

濡れた浜歩けば寄せる夏の波音に重なりまた打ち寄せる

岐阜県 恵那市立串原中学校 1年 安藤 優希

何万と夜空に光る丸い粒空を流れる光の魚

愛知県 豊橋市立青陵中学校 1年 若月 優

冬休み毛布が手から離れない窓の先にはたくさんの雪

鹿児島県 鹿児島市立吉野中学校 1年 近藤 希

金管の音が下から飛んできて私は窓に引き寄せられる

岩手県 二戸市立福岡中学校 2年 佐藤 遥

手で雨を確かめ君の右の手に傘差し渡す僕の左手

埼玉県 入間市立東金子中学校 2年 竹村 裕太

夏の夜家族皆で集まって無口になった線香花火

埼玉県 入間市立東金子中学校 2年 江原 梨音

夏祭り一人さびしく歩いていたら金魚でさえもあの人のよう

埼玉県 さいたま市立宮原中学校 2年 星 静流

刻々と時計の針は歩いてくこの瞬間は足跡になる

東京都 海城中学校 2年 廣渡 大地

宿題の油絵のした新聞をぼーっと見ていた夏のゆうがた

東京都 海城中学校 2年 山里 匠

夏の日のホームセンターあの場所で一人眺めたカクレクマノミ

東京都 海城中学校 2年 池田 航大

とけてゆくアイスクリーム見て思うもう戻らないあの形には

東京都 海城中学校 2年 小島 遥希

東京の高台から見た人影やレゴブロックのかたまりだらけ

東京都 海城中学校 2年 栗山 壮樹

授業中ぼーっとしていると黒板の字の誤りに二人気付いた

東京都 板橋区立志村第五中学校 2年 石川 莉帆

あじさいのしずくに光る大空に一瞬うつる小鳥のすがた

東京都 板橋区立志村第五中学校 2年 吉川 沙苗

ひまわりが私を見て言ってきたそろそろ君も私の虜

東京都 八丈町立富士中学校 2年 玉置 麻帆

登校中僕の後追う影見ると風でたなびくしつこい寝ぐせ

愛知県 東海学園東海中学校 2年 塚原 翼

カレンダーすぎゆく日にちに×^{バツ}つけて×の数だけ思い出ふえる

奈良県 香芝市立香芝東中学校 2年 前原 祐斗

「何あいつ」壁はう青虫指さして後ずさるのは私の妹

島根県 津和野町立日原中学校 2年 山本 瞭世

ゆきだるま白くきれいな雪たちが集まりあつて芽ばえたいのち

広島県 広島市立観音中学校 2年 満田 悠生

ひも結びパツとかけだすグラウンド真夏の日ざし友達の声

広島県 尾道市立長江中学校 2年 水ノ上紗帆

雨上がり水たまりの中ゆらゆらとうつつているのは夏の青空

愛媛県 伊方町立伊方中学校 2年 菊池 光記

夏の午後母が奏でるヴァイオリン息絶えし蜂へのレクイエム

愛媛県 伊方町立伊方中学校 2年 田丸 真楓

突然の雨に驚くお母さん洗たく物を部屋になげこむ

鹿児島県 鹿児島市立吉野中学校 2年 井手 美月

三角と四角がつながり丸となるバーゼル問題美しい式

東京都 東京学芸大学附属国際中等教育学校 3年 柳 龍太

稲穂の田きらめく琵琶湖せめぎ合う境界を引く黒き一筋

愛知県 名古屋市立萩山中学校 3年 森川 和磨

日に焼けてふるさとの田を思い出す私はお米あの子は小麦

徳島県 吉野川市立山川中学校 3年 大岩 未夢

夕暮れのブランコにゆれ息をつく謝ろうかな父とのけんか

佐賀県 佐賀県立武雄青陵中学校 3年 三槻麟太郎

「上海の気温は三十三度です。」二度目に下り立つ第二の故郷

中国 上海日本人学校浦東校 3年 東川 鈴

入 選

ふきのとう揚げて食べたらしいよ大人になったら味覚が変わる	2年	北海道	景井さくら
朝カレー給食カレー夜カレーカレーは意外と続くもんだね	2年	北海道	西森かな
都会から田舎に着いたその瞬間最初の一声方言なまり	1年	青森	大塚 悠生
白球を死ぬ気で追ってワンアウト春風が吹くグラウンドの上	1年	青森	椋沢 賢人
暑い中コップにお茶をそそいだら私もコップも汗をかいてる	1年	青森	成田 奈月
立ち上がる自分の影がもう一人のわたしになってささやきかける	1年	青森	平松 静羽
夏の日に暑い部屋の窓開けて青い空を部屋にも満たす	2年	青森	及川 愛蘭
丸七年ずっと会ってない友達に送る手紙は届くだろうか	2年	青森	木村 一智
夏の夜暑さで眠れずモコモコと羊数えてよけいに暑い	2年	青森	志村 花菜
水田にお鯛の群れが泳いでる映し出されたいわし雲たち	2年	青森	白川 遥翔
ありの列に足をはこぶと列乱れ一歩ふみ出す先頭の蟻	2年	青森	瀬川 瑠晟
人々が川のように流れゆく東京駅に棒のように立つ	2年	青森	中村 咲
部活終わり家に帰れば宿題がカバンの中から俺を見ている	2年	青森	福田 歩夢
夜に咲き夜に落ちてく夜の花つまらぬ空に彩を下さい	1年	岩手	小西 倫加
ひこうきぐもあかねのそらに手をふったそらは私を見つけたかな	2年	岩手	一関 理帆
どこへでも飛び立つことのできる鳥飛び立ちたいな人生一度は	2年	岩手	小子内海登
憂うつな心の雨も晴らしてく君の笑顔は私の太陽	2年	岩手	佐々木瑠那
大空へ小さき梟はばたいて家族みんなで帰りを祈る	2年	岩手	下國 力貴
本当の気持ちと言えずあなたにはキレイキレイと隠す本心	2年	岩手	高橋 響
弟がいれば僕だけおこられるでも一人だとさみしく思う	2年	岩手	名久井勇亮

入 選

フラスコの回れる先の長い針何度も見ても時は動かず
 一年間打ち続けてきたこの一球県大むけて今日も打ちゆく
 日の当たる縁側の端で寝そべってラムネ瓶の光まぶしがる我
 走るとき心臓の音はやくなり映画を見てるかんかくになる
 テスト中静かな時に走るペン書いてる音はこちがよい
 夏休み病に倒れ点滴とテレビカードの数を見る日々
 友達と外に出てきてしゃがみこむあの雲いいねと空を見上げる
 放課後に君と眺めたあの空は恋の仕方教えてくれない
 きゅうりとのいつも勝てない背くらべ悔しまぎれにきゅうりをかじる
 学校のいつもの声やいつもの音こんな「いつも」が思い出になる
 うまかった今日もいえずに洗ってとあれたその手にいつもありがとう
 じいちゃんが汗水流し作ってたトウモロコシがめちゃうくちゃうまい
 無意識に口ずさんでた子守歌耳のおくそこ今も聞こえる
 つかまれようでを差し出すお兄ちゃんわかる電車と私の心
 「カナカナ」とはかなげな声さよならときこえた僕は笑顔で手をふる
 目立たない桜のような木があった南倉庫の裏で見つけた
 キジの声朝早くからうるさいがそれがなければ僕は起きない
 飛んでいけ僕が作った紙飛行機僕の頭上のあの飛行機と
 風光る花衣脱いだ木々たちが呼びかけている「もう、夏だよ。」と
 雪かぶり白い山々見てる時僕の心も白くなるんだ

2年	茨城	中村 武尊	2年	岩手	日野 捺希
2年	茨城	飛田 遥	3年	岩手	菅野 浩人
2年	茨城	多加谷優輝	2年	秋田	秋本 瑞己
2年	茨城	小島聡一郎	2年	秋田	伊藤 祐斗
2年	茨城	梅田 悠杜	2年	秋田	宇佐美翔大
2年	福島	西牧 実々	2年	秋田	佐藤 菜々
2年	福島	戸田 綾音	2年	秋田	藤原 由芽
2年	福島	鈴木 眞優	3年	秋田	藤原 由芽
2年	福島	鈴木 覇斗	3年	秋田	佐藤 美波
2年	福島	齋藤 凜	3年	秋田	佐藤 有我
2年	福島	大賀 凜	2年	福島	有我 和倅

入 選

深夜でもどこか白っぽい天蓋を一つの流星切り裂いた

大会で「メンバーチェンジ6と9」声が響いて足がふるえる

万葉の山々越えて聞えるは親戚達の大爆笑

暑過ぎて外に出るのもいやな午後のらねこ達はどこへ行くのか

田んぼ道借りた自転車風になるおばあちゃん家は緑の向こう

夕焼けが海の下へともぐり込むまた明日ねと手をふるように

青い海上見上げると青い空遠くを見ると青がまじわる

卓球の決勝戦で鳴り響くカコンカコンとピンポン玉が

足もとに火薬の匂い感じればぼたっと落ちる線香花火

街灯に絵をかいていた僕の胸飛び入る虫で飛び散る油

電車乗り駅つき迎えの車で行く祖父母の家は遠い終点

こうこうと部屋を照らす蛍光灯はかなく光る東京の夜

「送信」の二三文字と僕の指先が反発し合う見えぬ遠雷

果て見えぬ無数のビルに囲まれてふと目覚めると稲になりけり

去りぎわの瞳に写るその顔はレンズで見ても雲つかむよう

海越えて姉が去り行き空く部屋で大の字になり外は鳴く虫

まだしらぬ胸の高なるその気持ちいつごろわかる胸の高なり

帰り道友と一緒に川の横我は立っている風にふかれて

綿鯉あたたかな池泳ぎつつ水の外へと飛びはねていく
急激に降り出す雨に負けてない遠くに響く蝉の鳴き声

2年 千葉 服部 正宗

2年 千葉 本名 陸

3年 千葉 北島妃芽菜

1年 東京 鈴木 茉湖

1年 東京 辻岡あるす

1年 東京 日高 徳大

1年 東京 柳下 真以

1年 東京 横田 爽花

2年 東京 土屋 明莉

2年 東京 池松 龍一

2年 東京 磯貝興太郎

2年 東京 岩村 和季

2年 東京 岡川 誠馬

2年 東京 岡部 悠太

2年 東京 加藤 遼

2年 東京 栗並 尚音

2年 東京 佐久間彩華

2年 東京 施 莉沙

2年 東京 高瀬 晶
2年 東京 高橋今日子

入 選

灼熱の夏に毎日チャリを漕ぎ道にいるのは死をとげた虫	2年	東京	高橋	慧
ひろがるよほんでせかいをたびしてゐるしおりとともどこへでもゆけ	2年	東京	田中くるみ	
夕立ちにうたれてかすむ目の前に徐々に近づく君の家	2年	東京	玉木	大智
ロッカーに親父の背中をも語る炎天下で着た塩吹くスーツ	2年	東京	鳥屋尾夏歩	
夕立の静かな公園草むらに羽を濡らしたうすばかげろう	2年	東京	間	建斗
帰り道夕日が沈む坂道を自転車を下り風を感じる	2年	東京	長谷部悠斗	
子供たち寄って見ているアリの列親が呼んでもみんな動かず	2年	東京	林	徹生
弟が泣けばその手にゲーム機をそれが我が家の救生主なり	2年	東京	韓	貴明
発車したドアの窓から線路見るまもなく渋谷線路は暗い	3年	東京	新井	裕貴
夏になりカエルが道路に現れて死ぬな死ぬなと毎日祈る	3年	東京	池辺くる桃	
夏の月見上げてみればふと思う祖父も祖母も見ているのかな	3年	東京	伊藤	瞳
人ゴミにペットボトルがころころとガコツとバリと蹴られ潰され	3年	東京	岩熊	実茅
日に日にと衰えていくこの身体あなたに告げる最後の思い	3年	東京	巖	翔
何も無いのっぺらぼうな荒れた地にわたげふよふよ一つさまよふ	3年	東京	高	華榮
籠めがけ放つシュートの放物線スリーポイント歓声が湧く	3年	東京	塩谷	愛実
蛇口から吹き出す水の一粒にきらりと写る夏の思い出	3年	東京	西村	沙楽
入る風小窓のすきまささらさらと揺れる半袖揺れる髪の毛	3年	東京	宮野仁衣奈	
せみの音が聞こえぬほどの応援に思いをのせて最後の一球	3年	東京	村田	賢洋
山々の中に湖澄みわたり船の形に鳥居が一つ	1年	神奈川	鎌倉	萌瑛
暗黒に星は小さく光るけど僕の心は大きくゆれる	1年	神奈川	牛島	由翔

入 選

皆人が少しその席譲るとき何事もなく地球は回る

体育館たった一つのせんぷうきみんなで涼みまた走り出す

夏の日に大きく咲いた向日葵がいつかみんなの身長を超す

窓を開けカーテンひらり風入る眠り薬が入っているかな

長谷寺のてっぺん登り見る景色色が広がるあじさい畑

先輩が最後の夏を終えたときその時僕らは雨にぬれてた

言おうかな言わないほうがいいのかな「ノー」が怖くて自分を殺した

夏の浜波がうちよせくり返すそんなふうに時間がすぎる

江ノ電の窓にうつるは青い海日ざしとともにうかぶ江ノ島

願い事叶うようにと投げ入れた思いを込めた五十円

白タオル振りまわしたらペンギンが集まってきてシャッターチャンス

見つめれば小さな蕾がついていた枯れて散りそうな紫陽花の花に

はいチーズこっちに気付いたごりらがさ角度もつけてカメラに視線

東京よなめんというや父の声今ぞ来たれよ闘志の泉

暗闇でひもにつるした球体が不気味にゆれるフーコーの振り子

雲一つ無い青空に伸びてゆくスカイツリーに登れなかった

夏の海恋して泳いで物食べてどちらにしても俺の妄想

赤い色近づくたびに広がった視野をこえだす東京タワー

チンアナゴ土の中から顔を出す波と一緒にゆりゆられたり

久しぶり顔も知らぬ祖父の墓静かな墓地にひぐらしは鳴く

1年 神奈川 エリカ・バトシエ

1年 神奈川 高實子わかこ

1年 神奈川 松下 花菜

1年 神奈川 山脇 結心

2年 神奈川 石黒 翔太

2年 神奈川 大嶋鳳玖人

2年 神奈川 鏡 真尋

2年 神奈川 黒川 峻雅

2年 神奈川 齋藤 将偉

2年 神奈川 園田 花那

2年 神奈川 中村 祐太

2年 神奈川 西田 ひな

2年 神奈川 平田 聖奈

2年 神奈川 堀 隆太郎

2年 神奈川 前川 優弥

2年 神奈川 嶺 郁海

2年 神奈川 吉田 歩生

2年 神奈川 吉田 結貴

2年 神奈川 渡部 芙泉

3年 神奈川 秋山 知樹

入 選

朝起きてぐんと伸びてる瓜みたく我の背丈も伸びよと願う
 すんだあお海と空が反射する夏もそろそろ終わる気がする
 青々と茂った山の吐息さえ寒く感じる僕の心

勉強中筆記用具でセツトして叩いてみればこれも打楽器

太陽が照りつけるころビー玉が光をすいこみ宝石になる

一瞬のピストル音で蜃気楼ゆらいだ瞬間百メートル疾走

土の中力を込めるふきのとう土から顔出し空を見上げる

亡き祖父の遠き親族集う夏祖父が繋いだ家族のカタチ

陽を吸ったジーンズたたみ重ねれば温もりほのかに海の匂いす

熱帯夜のエネルギーを溜め伸びていく蔓たち蔓たち天に届けよ

カーテンも扉も閉じて風殺す酷熱の中シャツルを追う夏

厳かに大会時計の電子音鼓動抑えてスタートを待つ

突然のドラムロールに手を止める体育館の屋根の雨音

砂浜に志望校の名刻みつけ八月の波乗り越えてやる

紫陽花にしがすがひとつかがやいて空には虹が住みついていた

おじいさん道に迷った私達に優しく声をかけてくれたね

お互いの全てをぶつけ競いあう日々の努力は嘘をつかない

つらいとき悲しいときの特効薬いつもそばにあるあなたの笑顔

春の風窓を開けたら吹いてきた風を感じて泣きだすあの人

雪の中足跡つくり走ってくけものの姿は厳しさ表す

3年	神奈川	石津	温士
3年	神奈川	大嶋	美羽
3年	神奈川	岡	太一
3年	神奈川	高月	雄大
3年	神奈川	横坂	篤
1年	新潟	赤川	葉南
1年	新潟	後藤	英将
2年	新潟	長尾	百々花
1年	富山	東	優里
1年	富山	伊東	裕李
1年	富山	篠崎	さくら
2年	富山	小林	ひかり
3年	富山	内澤	歩夢
3年	富山	中嶋	宏輝
1年	石川	村田	有希夏
2年	福井	石塚	彩希
2年	福井	古村	聡大
2年	福井	高尾	ナナ
2年	福井	武田	迅玲威
2年	福井	辻井	雅崇

入 選

バッテリー気持ち一つに打ちとろう二人でつくる最高の作品を

水の中ぼやけて見える日の光見える風景明るく眩しい

親戚がみんな帰った大部屋にひとつだけある残された寿司

曲の中輝く華の影になりバンドを支える僕のチューバ

小さかった子猫が少しづつ成長し大きくなって命を増やす

下見るとすき通る水美しい私の足までキレイに見える

「元気か？」と気づかってくれる先生にかけてあげたい劳らいの声

光る川のぞいてみればたくさんのありありとした魚が踊る

ホテル行き疲れてベットにダイビング綺麗なシートぐちゃぐちゃにした

宿題が嫌だと感じ犬を抱く犬の視線がなんか冷たい

コンコンとガラスの窓をたたいたらホワイトタイガー目の前にきた

夜起きて耳をすますと音がする空から落ちたしずくのリズム

ひとめみて私のハートを打ちぬいた花火職人すっぱらしいな

あじさいがゆかたの中で咲いているゲタの音に合わせてゆれる

満開の花が夜空に咲いているこの花散れば受験勉強

快晴の牧草ロール北海道空まで続く一本の道

お盆にてお墓に両手合わせたらお墓がなぜか笑ってみえた

アーチェリー光輝くアルミ矢が的の真ん中射ち抜いていた

私より背だけが高い向日葵とちようちようを見て笑ってました

かねがなるカーンとなってあさがきてことしいちばんきれいなおとだ

2年 福井 飛永 悠真

2年 山梨 猪爪 菜月

2年 長野 神永 大喜

3年 長野 阿部 優春

1年 岐阜 村瀬 怜奈

1年 岐阜 本川 虹花

2年 岐阜 横山 美穂

2年 岐阜 日下部源斗

2年 岐阜 柴田 桃花

2年 岐阜 野田 悠太

2年 岐阜 藤井 望遥

2年 岐阜 山下 彩希

3年 岐阜 国枝 沙季

3年 岐阜 中尾 咲菜

3年 岐阜 和田 朱音

1年 愛知 今尾 聡介

1年 愛知 太田 智貴

1年 愛知 神谷 総映

1年 愛知 北瀬愛理沙

1年 愛知 小山 綾音

入 選

帰り道背を太陽に照らされて共に話した真夏のベンチ

手伝った後に言われるありがとうその一言がただうれしくて

夏の日に入道雲がそびえ立つ空を見ながら泳ぎ切るべく

そよ風がふわつとふくとチリンチリンふうりんなつて音が旅する

電球が照らすばやけた問題集時計の短針3を指してる

僕の番目隠したら十回転声援頼りにスイカを割るぞ

炎天下みんながみんな遊びだすいそがしいのに田植えの祭り

風の中テニスボールをトスアップ空でかさなる夏の太陽

夏が来た始まり告げるアブラゼミツクツクボウシ終わりのチャイム

夏休み音楽響く家の中時間のよう流る音かな

「もういいかい」さがす太陽逃げる月始まりはいつ終わるのはいつ

帰路の途にセミのとまったクスノキに1人立ち寄り涼む夏の日

友達が家に来るかな期待する自転車音でペランダに出る

夏日照りぴしゃつとはねとぶ水の音休むひまなく打ち水を打つ

夏休み豊の上でせい座をし札飛ばし合う百人一首

中央線東海道線山陽線見る間にかわる車窓の眺め

急斜面雪かき分ける足先のこの感覚がやみつきになる

努力して徹夜してまで学べども梅雨に打たれてにじむ0点

先輩の引退の日に泣かないと決めていたけど涙あふれる
低くとびエサを求める鳥を見て下向き帰るとおい家路を

1年	愛知	酒井	自然
1年	愛知	澤田	佳奈
1年	愛知	澤村	俊介
1年	愛知	城美	来来
1年	愛知	竹田	翔一
1年	愛知	田中	我玖
1年	愛知	中江	龍彦
1年	愛知	西口	遼
1年	愛知	西原遼太郎	
1年	愛知	濱千代桐之助	
1年	愛知	原田	もも
1年	愛知	宮崎	順大
1年	愛知	村上	輝磨
1年	愛知	安永	陽向
1年	愛知	山田	真子
1年	愛知	和久田祐希	
2年	愛知	足立	篤紀
2年	愛知	伊藤	麗生
2年	愛知	岩井	咲穂
2年	愛知	小川	駿介

入 選

夕焼けた道に転がる丸石を見つめる瞳あかね色かな

水かけて日向ぼっこして水かけるいつまでも続く水遊び

夏休みプール開きにやって来た水辺に並んだたくさんの足

クローバー花を見つけて摘んでみる匂いは四年生の校庭

夏祭りまだかまだかと君を待つ暗くなる空弾んだ心

部活中砂に汚れし服見ると経験という汚れをぬるよう

どこまでも広がる海をみていたら心の中がきれいになった

花畑黄から紫変わってく大人みたいにおちついている

零時過ぎ闇が濃くなる部屋の中今日もスマホに明りを灯す

帰路につきカバンの口を開く時潮の香りと思い出匂う

飲みこむと芽が生えるよとおばあちゃんすいかを食べてなつかしくなる

あのことと違う色もつ今はもう使っていないテニスラケット

こんなにも眺めているのに深過ぎる君の心と秋の夕日は

日焼けした肌に向かって弟がせんべいみたい笑って見てる

袋から見えてる世界はどんなものくるくるくと回る金魚

夕方の窓の向こうの夕焼けが毎日違って見えてあきない

今日あそぼそんな言葉がなくなつてあつい夏が渴きはじめる

この不安氷のように削れたらどんなに楽になつただろう

お姉ちゃんこれ知ってるかとたずねる子もの知りぼうや小さな博士

夕霧の網膜占めて立ち去らず解の探索ノートの迷路

2年 愛知 片岡 裕貴

2年 愛知 神谷 直穂

2年 愛知 畔柳 優未

2年 愛知 杉浦 弘昌

2年 愛知 所 遥香

2年 愛知 中神 誓也

2年 愛知 中西 唄

2年 愛知 東 結菜

2年 愛知 三野 創正

2年 愛知 山口 悠地

3年 愛知 植田 桃花

3年 愛知 菊地 直希

3年 愛知 小島 竜馬

3年 愛知 後藤 雪乃

3年 愛知 小林 愛佳

3年 愛知 榊原 武寛

3年 愛知 佐瀬 吏

3年 愛知 清水 美妃

3年 愛知 鈴木江利香

3年 愛知 富田孝太郎

入 選

ゆらゆら音色に合わせ波となり私の心が揺れ動いてる

あたたかな風にふかれてゆらゆらとゆめみごちなすずらんの花

ツルレイシ朝日の陰に息をふき今日ものびろと声をかけ合う

自転車を押しながら歩く夏の夜冷たい風が横を過ぎてく

夏休み県外ナンバー多いけどお盆過ぎれば過疎の町なみ

夏休みまだ宿題が終わらないラムネみたいにしゅわっと消えろ

暑すぎて外にでるのもいやな夏ペランダにいるせみのぬげがら

七年の土のベットでねた君の飛びたつ時の晴天の空

満天の瞬くほどの空の星ドンと開いた花で消え去る

暑すぎて電気や水を爆買いだ家計破綻し地球も泣いている

日光が渡し船へと差し込めば人も照らされあなたも照らす

ぼくの声君に向けるが届かずに花火のように消えゆく言葉

水族館屋上の窓のぞいたらまだ人のない海が広がる

プリントの余りで作った紙飛行機高くはばたけ青空をまえ

夏風にゆらりゆらりとゆられます川面の上の一本の吊り橋

巻き貝を拾って詰めた青いビン潮のにおいがかすかに香る

目を閉じて幸せですかと祖父に言う天国にまで届きましたか

カブトムシすいかを食べて強くなり青空高く飛びたっていく

いっそもう連れ出してほしいあの宇宙へ孤独な思いもうしたくない

ねえかあちゃんおたふく風邪になったよとミニトマト頬に騒ぐ妹

3年	愛知	藤原	実紅
3年	愛知	松島	咲和子
3年	愛知	満所	知世
3年	愛知	森	大晟
2年	三重	羽根	正人
2年	大阪	青木	真愛
2年	大阪	秋元	隆秀
2年	大阪	北ノ原	周
2年	大阪	児島	翔太
2年	大阪	山中	智貴
2年	兵庫	岡部	太一
2年	兵庫	玉倉	百萌希
2年	兵庫	土井	開明
2年	兵庫	中島	和俊
2年	兵庫	堀川	智咲
2年	兵庫	宮路	琴羽
2年	奈良	南條	有咲
2年	奈良	三浦	朱羽
2年	奈良	森口	爽
2年	島根	日熊	愛乃

入 選

頭の中数字だらけで何が悪い「好き」と決めるのは私でしょ

暑くても左手に持つラケットを振り続ければ未来が見える

「こうだよ」と先輩たちに言われてもとびきり下手な私の素振り

散歩中歩道に花が咲いていた目立たないけど力強いな

後輩が信じて頼ってくれるけど実は内心不安でいっぱい

かささしてかがんでみても守れない雲の涙はスカートのすそに

暑い中広いグラウンドを走り出す何かつかむぞと見上げる夏の空

教室に響くこの声届くかな嘘と一緒にこぼれた本音

夕焼けの高速道路帰り道ああもう少し居たかったのに

夏の空大きな雲が呼びかける大きな道で一人で歩く

青い空「カキーン」と響く金属音下向きながら面を外した

じめんから赤い炎がバチバチといかりあらわに舞い上がるたき

テスト中睡魔におそわれ夢の中解答用紙おどろきの白さ

新しいながぐつを買った女の子雨雨降れと言いつつ歩く

青々しい葉の間から木漏れ日がキラキラキラリと角なく落ちる

トラックに地域の人の優しさがあふれだしての借り物競走

雨と風銀木犀の木が揺れる甘い匂いを嵐が運ぶ

大縄で気持ち一つにまとめたら掛け声同時動きも同時

走り出す友と一緒に森の中好きなかおりをほのかに感じる
静寂に集まる視線汗ばむ手指揮を合図に空気を変える

2年 島根 安見 樹

1年 広島 井上 拳希

1年 広島 加藤 茉鈴

1年 広島 松下 玲旺

2年 広島 宇津 玲菜

2年 広島 小田 朋佳

2年 広島 上山 さくら

2年 広島 河久保 琳

2年 広島 甲田 創太

2年 広島 真海 紗香

2年 広島 末永 陽大

2年 広島 炭村 唯那

2年 広島 高橋 美羽

2年 広島 竹内 寛貴

2年 広島 福岡 鮎香

2年 広島 松浦 真浩

2年 広島 松田 祐太郎

2年 広島 松村 颯馬

2年 広島 三浦 栞
2年 広島 山本 夏鈴

入 選

帰り道コンクリートがさげんでる気づいてくれぬきずのあとすら

青の中水の感触泡の音塩素の匂いと濡れた前髪

去年までお腹の中にいた君はおもちゃ目がけて突き進みゆく

空たかくうったボールがまいあがり入道ぐもとびこんでいく

柿の木へつるまき上がり枝先にかぼちゃが一つぶらりぶらりと

暑くても必死に生きてるてんとう虫小さい体が大きく見える

夏の朝静かに流れる川のそば川を感じて目を閉じてゆく

春風が夢の一步をおしている旅立つ背中電車通学

ため息がすつと白くなっていく冬の空へとはきだす悩み

部活動走るときより泳ぐとき少しの間魚になった

窓の外のぞいてみれば一年生蟻のようにきびきび動く

夕暮れの明かりのついた病室に待ってる気がする懐かしい祖母

ランニングマシンの上で夢を見たオリンピックで走る自分を

空見れば青い大空目にうつるいやなきもちもなくなりそうだ

あかとんぼわたしをよけてどこいくのすこしさみしいゆうやけのみち

おとうとの笑っている顔見ていたらなぜかこっちも笑ってしまう

日めくりも残り少ないカレンダーもう鳴き出したツクツクボウシ

夕暮れにどろにまみれるユニフォームあしたにむけて最後のノック

久しぶり見た友達が歩いてる婦人みたいなぼうしをかぶって
家族とはけんかするけど誰よりも自分のことを信じてくれる

2年	福岡	森	かな
2年	福岡	松本	琴葉
2年	福岡	牧野	宏紀
2年	福岡	古海	梨央那
2年	福岡	橋詰	優力
2年	福岡	永島	優衣
2年	福岡	川路	貴大
2年	福岡	江崎	武瑠
1年	福岡	有馬	敬人
3年	愛媛	谷口	琉菜
2年	愛媛	村上	良香
2年	愛媛	高本	陽菜
1年	愛媛	稲月	真子
1年	愛媛	池田	丈太郎
3年	徳島	釜谷	駿
2年	山口	西川	輝
1年	山口	佐藤	広忠
3年	広島	庭谷	碧
3年	広島	青木	愛華
2年	広島	横手	晟

入 選

あと少しそう気付いたら大切にしたくなるもの部活と消しごむ

悩み事どうすればいい祖母の言葉シワの数ほど説得力あり

初めてのほのかに甘いりんご飴なぜか子供の頃思い出す

早朝にコケコッコと鳥が鳴くそろそろ空は明け方るとき

水泳だ水に浸かると暴れ出すその光景はナトリウムのように

放課後は試合に向けて猛練習照らし照らされる夕やけと僕

祭りの夜遠目で分かる古き友顔認証とどちらが速い

世界地図日本の近くにいる兎同じポーズでいつまでもいる

先輩とよぶ声をしてふり向けば無邪気に笑う後輩がいる

部活中がんばる君を目で探したぶん私は君のことすき

木の下でほほえむ君とにじむ空「あえなくなるね」ここ秘密基地

「一生一緒」なんて君はいうけれど私がほしいのあなたのぬくもり

思い出すあのきのこと雲忘れないあの叫び声あの血の町を

「五時間目眠いだろうけどがんばろう」先生私はいつもねむたい

山桜花びらが散り新しい若葉を出して未来につなぐ

びっくりだシロツメクサも食べられる昔の人はやっぱりすごい

青空に腹を大きく見せながらゆうゆう泳ぐこいのぼりかな

海面が夏の日差しに照らされて君の横顔まぶしく見える

照れる君赤く染まったその頬は熟れたばかりのさくらんぼのよう
夏げいこ武道館には高らかに竹刀の音と気合の声だ

3年 福岡 磯部 眞子

3年 福岡 井上 瑛菜

1年 佐賀 片山 愛梨

2年 佐賀 宮原明日香

3年 佐賀 朝倉 啓太

3年 佐賀 坂元 悠哉

3年 佐賀 末永 潤成

3年 佐賀 土井 睦美

3年 佐賀 中原 歩美

2年 熊本 村山 珠羽

2年 熊本 橋本 鈴夏

2年 熊本 丸尾 彩華

2年 熊本 山口 月奈

2年 熊本 米 彩加

1年 宮崎 中武 遊南

1年 宮崎 中野 日和

3年 宮崎 濱砂幸太郎

3年 宮崎 宮原 侑生

1年 鹿児島 小川 純聖

1年 鹿児島 杉山 尚平

入 選

追われてるぼくは宿題に追われてる夏終わるまでにげ回るぼく	1年	鹿児島	花木	倫統
どうしたのシユワシユワ溢れ止まらない私の心はサイダーのよう	2年	鹿児島	上野	梨花
プールにて気持ちよさそうあの人は羽をひろげた赤とんぼかな	2年	鹿児島	小田	妃南
窓をあけ涼しげな風あびる夜淡い光が私をみていた	2年	鹿児島	河村	咲
九十九のおばあちゃんにはたくさんのその眼の中には思い出がある	2年	鹿児島	北原	花梨
砂浜で見つけた貝はかけていてきれいな貝は見つからない	2年	鹿児島	清山	大輝
扇風機昔のように使われずほこりをかぶってまわりたがってる	2年	鹿児島	澁谷	紫瑛
涼しさを求め歩いた図書館で一人静かにうたた寝をする	2年	鹿児島	新村	玲央
三回も言わせてくれない流れ星それでも届け私の願い	2年	鹿児島	田中希乃花	
弟がおやすみなさいと目をつぶるとたんに家がしずまりかえる	2年	鹿児島	面田	愛佳
青色の雲ひとつない青空は鮮明に写る写真のごとし	2年	鹿児島	福森	麗桜
野原にて雨があがりて小さな池そこにうつりし青い向日葵	2年	鹿児島	藤崎	心嘉
夏祭り赤く輝くりんごあめ片手に歩く甘いひととき	2年	鹿児島	宮原慎之助	
空に出る雲がふわふわ浮かんでてきれいな青にそまっているよ	2年	鹿児島	吉屋	亜美
遠くまでどちらが飛ぶか競い合う庭のまわりはスイカの畑	3年	鹿児島	安永	悠斗
少しづつ空飛ぶ夢に近づいてまた遠くなりまた前を向く	3年	鹿児島	荒木	蓮
水が飛びゴールへまっすぐ一直線横のライバル見ながら泳ぐ	3年	鹿児島	上水流翔瑛	
ヨーヨーのひもがちぎれて顔に飛ぶ忘れたころにもう一度くる	3年	鹿児島	河北	匠海
放課後の美術室から呼ばれてる碇泊の船仕上げて海へ	3年	鹿児島	佐藤明日香	
公園の静寂破いた噴水が日光浴びて背伸びをしてる	3年	鹿児島	新富	望未

知らぬ間に口から出てる元素記号70番はイッテルビウム

金魚すくい金魚から見た巨人たちほほ笑みながらさらってく

ラインから出そうなボールおいかけてシチマンタルで仲間につなぐ

表では平気なふりをしてるけど本当のことは誰も知らない

ゆらゆらとゆうがに泳ぐ金魚たち私とともにゆられてみたい

夕方に空を仰げば一つだけ風船の影どこか寂しげ

雰囲気が私と似てる柳の芽桜に埋もれ見向きもされず

くるくるり寝そべり回す地球儀にあなたはいつもまあるいままねと

幼い日象のジョウロに見つめられお話かえした水あびの時

誰もいない清流ばかり眺めたら人がいる町なつかしくなる

3年 鹿児島 福田 海輝

3年 鹿児島 藤崎 悠成

2年 沖縄 幸地 仁心

2年 沖縄 宮城あきら

2年 沖縄 屋嘉 明歩

3年 中国 北谷 真業

3年 中国 葛原 悠世

3年 中国 徐 佳可

3年 中国 西川 梅里

3年 中国 二神 絵月

平成29年度 (第19回)

NHK全国俳句大会

ジュニアの部

もくじ

ジュニア大賞	54
学校大賞・学校優秀賞・特別賞	55
●幼児・小学生の部	57
選者のことば 堀本 裕樹	59
特選・秀作	60
入選	64
●中学生の部	81
選者のことば 權 未知子	83
特選・秀作	84
入選	88

ジュニア大賞

◆◆◆ 幼児・小学生の部 ◆◆◆

トンネルはくじらの口の中みたい

東京都トキワ松学園小学校 2年

遠山 紗菜

いもうとがやっと入学してきたよ

福岡県北九州市立長尾小学校 3年

甲斐帆乃花

ひいばあちゃんこの夏ぼくとのりきろう

千葉県成田市立本城小学校 6年

玉置 亮太

ジュニア大賞

◆◆◆ 中学生の部 ◆◆◆

出られない白い迷路夏期講習

埼玉県北本市立東中学校 3年

羽山 一志

髪洗う平方根が消えるまで

愛知県名古屋市長鳴海中学校 3年

高木 咲花

日光に鍛えられてる黒い茄子

愛知県幸田町立南部中学校 3年

稲場 一愛

学校大賞

福島県

会津若松市立一箕小学校

鹿児島県

始良市立重富中学校

特別賞

愛媛県

鬼北町立泉小学校

奈良県

宇陀市立室生中学校

学校優秀賞

岐阜県

関市立倉知小学校

広島県

福山市立御幸小学校

愛知県

安城市立東山中学校

俳句

幼児・小学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

自分だけの感じ方で

堀本 裕樹

たくさんの学校からたくさんの俳句が送られてきて、こんなにみんながんばって俳句を作ってくれたんだなあとうれしく思いました。きっと、五七五と指おりかぞえながら作ってくれたんでしょうね。どうもありがとうございました。

みんなが一生懸命作ってくれた俳句を、ほくも一句一句きちんと見ていきました。俳句を選んでいて「お！いいな」と思わず立ち止まるのは、「へえー、おもしろい感じ方をするな」とか「なるほど！そんなところを見て作ったのか」とか「ああ、作った人の気持ちがよく伝わってくるな」とか、ほくのこころを引きつけてくれる作品です。言い方を変えると、ほかのみんなとはちよつとちがう感じ方をして、ことばにした句がとてもよかつたりするのです。ふしぎですね。そう、俳句はみんなとちがっていいのです。ちがつていたほうが、おもしろいのです。だから、俳句を作るときは、自分だけの感じ方や気持ちを大事にしてほしいなあと思います。

たとえば、特選になった俳句をすこしだけ見てみましょう。

かき氷おなかに雪がふってくる

トンネルはくじらの口の中みたい

ひいばあちゃんこの夏ほくとのりきろう

かき氷の句は、「おなかに雪がふってくる」に「へえー、おもしろい感じ方をするな」と思いました。トンネルの句は、「くじらの口の中みたい」に「なるほど！そんなところを見て作ったのか」と思いました。ひいばあちゃんの句は、「この夏ほくとのりきろう」に「ああ、作った人の気持ちがよく伝わってくるな」と思いました。みんながそれぞれおもしろい感じ方をしてことばにした俳句は、ダイヤモンドみたいにまぶしくかがやくのです。



◆ 堀本 裕樹
ほりもと ゆうき
昭和四十九年和歌山県生まれ。
「いるか句会」主宰、「粹」同人。

◆ 特選

堀本裕樹選

すいかはねみどりいろしただるまさん

広島県安田学園安田小学校 1年 吉富 杏璃

トンネルはくじらの口の中みたい

東京都トキワ松学園小学校 2年 遠山 紗菜

はるのかぜくさのにおいがしてきたよ

岐阜県可児市立今渡北小学校 3年 安宅 智哉

いもうとがやつと入学してきたよ

福岡県北九州市立長尾小学校 3年 甲斐帆乃花

丸くてごろんとしたすいかを「だるまさん」に似ていると思ったのですね。しかもみどりいろのだるまさん。すいかに目を書いてみると、ほんとうにかわいいだるまさんに見えてきそうですね。

いろんな車を飲みこむうす暗いトンネルを「くじらの口の中みたい」と感じたのがおもしろいですね。くじらの大きな口もいろんな生き物を飲みこむので、トンネルに似ているかもしれません。

春風によって、なんだかほっとさせてくれるような「くさのにおい」が流れてきたのです。春の草を「におい」で感じ取ったのがいいですね。最後の「よ」にもやわらかいおどろきがあります。

いもうとが大きくなって同じ学校に入学してきたのです。お姉ちゃん、学校にいもうとがくるのをずっと待っていたのでしょうか。「入学してきたよ」にその気持ちとやさしさが感じられますね。

カブトムシ光のあたる木の上へ

広島県東広島市立三永小学校 4年 山田 浩輝

稲の波ばんだい山はふねみたい

広島県会津若松市立城西小学校 5年 田中 隆一

夏の朝パンも私も小麦色

広島県会津若松市立一箕小学校 5年 平田 梨帆

ひいばあちゃんこの夏ぼくとのりきろう

千葉県成田市立本城小学校 6年 玉置 亮太

かき氷おなかに雪がふってくる

滋賀県草津市立笠縫東小学校 6年 向井沙真咲

手のひらの雪のひとひら空のにおい

愛媛県愛南町立家申小学校 6年 高魚 涼

「光のあたる木の上へ」のぼるカブトムシを森のなかで見つけたのです。カブトムシも光っています。なかなか手がとどかないだけに、よけいにカブトムシをまぶしく感じて見上げているのでしょう。

風にそよぐたくさんの稲穂を「稲の波」という季語でうまく表して、そこにはんだい山を「ふね」のように見て浮かべたのがおもしろいですね。遠くの景色と近くの景色を組み合わせた一句です。

夏の朝のさらさらした日差しの中、パンもおいしそうなお小麦色で、私も日に焼けて小麦色になっています。パンと私をならべたことで詩になりました。小麦色の元気な私の姿も見えてきますね。

暑い夏は、お年寄りにとってつらいものです。ひいばあちゃんもなんだかつらそうです。でも、ぼくとしたらこの夏をのりきれるよ。だいじょうぶ。そんなほくのやさしさが表れた一句です。

かき氷を食べると、おなかが冷たくなりますね。その冷たい感じを「雪がふってくる」と表したのがとてもおもしろかったです。かき氷をひとさじ食べるたびに、雪がふってくるのでしょうか。

雪が降ってきて手のひらに受けました。その「雪のひとひら」に鼻を近づけると、「空のにおい」がしたのです。「空のにおい」はどんなにおいなのでしょう。「ひ」が重なってリズムもいいですね。

◆ 秀作 堀本裕樹選

カマキリがぼくのあたまをさんぽした

東京都みのり幼稚園 4歳 武政 裕也

ふじ山にぼくはなりたいたそらたかし

山梨県 5歳 清水 太智

どうくつにこうもりがいてかぞくかな

福島県会津若松市立一箕小学校 1年 堀越 琉衣

はかまいりそらのじいじとはなしする

埼玉県所沢市立北秋津小学校 1年 近藤 敬太

いもうとがはじめておぼえたすいかのす

兵庫県明石市立明石小学校 1年 野澤 風花

はじめてのうさぎとうばんはるいちばん

愛媛県鬼北町立立泉小学校 1年 松田美優羽

しおをふりスイカにかぶりつくへいわ

秋田県八峰町立峰浜小学校 2年 芦崎 絢音

あついい日はくらげのぼうしかぶりたい

広島県安田学園安田小学校 2年 大坪 優司

トランポリンとべば春風ふいてくる

埼玉県加須市立花崎北小学校 3年 柳井 美桜

青あらし野原ゆらしてつきすすむ

広島県東広島市立西寺西小学校 3年 沖本 健悟

母さんのおこった顔だおにやんま

香川県香川大学教育学部附属高松小学校 3年 小林 俊輝

ボールおっかけどこまでも夏の空

愛媛県愛南町立家串小学校 3年 藤井 愛望

この世界にぼくがたん生山笑う

兵庫県神戸市立稚台小学校 4年 藤涛 英介

バットふるブンといい音汗が飛ぶ

徳島県牟岐町立牟岐小学校 4年 久米 楽人

ぼんかんの葉っぱのうらにいも虫だ

愛媛県西予市立多田小学校 4年 井伊 颯花

回転ずしで食べて飲んで終戦日

愛媛県今治市立桜井小学校 4年 倉田 銀河

じいちゃんとお別れのときにじかかる

福島県会津若松市立一箕小学校 5年 山内 拓斗

春の風八十人のバーベキュー

埼玉県加須市立高柳小学校 5年 植木 梨人

露のとうよいしよよいしよと雪どけて

埼玉県所沢市立安松小学校 5年 遠藤 航生

にげるぼく素手でとる母迷いぜみ

千葉県成田市立本城小学校 5年 石田 智哉

いもうとが顔で食べちゃうかき水

東京都江東区立豊洲北小学校 5年 仙波 京夏

保冷剤じつとみる犬夏に入る

東京都江東区立第六砂町小学校 5年 加藤 叶馬

くわがたに鼻をさされ鼻こする

東京都品川区立京陽小学校 5年 山崎 奏

ふじさんをみながらみんな白い息

岐阜県美濃加茂市立太田小学校 5年 山本 莉世

ヘビトンボ探しつかれてつゆに入る

岐阜県関市立倉知小学校 5年 林 愛友里

秋風が本のページをめくる音

和歌山県新宮市立神倉小学校 5年 福田 咲彩

はつぽんでちょうちんつけママをまつ

佐賀県鳥栖市立弥生が丘小学校 5年 河原 実優

じいちゃんの畑の中は虫の町

埼玉県さいたま市立田島小学校 6年 平田 拓海

暑い日は炭酸水で泳ぎたい

東京都にしみたか学園三鷹市立井口小学校 6年 外山翔一朗

扇子閉じ次の一手に自信あり

広島県安田学園安田小学校 6年 吉本光太郎

ばあちゃんとスイカを食べるカブト虫

愛媛県今治市立桜井小学校 6年 松原 紫音

島々に真珠のようなかのこゆり

長崎県中村グループ 6年 坂口 雄基

入選 北海道

ゆきだるま明日はとけてるとけてない
 よく聞くと花火の音が母の声
 初もう出みんななくつつきあつたかい

青森県

いかのかおとんがっついていていけめんだ
 またあしたジャンプのイルカに手をふるよ
 たこのあし丸いきゅうばんなんこある
 うみがめが大きいしずかにおよいでる
 エイのかおしよんぼりしてるかなしそう
 オオカミウオおそろしいかおでにらめっこ
 かやの中ランプがわりにほたるの光
 ぼくよりもはたらき者のせんぷうき
 おはやしのいつもとちがう友の顔
 ツーベース逆転したよ夏の虹
 夏まつり太この音がひびく街
 宙にまうもみじにひかりぼくも浴び

岩手県

花ふぶき風の乗り物ゆらゆらと
 桜舞い一面ピンク夢の国

宮城県

水そうにわた毛のごとくうく海月
 ぶかぶかりしむ夕日とみずくらげ
 滝修業がんばれたえろおぼうさん
 「また明日」友に手をふる私と芒
 プールぎわ力みなぎる友の声
 あと五分布団恋しき冬の朝

秋田県

やまのぼりおかしみたいにいえならぶ
 いもうえるじょうずとなえがゆれている
 びいだまはらむねおいしくするまほう
 あせまみれきがえて海の音まみれ
 ふうりんがハワイのかぜをよんで鳴る
 すいかわりここだと思地球打つ
 ぼくがさいご満月も入れゆあみする
 いねをうえどろんこまみれごとまみれ
 春の雨地面静かに受けとめる
 アスレチック登って雲の峰を越す
 ぼくと虫じしゃくはじけるようににげ

山形県

こいのほりかぜさんいっぱいたべてるよ
 みずのなかわたしはにんぎよスイスイと

ぼくのゆめまほうのマントでとびたいな
 ほつぺたがおちそうだったよさくらんぼ
 てのひらでさくらははなびらキャッチした
 ヒューとかぜさくらははなびらおでかけだ
 ふゆになれスキーはぼくのともだちだ
 さあぬいでもうぬげないよみずぎあと
 ひまわりはぼくのせをこし空へのび

福島県

なつのそらはばたくとりはずしそう
 ピカピカだおじいちゃんをつくるなす
 なつやすみひまにしているらんどせる
 ペンギンのおつたあとがひかつてる
 おにやんまぼくのめがねとおなじだね
 かたつむりコンクリートでしょくじちゅう
 ゆりのはなりりんなるねなつっぱい
 かぶとむしぼくのしかけにきずいてね
 かぶと虫あにのけんきゆうすすまない
 あさがおが朝から元氣わたしもね
 さといものはっぱであそぶ雨のつぶ
 きゅうり切る中みのまん中花もよう
 たけのこがぐんぐんのびてスカイツリー
 ふくしまの夏のあかつきもも色に

須貝 光我
 松野 千穂
 茂木 愛琉
 山口 里菜
 設楽 奏大
 大木 悠生
 菊地 颯太
 児山 真優
 齋藤有里菜
 坂本 流輝
 佐藤 亜美
 佐藤優唯斗
 平 瑛太
 照井 彩奈
 宮渕 彦光
 遠藤 琳汰
 五ノ井葉菜
 高桑 秀弥
 浅野 惺哉
 石井 子竜
 佐藤 柚妃
 杉 悠成
 気づかないにんじやみたいだ蚊はどこへ
 夕空にみんみんぜみかわたしよぶ
 ばあばよりゆっくりすすむかたつむり
 噴水のまわりでやった一輪車
 キャンプ場テントの中はおばけやしき
 夏の庭へびがいそうでどきどきだ
 夏の朝バイクに乗って風になる
 はかまいいいとこといっしょにそぼのまね
 秋風にのせて飛ばすよホームラン
 夏祭りちよつぴりちがう夜の空
 夏休み片付けてまた片付けて
 にじのうえもうひとりのね自分いる
 夏のシャツせなかに大きな世界地図
 音がなり二階に行って花火見る
 競泳で日ざしまぶしい表賞台
 トマト達日に日に赤い怒り顔
 青蛙ぼくにもぬってよ青の色
 葉桜を上からながめる鶴ヶ城
 墓まいりじいちゃん来る空の上
 オニヤンマ山ゆりの葉で一休み
 まんまるのナスのむらさき反射して
 久々の母の実家に鯉のぼり
 雷の光でにげるカラスの子
 雨あがりレタスの上にかたつむり

茨城県

じいちゃんのをつのていばんかきごうり	1年	内埜 陸	はるかぜがわたしの心ゆらすんだ	2年	上原みなみ
きれいだねにじのぜんぶのいろみえた	1年	片岡 一貴	まんかいのさくらがあたりつめたいね	2年	織原 玲梓
つゆくさはあおいりボンのかくれんぼ	2年	藤本 瑚乎	かきごおりいちごのしるでかざんだよ	2年	加藤 瑛斗
夏やさいほくがきらいなものばかり	2年	冬木 克	風りんが風といっしよに歌ってる	2年	黒澤 昊玄
夏の雨せんたく物が大きすぎ	3年	京谷ひなた	川の中おたまじゃくしの行しんだ	2年	坂本 佑斗
なつやすみひやしちやだめバレーナ	3年	緑川 明衣	なの花のかんむり作ってプレゼント	2年	鈴木 愛彩
ホテル火がわたしの足をてらしてく	5年	浅野 莉緒	ココロとおいしいくりがころがるよ	2年	館山 実佳
るす番のひとりぼっちにせみの声	5年	齋藤 裕太	はがぬけたすいかの中から白いたね	2年	中島 蒼馬
アイスクリーム母の隣でテレビ見て	6年	槇 美安	明日こそ見つけてやるぞカブト虫	2年	馬場 紫臣
			空たかくにげてばかりのモンキちょう	2年	比留間達大
			ぬれうちわ風がおいしいひとりじめ	2年	弘末 大和
			かきごおりやっぱりにてるふじさんと	2年	嶺岸 美桜
			せんこう花火みんなで音をそろえたよ	3年	相嶋 柚希
			川遊び大きなあなを作ったよ	3年	石川 海翔
			川の中小魚たちが矢のようだ	3年	石塚 有翔
			えん日のいそいでにげる金魚たち	3年	緒方 蒼真
			セミの声夜うるさくて二度ねした	3年	木村 真一
			北風がわたしをおしてさそってる	3年	楠 結理那
			ホウセンカとなりのひとははなしすぎ	3年	久保 涼那
			ありさんがいないと思っふんじゃった	3年	久米原日菜子
			おじいちゃん病院を出てうちの夏	3年	小林れいこ
			6月はカエルが葉っぱですわってる	3年	佐山 佳子
			つくしたちぐんぐんのびておまつりだ	3年	澤田 響
			花火がね月といっしよに遊んでる	3年	武井 優奈

栃木県

たいようにおはようと言う夏の朝	3年	川崎 智華			
-----------------	----	-------	--	--	--

群馬県

夏休み一人で料理シェフになる	6年	藤田 歩夢			
----------------	----	-------	--	--	--

埼玉県

ひまわりがおおきなかおでさいてるよ	1年	浅倉 玲那			
うみはなびかぶとむしよりかきごおり	1年	厚木 保乃			
あさがおにつぶつぶあめがふってきたよ	1年	遠藤 弥佳			
ありさんがわたしをみたらかいじゅうだ	1年	柿沼ゆうな			
しゃぼんだまうさがみてたはしゃいでる	1年	佐々木悠人			
かぶとむしゼリーあげたらめがあつた	1年	徳留 優斗			

入 選

ほうせんかぼくのこゆびのつめの色	3年	永澤 佑太	夏の海キラキラ笑顔うつつてる	5年	皆川 陽菜
自転車でふわりとふいた青葉風	3年	蛭田 優花	海開きもぐって見たらりゅうぐう城	5年	宮崎 一平
いぬふぐりどこにいるんだ出ておいで	3年	藤田奈瑠美	雨上がりじのかけらが顔をだす	5年	山田 陽
梅食べてへん顔大会始まりだ	3年	松田 虹香	きえていくどこへ行つたの夏休み	5年	吉田 圭汰
しゃぼん玉中を見てみて新世界	4年	木村 心優	母さんとどっちがあせをかいたろう	6年	足立康太郎
しおひがり貝のさんみゃくたいりょうだ	4年	鈴木 蒼司	教室をバケツが走る春嵐	6年	新井 愛
馬に乗りさくらふぶきの中走る	4年	高山 乃彩	木漏れ日が宇宙に広がる星みたい	6年	柴崎 悟志
あまがえる久しぶりだなぼくの庭	4年	西浦 仁			
いなか道秋にはおじぎすいなほ	4年	村越 栞奈			
ゆかたきてくらやみさがすあの子かな	5年	赤泊 歩	千葉県 ぜんりよくではしつてあたまあせいっぱい	5歳	岩城 琴音
チューリップ何色さくかもめていた	5年	安澤 駿	おはなはねむしといっしょにあそんでる	5歳	近馬 莉桜
夏の海砂浜熱くうごけない	5年	池田 直輝	りょうてでねかえるとバツタつかまえた	6歳	高橋 志歩
潮風とさざなみ光る夏の海	5年	石橋 希花	バツタはねピョンピョンはねたらみずのまえ	6歳	松崎 奏汰
桃がりでがぶつと食べたしるじわり	5年	伊藤 愛唯	チョコバナナあまいかおりの夏まつり	2年	小泉 茉夕
友だちとせんこう花火の競争だ	5年	内田 真央	あさがおは早おきすきだねほくもすき	3年	大久保蒼麻
雨つぶが夏草の上でかがやくよ	5年	荻野 瑠那	雪いっぱいしんとしずまるほくのまち	3年	宮内 柊漣
花火見る妹の目は七色だ	5年	加藤 琉希	紅葉はきれいな色の洋服だ	4年	松本 瑞姫
かき氷いろとりどりの花のよう	5年	関 大輝	からだじゅう産毛生やした夏野菜	4年	飯高 雅喜
シャボン玉自分に向かつて飛んでくる	5年	関塚 月渚	海水浴足にツンツン魚たち	4年	小川 奏大
日がささす空はうっすらラムネ色	5年	園部 綾芽	花火みて家族みんながわらってる	4年	小川 泰輝
はかまいりはかのかもんがかっこいい	5年	内藤 啓太	ハシビロコウちつともうごかず石みたい	4年	海宝 博斗
ひぐらしの声に応える腹の虫	5年	西脇 大地	ながればしつきに見とれて見そこねた	4年	佐野 翔
あたたかく先祖をむかえ盆休み	5年	平岩 茉子	夏山でせせらぎ耳にし眠りけり	5年	笠井日菜乃
青芝をかけぬけるぼくいぎシュート	5年	三浦 侑正	全校の顔を見たらね暑くなる	5年	土井 空未

夏休み夕日を見れば母想う 5年 中山 幸奈
 インゲンの花に雨ふる夏の庭 5年 丸山 響生
 真夜中のコンサートかないなびかり 5年 八塚 彩乃
 箏の音が夏の暑さを和らげる 6年 浅倉 柚希
 ストライクバッターアウトスイカ割り 6年 小林 茉央
 ゆうやけにかえるこどものかげのこる 6年 長坂 颯大

東京都

おなかからはやくできてあそぼうよ 3歳 服部 智弥
 みずのなかだいやもんどがひかつてる 4歳 倉持 珠奈
 あしとれたせみのぬげがらあいたあな 4歳 植村 遥斗
 あつくてねあさがおの葉がこげてるよ 4歳 下川路来未
 かたつむりみずをかけたらこんには 4歳 根岸 喜子
 あさがおは空にきかせるラツパかな 5歳 佐々木雄早
 花火の火わたしのとこまでとんでくる 5歳 根本 由梨
 スイカはねたべてもたべてもたねがでる 5歳 長谷川 魁
 ペンギンがおそろすいすいおよいでた 5歳 服部 真和
 しやしやしやしやせんこうはなびひゅーぽん 6歳 小池 絆
 かたつむりゆつくりあるくにじのうえ 1年 新井 翔大
 ゆうやけがおおきくみえるはしのうえ 1年 いじまきうちろ
 ありたちもかいかいしきのこうしんだ 1年 いしかわともや
 てにすちゅうにゆうどうぐもがながれてく 1年 大熊 丈稀
 こつこつとかえるさんたちなくれんしゅう 1年 小島 真備
 しましまのうみへびでてきたなつのうみ 1年 櫻庭 佑心

なつまつりつったようしぼんでた 1年 田中 豊
 かぶとむしほくにきすしたうれいな 1年 長澤 苾
 みつけたよかにをつったよなつやすみ 1年 藤原 虎鉄
 ベランダでじっとしているアブラゼミ 1年 三田祥太郎
 あみもつてとんぼおいかけすすむほく 1年 毛利 明裕
 およぐためかいすいばんつるつるだ 1年 本村 使命
 かきごおりいろんないろのやまがある 2年 阿部竜之介
 けんすいで入どうぐもにタツチする 2年 岡澤 篤希
 つくしのねあたまはまるいほうしだよ 2年 佐とう小春
 人せいはむねをはるから光るんだ 2年 末岡 礼吏
 あゆ上る上りゆうめざしてつぎつぎと 2年 鈴木 和登
 夏になりこおりをなめるカラコロ口 2年 塚本 萌紗
 かえるくんれいとうみかんだべちゃった 2年 綱島 帝虎
 空まめのかわをむいたら赤ちゃんか 2年 中尾 朱里
 なつやすみキラキラひかるそらのなか 2年 仲野 潤
 クワガタにあみがちかづく気をつけて 2年 西巻 咲
 チューリップあなたとであつたばしょでさく 2年 長谷川 亮
 ホタルたち夜のパレードひらいてる 2年 廣瀬 建伎
 たきながれとりがさえずるあさのひに 2年 山本 悠理
 かたつむりのしのし歩くまんまるい 3年 新谷 龍哉
 入道雲ゴジラ火をふき現われる 3年 石田 実久
 カタツムリあしがあるのにどこにある 3年 石田 優香
 だれがかつせんこう花火かぞくせん 3年 内野 颯太
 すいかわり右だ左だ目が回る 3年 落合 琴美

入 選

こいのぼりうえへしたへとおよいでる	3年	小野田 倅	たまねぎの中身を見ると感動だ	4年	木村 純聖
かぶと虫夜になつたらおおあばれ	3年	片桐 麻緒	かき氷お皿の中で雪がふる	4年	國分 美雲
つかまえたぼうしのなかのアカアカネ	3年	木下稜太郎	海に行きころんでないた夏のおれ	4年	小島 大和
雨がえる空にむかつてとんで行く	3年	後藤さくら	お花みでべんとうにのった花びらだ	4年	小林 礼奈
くものすのほうせきみたいなみずのつぶ	3年	杉浦 祐太	こなゆきが行きさきもなく落ちていく	4年	志田 千明
せみの声がっしょうたいに入りたい	3年	住瀬 美聖	夏の海ググツとしなるカレイ釣り	4年	高田 遼汰
木にのぼるカマキリの木をさがします	3年	巢山 龍生	ゆきだるまゆきふるとみるひょうたんだ	4年	寺田 琉花
せみたちがいのちの糸をつなげてく	3年	高橋 沙彩	放水にまけじと黒部のせみが鳴く	4年	中根 修佑
りんごあめ中のりんごがほう石のよう	3年	立川結莉奈	よるのうみふれたところにながれほし	4年	原田我亥亜
ひまわりにせみが止まるよギンギラと	3年	崔 隼羽	こけの森こけでつるつるころびそう	4年	福田 晴輝
天の川うすく聞こえる水の音	3年	筒井 簾斗	夏休み足りないものを買いに行く	4年	藤野 侑香
せみのこえやまみちのぼるおうえんか	3年	早川 依里	わかくさにリフトで上る大室山	4年	細谷 知南
ガクガクとみんなふるえるプールかな	3年	藤原 温哉	シャボン玉さくらといっしょにおどってる	4年	松本 美咲
すず虫だ秋の足音大きいぞ	3年	舛谷 遥輝	スイカをねねずみみたいにほじくった	4年	水野 歌音
もくもくと入道雲のかいじゅうだ	3年	山形 優依	山キャンプやきマシユマロがこがね色	4年	茂呂 虹汰
すいかわりすいかわれずに目がまわる	4年	青田 龍虎	遠足は三日前からねむれない	4年	吉田 和奏
うどんやで電気ちかちか夏休み	4年	秋山 ゆい	どこまでもつばさをひろげ甲虫	5年	王子えい
かたつむりいつもお家は持ち運び	4年	石原福太郎	富士山が色々な山呼んでいる	5年	池上 一斗
しおひがり海から貝のおくりもの	4年	遠藤 陽瑚	なつまつりにげる金魚とぬれたそで	5年	石井 千結
かき氷一ってきのこらず食べちゃうぞ	4年	大貫ゆめか	夏の空青と白とでえがく地図	5年	石川祥太郎
夏休み一日一日さようなら	4年	粕谷胡々奈	秋の朝 校庭ぬらす雨の息	5年	石田弦乃介
夏休み麦茶を飲むとおちつくな	4年	川畑 清人	暑い日々そのうちとける家の中	5年	奥田 理彩
なつの日に祖母とながめた岩木山	4年	川端さくら	ソーダ水泡のむこうに玻璃の空	5年	金井 大和
かんだかい声がちらばる夏祭り	4年	菊田 優衣	雪だるま夜にこっそり遊んでる	5年	狩野 初音

つの中のよめ取り対決かぶと虫	5年	川島 花音	夏の朝雑草たちとつな引きを	6年	内海 航太
かたつむり見てると私の一歩もおそい	5年	齋藤 優奈	すぐ終わるゲームのような夏休み	6年	榎本 琉佑
ふうりんがきれいになると夏がくる	5年	提箸姫南乃	夏の山引きよせられる川の音	6年	小方 隼人
楽しさは花火とともにまい上がる	5年	佐藤 未理	夏休み海へ向かって砂を蹴る	6年	奥野 美海
組体そうとう立見本はコウモリだ	5年	杉田 珠江	夏の海広い心の持ち主だ	6年	小澤 睦
ひまわりは夏の思いをだきしめる	5年	関 彰広	君の夏私の夏も个性的	6年	落合 桃夕
クーラーの下にみんながならんてる	5年	太刀川 瑠	夕立がシャワーじゃなくて滝修行	6年	小俣 日伽
みつばちがヒマワリかこむカーニバル	5年	立花 春翔	黄金のなみひきおこすすすきの海	6年	唐木 靖典
風がおるみんなつながる一輪車	5年	坪井ちなつ	学校だなのに心は夏休み	6年	菅野 未葵
虫達がアジサイソファーにこしかける	5年	長光 優那	山の中友達笑う鳥笑う	6年	久米 宏果
夏草でしつぽをふんで蛇逃げる	5年	中村 穰	水芭蕉白のカーテン美しい	6年	小坂佐和子
あじさいをつつけば小さな雨がふる	5年	平野 香	夕焼けと山が重なり話してる	6年	佐藤 涼夏
夏休み予定がある日雨が降る	5年	藤井 知憲	夏終りきえゆくせみのさけび声	6年	佐藤 力豊
水着やけ白い水着をきたままだ	5年	前田 花奈	あじさいやためては落ちる雨の音	6年	下田 柚喜
炎天下いつもの道が長くなる	5年	眞鍋 智誠	赤とんぼ稲穂の先を右往左往	6年	菅原 秀太
かたつむり空を見あげて雨を待つ	5年	三代川晴生	虹の橋ふもと目指して走って	6年	谷合 美優
山登り涼しい風につつまれる	5年	山田沙也加	夏祭り射的で五発あたりなし	6年	鳥塚 大夢
せめて来る入道雲の大軍が	5年	山本 隼聖	南風私のぼうしとってつた	6年	中畑 鈴歩
ヨーヨーをふったら海の音がする	5年	渡良井莉苑	名月に手がとどきそうで背のびする	6年	中村 優芽
手をはさむおれがきらいかクワガタよ	6年	廣瀬 郁	ジーパンのすそをめくるは夏木立	6年	奈木 陽香
山の木々新緑めぐり胸開く	6年	安藤 瑚夏	消しゴムの角がまだある新学期	6年	西村 葵
一年生ほとと桜が同じ色	6年	石和田小優莉	ゆうすずみきらめくうみにふねうかぶ	6年	林 直央
赤ライトつながる車夏終わる	6年	井上 司娑	涼風のあたる先にはいろは坂	6年	富士 春香
母の日に先手必勝かたたたき	6年	内山 秋吾	赤とんぼ指をめがけて飛んでくる	6年	三島 円

夕ぐれ時人かげうつる夏の湖

吉池和香奈

油照り南極圏にあこがれる

土岐真愛佳

神奈川県

だいぶつのはなからでるははるのかぜ

寺久保俊太

咲けよ咲け多くの桜咲いてくれ

内藤 潤

白イルカぼくに水かけわらったよ

佐藤 由弥

盆おどりゆかたのバラがおどります

細谷 心菜

まよ中にやごがトンボに大へんしん

中村 亮佑

草原は梅雨が残した玉のあと

峰島 ゆい

うずしおが小さなふねをのみこみそう

松川 実結

夏祭り雲のなみだで水びだし

三好 華花

夏休み何でパパだけ短いの

青山 夏穂

吉野ヶ里古代の風にとんぼ舞う

目黒加理奈

入道雲山と高さをきょう争だ

能條 悠祐

木の上で青葉のしげる大地見る

柳瀬 心優

海ガメを見たこと語る日焼け後

赤枝 湖子

幾千の花びらおどる桜かな

吉川 真由

バラバラと空の宝石秋をよぶ

田村 裕香

せんこう花火ひよこの足と自分の手

吉田紗亜椰

ひまわりの集団行動見事です

寺岡 実優

冬の夜大人の会話分らない

東 凜空

お母さん去年の水着はいらぬ

福田 愛莉

暑い日に梅ほすそ母はあせが出る

岩崎 圭祐

夕すずみゆかたのすそもおどるかな

安藤 和香

おちそうな線こう花火みつめてる

中澤 日哉

藍色に紅のすそ金魚かな

大隅 千咲

ひき山を追ってふきぬく風かおる

岡田 雄聖

夏休みドンドンと止まらない

萱沼 優奈

ギーギーときしむ車輪へ春の風

中山 蓮太

靴箱にビーチサンダル眠りだす

熊山 由麻

参観日問題解く間の青葉風

林 奏

サイダーの泡の数ほど僕の夢

後藤田晃平

雨の音かき消すカエルの大合唱

田山 雄貴

十和田湖に映る真夏の線対称

小石琉璃子

石川県

福井県

脱皮したセミも私も成長中

今野せいら

きゅうりにしおばばばばげんきでる

田邊 絢音

ひまわりも頭を上げる花火かな

佐原 言味

カリカリとせみのぬげがらくだけでく

山口 明奈

電話ごし友の夏負け感じとる

袖本 奏衣

炎天下ピシッとしろよチョココレート

あそこの蝶私にとまれば髪飾り

入選

あそこの蝶私にとまれば髪飾り

常木亜美花

きゅうりにしおばばばばげんきでる

山口 明奈

クワガタがつのをゼリーにつっこんだ
 つくしさんみどりのこなの雨がふる
 母の手は雪がふってもあつたかい
 庭先の土筆はまるではにわのよう

山梨県

はるがきたかぜがどんどんふいてくる
 あきのくもいろんなかたちみえてくる
 ぼくが打つボールがきえた夏休み
 雲達が太陽かくして夏終わり
 夏の空ボールとかさなる厚い雲
 浴衣着て祖母に教わり茶をたてる
 雲ぬけて見降す夏の甲斐の国

長野県

夏休み甘くてすっぱいレモン味
 カブト虫わっせわっせとおしずもう
 どの雲も夏の思い出背負ってる
 人のようとうもろこしがまえならえ
 ながればし空全体を走り出す
 天の川二人はきつと泣いている
 大雪だ今すぐにげる雪だるま

岐阜県

なつまつりおどるとあついつきをみる
 あのバツタつかまえたけどにげたんだ
 雨の日もなきつづけてるせみのこえ
 あきにはねくりがちくちくおこってる
 ふんすいがザーザーとよりあがる
 ふうりんはクラゲのようなかたちだね
 木のかげはとりのすいっばいなんこある
 鳥のすはずしいところできてるんだ
 春の鳥かがやきながらとんでいる
 ススキさんドミノみたいにおれたよ
 夏の雲うさぎの形ほんとうだ
 夏の月遠い空から顔出した
 太陽がパイナップルを照りつける
 とんぼ飛ぶ朝に練習一輪車
 トビゲラといっしょにつかれ五月晴れ
 のんびりと川虫くらす石の下
 赤とんぼ静かにゆれるいねの上
 まどの外白くかがやく夏の雲
 ころもがえ心も少しかわって
 あじさいがしずくとともにかがやいて
 夏の海まぶしい青の空みたい
 風鈴の舌がへらへらゆれている
 あじさいは色ちがいでも大家族

金閣寺一年みたいにピカピカだ 6年 後藤 佑月

えんがわにふうりんの音とすいかの種 6年 志村 美月

昼寝するそう決めたけど眠れない 6年 杉本ひろゆき

だれよりも勇ましくなれ夏となれ 6年 西川 育風

いつまでもまだここにいろかたつむり 6年 古市 有

きらきらの競争するぞ夏の海 6年 森 礼充

静岡県

光追う音に速さを知る花火 6年 高橋 有珠

愛知県

かぶとむしおてらのくぬぎたべにきた 1年 川畑 雄誠

なつやすみおしゃべりいっぱい車の中 2年 半田 慧

バレンタインわたしの家はチョコ工場 3年 大野りんご

すずめの子あおぞらのなみおよいでる 4年 丸山 颯星

富士山をくずしてしまえかき氷 4年 水野 結雅

一歩ずつ三つのなえを植えていく 5年 梅村 歩夢

青田道十時のかねが鳴りひびく 6年 池田 詩音

太陽にえんどうの花照らされる 6年 伊達 百香

青田風十三両の貨物行く 6年 八木 陽菜

せん風機家にいっぱいありすぎる 6年 山田 琴美

ゆび折って季語をさがして青田道 6年 吉岡 優真

滋賀県

なつやすみひこうきのつてまたバスだ 1年 木村 愛斗

きょうしつのかぜのおんがくたのしいな 1年 中島 渚

夏の川かえるがかべにくつついた 2年 尾上 慶

葉山川石にとまった黒トンボ 3年 小西 迅

すいかわり前に進むと海がある 4年 大杉 隆哉

波の音すだれを通し聞こえてる 4年 塚村 朱里

ピンどめのかわりにさくら使います 5年 石田 詩乃

夏日影きつとほくからさけていく 6年 黄 陽飛

桜がねさいたら春のホイッスル 6年 徳田 大輔

うしがえる夜に毎日きいてねる 6年 徳地 美南

京都府

みんみんやとうめいになるもりのなか 1年 神長 龍飛

シノノケルきらきらさかなまんげきよう 1年 清水 大貴

台風はそれて心にやってきた 6年 益永 信敦

大阪府

ゆうだちはかっぱきててもかなわない 1年 伊左治大華

なつやすみにんじんばかりあきたよね 1年 太田 苺花

こわいけどビットばんなら10メートル 1年 原口 葵

えんそくはたくさんあるくたのしいな 2年 金井優莉花

さくらんぼかみのがみのじぶんできたよ 4年 東出 琉苒

ゆりのはなにおいをかぐとこなまみれ 5年 若松さくら

選 入 兵 庫 県

木にとまるせみのぬけがらうごきそう
日と月と横にならべて夏休み
オオムラサキ初夏にはばたき大空へ

はなびしてあかちゃんないたははおこる
かわあそびぼくもさかなもおどります
つのをだしおこっているのかたつむり
たぐぼうといきなりとびうおとんできた
きれいだなおおきなくじらさわりたい
ぬけがらのとなりのセミはおないどし
たいようはひまわりたちのあこがれだ
あさがおがくらげみたいにしぼんでた
せみのこえとおくのきからきこえたよ
かきごおりしろつぶかけてにじのやま
あさがおをおせわするたびげんきがお
すいかわりみんなわくわくなみのおと
かいそうがくらげにみえてあるけない
おまつりでおとなきぶんでラムネのむ
ふわふわのにゆうどうぐものにりたいた
そうめんがつるつるすべるすべりだい
つきみそうよるはつきみてねるのかな
おりづるはへいわをねがってつくるんだ
さくらの木なんかいい見たいいなあ
とびのった魚と一しよにセーリング
花火がねパチパチ言うようたのよう
あつい日はやっぱりうみだこれだよな
水あそび一ぱつドツカン水ふうせん
さくらはね車についちちゃうかわいいな

奈良県

ひざしあびすける緑と子らのかげ
リュックの中にバッタを入れる帰り道
ゴーグルのあとがくつきり始業式
きもだめしおどかすほうもさむけする

梅沢 晴貴
大島 泰斗
片山 和
川越紳一郎
倉田唯依愛
澤田航太郎
西田 光佑
西本 直矢
花田 望愛
平 健翔
福本 康優
藤井 優音
藤永 亜風
溝邊蒼太郎
村上 真菜
山本 和花
今井 りさ
上西 莉羽
岡田 実優
金尾 一生
小畑 美誓
太刀掛拓馬
寺田 蒼甫
西林 彩葉

和歌山県

熱風がふく日の気分お祭りだ
カヌー乗りオールこぐ背に虹かかる

西 愛菜
渡邊 奏和

鳥取県

ここちよい土のふとんで冬眠中

牛尾 海惶

岡山県

車のまど雨つぶびゅーびゅーすべり台
ドツカンと花火がおなかにひびくよる

田中 翔也
守屋 夢

広島県

あさがおにみずやりしたらわらったよ

青木 蘭珠

入 選

かきごおりあじつけないとこおりあじ	2年	林 尚太郎	カーテンが夏風ふくんでパラシュート	3年	山本 未菜
カマキリがカマのおていれするんだよ	2年	平田 航大	カマキリはふ化してすぐはたすけ合う	4年	吉田 陽翔
あかとんぼ田んぼのうえをとんでゆく	2年	藤山 海利	クワガタと日焼けきょう争できそうだ	4年	岩田 葵
あじさいがじぶんのふくとおなじ色	2年	間賀田香江	せみしぐれ朝一番の目ざましだ	4年	内田 桃花
にじがでて草についてる水光る	2年	松長 湊斗	ティーシャツにとまったバツタブローチに	4年	沖廣 小暖
なつのうみきらきらひかるうみのそこ	2年	安恒 絢翔	夏まつりいろんな人にあいさつだ	4年	沖廣 龍樹
めざましはかあさんがわりせみのこえ	2年	山下 恵宥	まいごかなベランダ歩くカブトムシ	4年	川下 乙希
ドンという花火の音は太鼓のよう	3年	赤繁 実紀	かたつむり通った跡は銀の虹	4年	滝沢 謙
おかえりとほんとうろうでお出むかえ	3年	小川 愛乃	紫陽花や水面にうつる空の色	4年	中道 柊介
当たるかなアイスのほうをまたなめる	3年	片山 英	風こない父の後ろにせん風機	4年	半井 拓成
だいどころなつのやさいでいっぱいだ	3年	川上 新多	夏はねえほうせきみたいかがやくよ	4年	浜岡 咲希
雪だるまころころまるめてほらできた	3年	新内 大輝	夏の海くじらに乗ってたびしたい	4年	原 美月
息をのむクマゼミの羽化真夜中に	3年	滝口悠芽子	コスモスがハチといっしょにあそんでる	4年	藤本 観名
セミたちが工事げん場と大合しよう	3年	戸田 光海	暑中みまいいちゃんばあちゃん元気かな	4年	松藤 維央
白ごはんすいかのつけものばばの味	3年	中島夕海菜	わすれてる夏にのこしたことがある	4年	森原 琉聖
せんぶう機風のサーフィンやってみたい	3年	中村庚太郎	すいかわりわったしゅんかん種がでる	4年	山田百合香
こいのぼりかぞくみんなで空およぐ	3年	灰原 舞菓	ナズナの実二つちぎればこいがさく	4年	山本 大翔
夏野さいみんな入るとうまいカレー	3年	福田 力	雨の日に大きなかえるつかまえた	4年	渡辺 彩月
カブト虫今日からぼくがパパになる	3年	福田 玲	もも色の雨ふる頃は梅雨まぢか	5年	今井 亜美
入道雲スカイツリーがつきさした	3年	藤森 秀悟	打ち水で地球のはだをうるおわせ	5年	上向井佑作
ホウセンカぼくもずぶぬれいっしょだね	3年	松永 七音	天の川夜空にひびく水の音	5年	北野 結子
さつまいも 一対一のつな引きだ	3年	松平 蒼大	すいかわり未来に向かっけて前進む	5年	佐々木 恵
はんそでをもっとみじかくできるかな	3年	みや田こうすけ	食べながらどんととけるかきごおり	5年	貞近 佑奈
アサガオはぼくよりずっと早おきだ	3年	山上倅太郎	除夜の鐘日本中にひびいてる	5年	菅原 康介

歴史知る古墳を巡る暑い夏	5年	難波龍之助	ありの行列どこへ行くのかついて行く	2年	吉田 惇記
すいか割り割れたひびき手に残る	5年	森脇 壮志	シャボン玉風でわたしととんでいく	3年	小野 葉月
きんぎよたち小さなプールで泳いでる	6年	出原 月菜	春の風しりとりしながら帰り道	3年	清水 慶織
滝つぼへ目閉じ力んでダイビング	6年	香藤 倅斉	子どもの日しろから見てる行れつを	3年	善福 卓哉
涼しいのうちわとせんすどっちだろう	6年	小城 諒真	東京は人が多くて夏の空	3年	御堂 礼雅
さび付いた弾丸語る盆休み	6年	柴崎 孝允	里帰りさよならかくす夏の星	3年	渡邊 果夢
赤んぼうせみといっしょになきくらべ	6年	島 弘典	つりざおの針がささった雲のみね	4年	伊勢 小葉
早乙女よたいこに合わせて植えていく	6年	藤本 晃太	ふるさとでセミのなきごえほっとする	4年	澤上 航
たくさんの色が畑に夏野菜	6年	溝手奈都子	夕方のせみはひとりで木の根っこ	4年	野村 颯万
朝顔のトランペットで虫起こす	6年	宮川ひより	川こそが夏に行きたくなるどころ	4年	文田 雅崇
海の香に鼻つつかれるテントの中	6年	森脇 優	おしだしで土ひよりの外に友の夏	4年	松井 健太
つゆの日の雨ふりたまるなぞの池	6年	吉本 綾	夏の風なくしたものが見つかった	4年	松原 琉也
山口県			クロッキーカー春の顔はてごわいぞ	4年	山本 竜輝
プールではみずかまきりがスーイスイ	3年	柴田 老樹	じいちゃん家立派に泳ぐこいのぼり	5年	池田 倅太
愛媛県			つかまえてみると金魚が尾で笑う	5年	大森野々花
まえば2ほんぬけてすーすーかぜかおる	1年	稲澤虎太郎	かき氷小さくなくなって入りたい	5年	河原日向乃
はるのくもまるいホワイトチョコレート	1年	岡田 理央	熱帯魚輪をかくようにまわる夜	5年	合田 陽向
じいちゃんのでづくりおやつなつのそら	1年	武田 颯	空の色海に移して夏の朝	5年	白石 結羅
こふででねあいろまぜたよにじひかる	1年	二宮 麻綾	金魚すくい10ぴき取るまでならめっこ	5年	徳永彰太郎
なつまつりひかるおもちゃをかつたんだ	1年	藤原 佑衣	しわしわの手よありがとうぼん休み	5年	藤井 優奈
ゆかたきたいちごのいろのしみひとつ	2年	藤田 彩乃	新学期さくらのじゅうたんお出むかえ	5年	葉師神璃乃
あさのにじ今は読書の時間です	2年	前田 航輝	セミの声体感温度をぐっと上げ	6年	伊藤 杏
			ひまわりが太陽めがけて一直線	6年	河上 仁太

私だけ足をいためた夏祭り
 妹はうきわ私はシュノーケル
 かき氷食べるたんびに休み減る

福岡県
 かぶとむしスイカのたねとごつつんこ
 天じょうにカメムシ二ひき静かにね
 夏のぼくぼうずにしたらみななでる
 祖母の家線香花火さびしげに

高知県

せんぶうきだいじなものごとんでった
 一年生ちようちよがとぶと走りだす
 なるこおどりおどりとあせだらけ
 つばめがね教室の前とんだんだ
 自分のへや見せたくないな大そうじ
 ゆたんぼが冬のいのちになつて
 春風がわたしにしゃべりかけてくる
 口笛をヒューヒューふくと春の音
 たけのこをほったら手がねこげ茶色
 初日の出まつ赤に光り顔てらす
 後夜祭夜はこれからヨッチョレヨ
 とうもろこし家族いっしょに丸かじり
 黒板もみんなといっしょ夏休み
 焼きいもをわるとにおいがあふれでる
 春の風大きな春をつれてくる
 虹の上鳥がとことこ歩いてる
 まどあける春の全てが見えてくる

おひさまがアイスクリームたべちゃった
 なつのうみきらきらひかるすなのつぶ
 ゆうどきはすずしくきれいせみのこえ
 せみさんが生きたい生きたいさけん
 金魚たちたらいのちでおにごっこ
 ホームラン入道雲とまざりあう
 昼にせみ夜の部屋にはああヤモリ
 ありんこがセミを運んで夏終わり
 なつやすみばたばたあけるれいぞうこ
 さようなら六年間の夏休み
 せまつてる入道雲も宿題も
 日が暮れて次の奏者はヒグラシです
 あかあかと空うめつくすあかとんぼ

佐賀県

武田 綺音
 本城 芽生
 増本 紫
 中村 果瑚
 福留 侑良
 松本 麗司
 吉村 伊織
 久禮田京暲
 戸田百詠歌
 谷 穂乃叶
 野村 哲人
 渡邊 春輝
 井上 聡太
 岩見 奏愛
 中内 夏紀
 中島 雅
 福井 一生
 松崎 飛陽
 森澤 博章
 横山 智也

おひさまがアイスクリームたべちゃった
 なつのうみきらきらひかるすなのつぶ
 ゆうどきはすずしくきれいせみのこえ
 せみさんが生きたい生きたいさけん
 金魚たちたらいのちでおにごっこ
 ホームラン入道雲とまざりあう
 昼にせみ夜の部屋にはああヤモリ
 ありんこがセミを運んで夏終わり
 なつやすみばたばたあけるれいぞうこ
 さようなら六年間の夏休み
 せまつてる入道雲も宿題も
 日が暮れて次の奏者はヒグラシです
 あかあかと空うめつくすあかとんぼ

田中 尚斗
 神崎 悠生
 佐伯 優衣
 山口れんよう
 渡邊航太郎
 川崎 優太
 池末 蒼生
 黒田 悠世
 平井 周
 草場 瑞希
 江口 太侑
 田中 心透
 納富 翔英

入選 長崎県

くろあげはくものうえまでいきたいな	5歳	田中よしと
ばすどおりおはないっばいうえました	5歳	浜口 みき
あかちゃんがおもくなつたよねママのおなか	6歳	米沢のどか
きゅうりがねくの字に変身かくれんぼ	2年	川口 美蘭
大空の花火見ながら花火した	2年	杉山瑠侖人
なつやすみゾンビがゆめにでてきたよ	2年	中村 春る
つばめのす一つみつけたつうがくろ	2年	松井 彬
なつのそらそふとくりーむならんでる	2年	村上 優真
びじゅつてんすずしそうな絵かざってる	3年	太田やすと
夏みたいきみはキラキラひかっている	3年	梶原まゆな
れいぞうこ開けたしゅん間おじぞうさん	3年	川口 空
見まもるよあたごのお山夕やけが	3年	田中 じん
時計とねいっしょに鳴った風鈴が	3年	田村 怜大
夏の海海のそこにはたからばこ	3年	ボレンティアなな
ビー玉とにらめっこしてラムネのむ	3年	前田 蒼真
雨上がりいつもとちがうにじの国	3年	山南 海
名ごやじようシャチほこおどる夏の風	3年	横田 碧海
夏休みえんぴつとまらずいそがしい	4年	金田 孝希
青空を見上げていのる原爆忌	4年	立石 瑞季
風鈴が風にゆられてフラダンス	4年	山口 貴生
友達と木にかこまれて山登り	4年	山下 恋
秘密基地頭つつこむ冷蔵庫	5年	小川 和輝
なつのそらせんたくものがいいきもち	5年	下川 孝晟

どこまでもどこまでも泳ぎたい夏休み

一しゅんで体が冷えるきもだめし

コオロギが飛び出て友と追いかける

うちわ手に外に出たけどUターン

夏の海夕日を作る赤い道

すいかわり勇気を出してその一本

カブトムシ毎日人とおにごっこ

ほくだけのひみつの場所で花火見る

夏がきた夕日の浜に一人立つ

天の川願いの音色であふれてる

安富 司馬

升水 恋

富浦 龍起

辻本 未佳

古賀 智也

黒田 朔也

江島 夕葵

川畑 怜

石田 真彩

6年

ジュニア部

石田 真彩

江島 夕葵

川畑 怜

黒田 朔也

古賀 智也

辻本 未佳

富浦 龍起

升水 恋

安富 司馬

金城 凜子

宮崎 結和

柏木 優

益留 輝

桑畑沙紅也

池田 結芽

3年

3年

3年

2年

鹿児島県

ぶどうがりたくさんにとっていもうとへ	2年	大江 真弥
イルカのことずっと見ていたいな夏休み	2年	重信 志虎
かぶとむしみらいへとんでまたくるよ	2年	松村 袴真
ゆらめく水面に遠のくせみの声	4年	菅原 結名
蓮の花笑いながらも色あせる	4年	高橋 凜
すき通るさんごも魚も奄美の海	4年	田原 純
水ぎ着てさっさとすまそう宿題を	5年	多胡 優心
てんとう虫ひとさし指からとんでいく	5年	田口 雅斗
海の中青い世界のぼうけんだ	6年	井上 朝陽

俳句

中学生の部

特選・秀作は学年順都道府県別の掲載です

選者のことば

少しだけ

◆◆◆◆◆
權 未知子

俳句、はいく、ハイク、HAIKU。

いろいろな書き方ができますが、俳句はたった十七の音でできた、世界でもおそらく一番短い詩です。近いうちにユネスコの世界遺産に登録されるかどうかはまだわかりませんが、四季のうつりかわりの中で「今、自分はどこに居るのか」を考えるのもおもしろいですね。

「春の自分」「夏の自分」「秋の自分」「冬の自分」というように、ひとは変わってゆきます。去年の私と今年の私は同じではありません。そして、来年の「私」はおそらくもっと変わっていることでしょう。その、とどまらない自分を一句にしたいだけなら、と願います。

今考えるのは、「冬になり寒くて炬燵から出れない」「冬になり炬燵だ猫は丸くなる」といった、よくありがちな一句から抜け出したいだけのこと。できればご自分のことばで、ご自分の考えで日本の季節を問い直してほしいのです。特殊なことばは要りません。ごく素直に、今住んでいる地域の季節のありかたを見直してほしい、それだけです。

まずは、五七五のかたちにととのえること。その次に「季語って何だろう」と考えてください。少しだけ頑張れば、必ずすばらしい一句が生まれることでしょう。



◆ 權 未知子
か い み ち こ
昭和十五年北海道生まれ。
「群青」共同代表、「銀化」同人。

◆ 特選

權未知子選

喧騒もぼくからも越えた土用波

神奈川県公文国際学園中等部 1年 安井 雄理

出られない白い迷宮夏期講習

埼玉県北本市立東中学校 3年 羽山 一志

悠久の鳥居ぬけたる風涼し

神奈川県平塚市立神田中学校 3年 橋本 奈々

髪洗う平方根が消えるまで

愛知県名古屋市長鳴海中学校 3年 高木 咲花

季語に直接向き合った一句として、記憶されるべき作品である。青春性とともに華やかさも備えた一句である。

学んでもわからない、納得が行かない。それを「白い迷宮」とした作者のセンスの良さにびつくりした。

歴史を秘めた「鳥居」に感嘆している作者の表情が見えてくる。季語のさりげなさも心に残った。

「平方根」の唐突さがいい。何かしら鬱屈した思いを抱えながら髪を洗っている若い人の姿がこの句から見えてくる。

日光に鍛えられてる黒い茄子

愛知県幸田町立南部中学校 3年 稲場 一愛

盆踊り見えざるものを背負ひけり

愛知県東海学園東海中学校 3年 深谷 師行

画用紙の白さがうまり夏終る

広島県広島市立五日市中学校 3年 前濱穂乃香

田水沸く道を急ぎしテスト前

広島県庄原市立庄原中学校 3年 森原 夏綺

汗一粒砂地にはねる墓参り

鹿児島県始良市立重富中学校 3年 木場妃奈子

ソーダ水泡の向こうに桜島

鹿児島県鹿児島市立谷山中学校 3年 江野口真菜

中七がかなりユーモラス。そうか、「茄子」も大変なのだ、この句を読んだ人の多くがうなずくことだろう。

正統派の作品である。死者、もしくは作者の抱える闇を思う時、この句がひしひしと追ってくる。

かならずしも充実した夏だったわけではない。しかし、ともかくにも夏休みは終わった。寂しくて素敵な作品である。

急いだとて結果がそれほど変わるわけではない。それでも作者は急ぐ。切なく、若さあふれる作品である。

季語は二つあるが、それほど気にならない。一族が集ったのだろうか、臨場感あふれる仕上がり的一句となった。

ローカル色あふれる一句。甘くなりがちなこの季語を、ゆつたりと詠んでくれたことにエールを送りたい。

◆ 秀作 權未知子選

本番のホルンのうまく吹けた夏

千葉県君津市立周西南中学校 1年 小川 美桜

サックスに夢を吹きこむ夏休み

東京都目黒区立第七中学校 1年 岡田 桃奈

夏の蝶部活になると現われる

山口県柳井市立柳井西中学校 1年 岩迫 麻衣

ちようちんが照る中選ぶかき氷

山口県柳井市立柳井中学校 1年 村田 凌

寒げいこ踏みこむ足がしびれそう

愛媛県内子町立五十崎中学校 1年 宮岡 俊輔

夏祭り輝いている友と山車

岩手県洋野町立宿戸中学校 2年 石倉 麻音

浮き輪からのぞく君の目輝くよ

岩手県盛岡市立仙北中学校 2年 下野 和奏

髪ゆれる夏の空から誘われて

東京都江東区立東陽中学校 2年 相澤珠莉愛

新宿に木枯らしひとつ乾いた目

東京都海城中学校 2年 河本 祐輝

夕暮れの瞳に映る紅葉かな

東京都板橋区立志村第五中学校 2年 北川 望加

松島の風に吹かれて涼をとる

東京都海城中学校 2年 佐川 大和

夕立後自分を映す水たまり

滋賀県草津市立新堂中学校 2年 杉本 凱琉

遅くまで遊ぶ夏至の日父怖し

奈良県宇陀市立室生中学校 2年 山本 真由

虹の橋故郷の青を包みけり

岩手県三戸市立福岡中学校 3年 坂本 雅季

雪解のゆるると光るしづくかな

秋田県北秋田市立合川中学校 3年 澤藤 翼

時ばかり過ぎて白紙の夏休み

福島県いわき市立玉川中学校 3年 柴田 英治

満月に寄り添い歩く青い猫

栃木県宇都宮短期大学附属中学校 3年 安藤萌々愛

夕立に追われ自転車風となる

埼玉県所沢市立向陽中学校 3年 阿部 真之

冬の暮友と歩けば影ながし

千葉県専修大学松戸中学校 3年 宇田川莉那

自転車を漕いで進めどずっと夏

東京都江戸川区立瑞江第三中学校 3年 谷中 滢奈

風鈴の音さえにごる日差しかな

東京都大田区立大森第六中学校 3年 金子 和史

炎昼やクラス輪になりいただきます

東京都大田区立糎谷中学校 3年 矢野 蒼依

梅雨の朝逆立つ髪をにらみけり

東京都文京区立音羽中学校 3年 渡辺 愛子

涼しき舞台御仏何処におるのやら

神奈川県平塚市立神田中学校 3年 古川 拓途

草原のはじめの一步夏が来る

神奈川県横浜市立上郷中学校 3年 森 碧海

みあげればつららにつきのひかりさす

福井県小浜市立小浜第二中学校 3年 成瀬 奈央

走り出す未熟な僕に青田風

愛知県東海学園東海中学校 3年 井上 蒼良

こいのぼり風に吹かれてよく育つ

三重県亀山市立中部中学校 3年 加藤 優羽

夏休みどこに行くにも野球帽

鳥根県飯南町立頓原中学校 3年 飛田 昇洋

クリスマスケーキを全部食べきれず

広島県広島市立五日市中学校 3年 三力谷勇真

どの人もいそぎ歩くや炎天下

広島県広島市立五日市中学校 3年 石岡 沙樹

恋一つ封印されて落椿

広島県庄原市立庄原中学校 3年 高野 華

選 北海道

入 湖に映るボートと鰯雲 2年 三上 蓮

手袋をわざとつけずに君を待つ 3年 植野 希美

二次関数遠く聞こえるせみの声 3年 大玉 紗名

ぐるぐるの蚊取り線香くせになる 3年 織田 柚希

寒い日に黒板消したら雪落ちた 3年 加藤 洋基

制服にしみつく汗もいとしくて 3年 京家 柚羽

雪だるま子を見る親の顔に似て 3年 斉藤 啓人

夏色のシャツ教室に咲きほこる 3年 佐々木郁菜

夏祭り三十四番はずれくじ 3年 城 龍哉

夕立で洗い流せぬ心覚え 3年 中川 瑞稀

沈みゆく夕焼ぼくの背中押す 3年 与羽 洗介

青森県

水温むブラックバスの口広し 3年 工藤 聖太

暗き海瞳に写る花火かな 3年 神 光太

子のための雪かき汗をめぐいけり 3年 大坂 夢記

春の風思いのままに自転車を 3年 小山内実優

摩天ろうかすんで見える真夏の日 3年 葛西 大樹

花吹雪うつむく人の背中押す 3年 鎌田 唯衣

青空や燕とともに憂鬱よ 3年 川口 能武

走りだす揺れるスカート舞う桜 3年 川浪 凜

雪解けて自転車出して良い朝だ 3年 木村 裕晴

欲しいけど水着買うには足りぬ胸 3年 徳田 愛彩

草原を子がかけまわり春探し 3年 外崎 彩乃

ペンを捨て少し休もう月見かな 3年 橋村 優志

散る桜共に消えてく笑い声 3年 長谷川聖弥音

おばあさん手を土色に田植えかな 3年 三橋さくら

年こしのそばとかねの音体内へ 3年 横山 誠起

岩手県

居待月生まれた夜にも流れ星 1年 瀬川 流星

弟と首をかしげる百合の花 2年 熊谷 深采

雪だるまたくさんつくって大家族 2年 齋藤 愛

草原でトンボも一緒に空を見る 2年 田村 拓夢

星空にすいこまれゆく冬の夜 3年 荒木田里実

かなしみをむねにとけゆくきだるま 3年 五口市堅太

どこへ行く君と見つめたしゃぼん玉 3年 及川 玲奈

僕の目にうつるは君と冬の月 3年 小笠原 芽

つばめらが期待背負いて飛び回り 3年 佐藤丈太郎

風が吹き桜が地獄に落ちていく 3年 高森 大輝

夕風の残る思いを運ぶ風 3年 松岡 奏汰

秋を待つ染まらぬ葉つばがいと美しい 3年 柳本 朔良

宮城県

情熱を物語る空夕焼け色 1年 竹中 咲智

桜ちりさびしさだけがこだまする 3年 福原 ゆり

秋田県

湖に真つ赤な紅葉ハート型	2年	後藤 瑞貴
雨の音聞いて再び朝寝する	2年	吉田 諒太
打ち水で道路がジューっと声上げる	3年	青山 瑞姫
風呂上がり行き着く先はソーダ水	3年	荒谷 大和
花見して目に入るのは粉ばかり	3年	海野 智也
夜光虫影消えるまでおしゃべり中	3年	近江 美咲
草の上寝たくなるのは春のせい	3年	小松 奨
蜂がいる暑さとともに立ちつくす	3年	寺門 風咲
夏の虫働き者の母のよう	3年	長谷部瑠璃
すき間からお山をのぞく青田かな	3年	松岡虎之介
野の花のかけでのんきな蛙かな	3年	松岡龍之介

福島県

綿菓子の甘い風吹く夏の夜	2年	岩澤 瞳
大漁のいわし雲追う潮目海	3年	青木 もも
ソーダ水だるさいっしょにはじけだす	3年	麻生 凜
山の色吹雪の中に消えてゆく	3年	大島 克典
月明りビルの谷間にのまれてく	3年	大竹依茅嘉
五月雨を話術で飛ばす僧侶あり	3年	岡田 梨奈
お気に入りセーターに腕のぼす日々	3年	佐藤 美結
春風よ教えて故郷はいずこ	3年	島尾 陸斗
天の川に見えたけれどところてん	3年	鈴木 翔大
ばらばらと夏風めくる日記帳	3年	鈴木 陽日

茨城県

雲の峰雨のにおいがもう近い	3年	永沼紗矢香
炎天下ぐつとこらえてカメラ見る	3年	物江 隼人
雨上りうす紫の秋の空	3年	山口きらら
いつの間にノートにミミズ五月病	3年	大林 愛礼
たけの子の香りただよう通学路	3年	佐藤 南美
勝ちたくて汗がしみてくグラウンド	3年	須田 陸
氷柱から落ちる水滴空映す	3年	諏訪 怜音
自販機に集まる子供夏告げる	3年	田頭 夏
春風は命を運ぶ郵便屋	3年	富永 藍
縁側に寝る子の側の麦藁帽	3年	中野 佑香
岩肌の日差しあたりて蜥蜴の背	3年	根本 千里
六日ほど野太い蟬のハーモニ	3年	橋本 唯誠
早朝の麦茶飲み干す山の声	3年	宮崎 蒼空
夏祭り子供輝く下駄の音	3年	六笠 未莉

栃木県

風薫る静かにすずむ木の下で	1年	小杉 茉央
風の音にまじりてひびく蟬の声	1年	小杉 茉也
夏祭り獅子が舞い出す寄せ太鼓	1年	鈴木 愛都
夕焼の幼き頃の思い出が	1年	藤田 遙大
冬眠し花の香りをまっっている	1年	星 彩夏
霧雨に身をかくし鳴く時鳥	1年	渡邊 月斗

選 埼玉県

暗闇や夜をかたどる雨蛙	1年	板場 暁洋	会う度に日焼けしたねと笑う君	2年	宮下 遥菜
夏祭り光が照らすりんごあめ	1年	岡安 菜月	新緑の香りうららかむせるよう	2年	山口 桜
夏の風ひじつきながら読書中	1年	佐藤 未歩	帰ろうか鯛の声聞こえたり	2年	山元 真人
朝顔は六倍になった黒い泪	1年	高久 真実	つらくても顔をあげると虹がある	2年	吉野 由夏
噴水の向こうに見えた虹の町	1年	中山 湧太	こくはくが花火の音できえてゆく	2年	渡辺 大智
いとこには手紙じゃなくて甲虫	1年	柳通 陽虎	海水浴波をかぶって笑い合う	2年	綿貫 真南
カブトムシくつの中からこんには	1年	倭 祐里子	風吹いてゆれる心と水の字	3年	荒井 真生
傘持たず稲妻二人に叱られる	2年	荒井 祥己	授業中左を見れば雲の峰	3年	池谷 紀音
夕立があがればきつと夕日さす	2年	井上 諒平	もうひとつプールに映る新世界	3年	碓井 舞生
たくさんの金もくせいさはむがりさん	2年	江口 果穂	ため池に白鷺の声白い山	3年	加藤 裕史
ゼリーよりバナナが好き甲虫	2年	大嶽 裕子	窓の外見ればかがやくボールと汗	3年	北田芳乃香
風鈴の鳴る音聞いて立ち上がる	2年	柿沼 柊維	風鈴の音をきき祖父笑いあい	3年	久米 愛莉
せみの声押せ押せムード応援歌	2年	木村 栄登	雑草がサッカーゴールにはえそむる	3年	坂本 想宙
夕立の風ふき山が泣いている	2年	齋藤 幸乃	ホームラン見上げてみれば雲の峰	3年	高橋まなみ
花火見てはみださんばかりに絵日記へ	2年	坂田 晴紀	夏期講習時計とノートじつと見る	3年	沼田 拓武
風鈴が風の気持ち音を音にする	2年	坂本 力	仏壇のとなりのメロン俺のもの	3年	野口 颯太
夏の空下にまぶしい白い道	2年	田中陽菜子	花火の音私一人で聞いている	3年	肥後莉日子
ドンドンと足おとうるさい花火だな	2年	谷澤 海	塾の窓みんなで眺めた大きな虹	3年	堀井 詩月
帰省する遠くないのうれしいな	2年	田沼 梨香	夏の夜おれん家にたかる蚊の軍勢	3年	松村 圭高
ひぐらしがせつなさの中鳴くのかな	2年	中島 彩華	夏の空飛行機雲の橋かかる	3年	山越 櫻子
口ひらき我が声響く春の山	2年	永野 結大	千葉県		
蟬の声かき消す満塁ホームラン	2年	中山日菜子			
しずかさや空に広がる花火の音	2年	藤田 渚希	かき水あなたの上に飛び乗りたい	1年	市川 結万
			虫たちや魂のせて帰りゆく	1年	渡辺 大雅

入選

東京都

夕焼けが手にとどきそうあと少し	1年	大野 萌音	扇風機首が壊れて夏終わり	1年	北村 葵
灯籠を流して想う祖父と祖母	1年	伊東 樹里	こむぎいろ笑顔たくさんやすみあげ	1年	金 梨亜
飛んで行け夏をふるわす風の矢よ	1年	秋元 梓	夕涼みうちわであおぐやわらかな風	1年	久保野咲桜
五月雨や一人の休日音響く	3年	渡邊 優	明け方の夢によく似た昼の月	1年	西條 妃華
りんご飴喜び映る夏祭り	3年	米山 美優	ひまわり畑かけめぐって恋の落ち	1年	佐藤 咲来
梅雨の空見上げた先に金閣寺	3年	吉澤 柚	湖に天使のようにつる落葉	1年	菅原 春奈
さしかかる伏見稲荷の新緑や	3年	森 朋弘	夏休み時間はどこにいったかしら	1年	菅原 美慧
炎昼の空まで響く応援歌	3年	村越 柚奈	波寄せてジーンズの裾洗わるる	1年	玉井 葉々
数学の問題集はわかめです	3年	林 璃奈	盆踊り心も踊る太鼓の音	1年	富松 星
夕立の空にかがやくまた明日	3年	羽鳥茂瑛斗	夏祭り射的のおばさん優しいな	1年	鳥越 蒼大
くつの穴今年の夏を物語る	3年	武田 優真	家族とのプールはいつも曇ってる	1年	中山 隼輔
会えなくて想いがつのる清水かな	3年	清水 咲希	楽しみは部活終わりの夏の空	1年	林 絢音
春一番階段下で待ちぼうけ	3年	小林 由樹	木から落ち小さくなってく蝉の声	1年	福井 悠人
風薫る東と西の塔二つ	3年	小林愛由香	夏の川自分勝手な光の尾	1年	前園 朱里
演奏会部員の笑顔虹かかる	3年	木戸岡瑠奈	水たまりそつとのぞいて気づく虹	1年	真境名イスラエル
京の日は新緑照らすきらきらと	3年	小野 笑花	並木道セミがポトリぼくヒヤリ	1年	松本 拓実
宿題を始めるまでが蝸牛	3年	岡野 海生	ずつしりと寝ているすいか持ち上げる	1年	三木 彩音
春嵐残る悲しみ散る喜び	3年	遠藤 加菜	サングラス外すと意外に優しそう	1年	山澤 紗良
二歩三歩ざくざく鳴くや霜柱	3年	伊藤 美優	卒業しわたげと共に歩んでく	1年	渡辺 杏菜
塔の下大きな日影に風薫る	3年	鈴木 瑠	穏やかな夕焼け見つめ思い出す	1年	渡邊 妃葵
屋根の上落ちてきそうな大花火	2年	田村 大希	太陽が照りつく滝の水しぶき	2年	鯉坂 健太
入選			ひた走る熱風になる土手の道	2年	阿部 倅大
			夏日記むなしさだけが貼り付いた	2年	安徳慶太郎
			滲む汗エンジン音がうなりだす	2年	池田 航大

こがらしがほくの反抗期冷ましてく	2年	石神健一郎	お祭りのやたいがまちをかがやかす	3年	大芝 晴絵
氷浮く香る 麦茶の黄金色	2年	石野 碧	気づいたら涼しい風が吹いていた	3年	岡田 諒介
夏空とカーブミラーに映る僕	2年	岡川 誠馬	塾帰り 皆を見守る夏の月	3年	奥山 雄大
うちの犬 簾恐くて外向けず	2年	小幡 颯斗	北志賀の晴れ間に仰ぐカシオペア	3年	門脇 諒生
オニヤンマ翅のびやかに風運ぶ	2年	加賀谷 祈	終わりゆく春の日差しもバトンのパスも	3年	川口 樹香
夏の夜廊下の隅に白い影	2年	小松 祐太	ペランダで小さく見える打ち上げ花火	3年	小泉 晴香
みずのなかなにもきこえぬじこせかい	2年	金野 大輝	灯籠で光る街並み風通る	3年	篠田 由帆
風涼しこうもりたちと橋の下	2年	坂井 俊斗	青い空雲が一つもなくていい	3年	芹澤 志美
あじさいをつめたい雨がつつみこむ	2年	野口 健治	夏雲やせまる足音背後から	3年	玉置 絵梨
切っしてするスイカの種の一直線	2年	橋本 陽太	夏休み来年きつと遊べるさ	3年	永井 芙実
暑い日に鳥が大空高く飛ぶ	2年	藤永 栄理	校庭にがんばれの声夏青し	3年	中谷 哲大
冬の朝駅までやっとなと千歩	2年	増岡 晃空	思い出を空にラムネ瓶につめて	3年	野口 紗希
青空へ夏をよびたるほととぎす	2年	矢数俊太郎	夕焼けに向かって走る人の影	3年	弘瀬 さら
香り立つ金犀星の小径かな	3年	西垣 琴音	空に舞う花火見ながら待ち合わせ	3年	福島 美鈴
数学が解けずに悩む夏の空	3年	関戸 慎	真夏の夜床で夢見るものの夢	3年	藤井 柊
波の音砂に埋もれて現実逃避	3年	相原 萌	上ばきを洗って夏の空に干す	3年	前川 秀真
寂しさやただ一匹の蟬が啼き	3年	安部 遼	朝採れの祖母のトマトにかぶりつく	3年	宮崎 志和
熱風の吹き込むバトン此処にあり	3年	伊澤 朋花	寝る食べる勉強勉強夏休み	3年	森谷 老晟
汗拭い地を手をつきし立ち上がる	3年	市村 初実	ソーダ水まぶしくてつい目をつぶる	3年	山口 晴香
暑い中クラスを背負い走り出す	3年	伊藤 羊貴	花火の音どこからだろう追いかけたい	3年	山口 史華
校庭の歓喜の陰に薔薇ゆれて	3年	犬塚 杏子	梅晴れの空飛ぶ鳥の笑い声	3年	山本 明
妹と水鉄砲で勝負する	3年	今井 海音	絵日記の大きくはみだすなすの牛	3年	吉永 唯伽
眠れない夜に一つの蟬の声	3年	伊元 莉菜	楽しさは花火とともに舞い上がる	3年	淀縄智恵美
夏期講習まだまだ残るページ数	3年	薄井 凜	涼風が僕を残して去ってゆく	3年	李 隆輝

神奈川県

夏	夏の伊豆青と緑が混ざり合う	1年	井上 勝詠
夜	夜の空ふと見上げればさそり座が	1年	佐々木駿人
ひまわり	ひまわりの笑顔がとても君に似て	1年	菅 愛紗
初サーブ	初サーブ 蟬の応援背にうけて	1年	住田 終
水鉄砲	水鉄砲やられっぱなし幼子に	1年	高橋 出帆
見上げれば	見上げればダイヤちらばる冬の夜	1年	原 哲清
ごめん	ごめんなさい僕は父の日感謝せず	1年	樋口 結月
背伸び	背伸びして君を探すよ夏祭り	1年	三浦 茜
夏休み	夏休みやる気スイッチ故障中	1年	山口 翔平
青空	青空に吸われ行くよなセミの声	1年	山ノ井皓太
なつやすみ	なつやすみたくくつそうなにわのしば	2年	オルト花葉ティ
夏休み	夏休み 十日前の日記書く	2年	黒田 風沙
花火	花火見て家族のぬくもり感じて	2年	佐々木花空
蟬時雨	蟬時雨久々の母の笑いじわ	2年	佐藤かえで
早咲き	早咲きのコスモスぽつんと道の端	2年	佐藤 隆浩
夏雨	夏雨に濡れつつ古都の重み知る	2年	佐野優太郎
ソーダ	ソーダ水泡の向こうに見える空	2年	諸徳寺祐真
風鈴	風鈴が子供を呼んで涼しげに	2年	植井香菜子
のらね	のらねこのしっぽにとまるあかとんぼ	2年	長崎 来幸
花火	花火みる君の瞳にうつる夏	2年	バンカウ七菜子
声援	声援に背中押されて挑む夏	3年	磯部 巧実
風鈴	風鈴の音鳴り響く嵐山	3年	岡 玲央
学業	学業の神が降り立つ夏の庭	3年	加藤 黎哉

見付けると何故かうれしいセミの殻

熱風や迷子になった金閣寺

夕焼やあつという間に空一面

夏色に輝くお寺金閣寺

朱の鳥居きつねがとおす夏の風

ひまわりに伸びるはずの背うばわれた

片すみに紫陽花かくす京の街

子羊の走る姿は雲のよう

鹿たちの重い足取り夏を見る

金閣の水辺彩るかきつばた

夕焼けに色をなくした鳥の子

明日やろう閉じたテキストと蟬しぐれ

夏の日やきつね迎える赤い門

きじの声丘の上まで響きけり

春風におされ飛びたつわたげかな

涼風と葉の間から東大寺

夕焼けが通り過ぎてく夜残し

細道の緑が香る金閣寺

赤とんぼ優雅に空を泳いでる

夕暮れの空に一匹赤とんぼ

新潟県

照らされて	照らされて飛ぶ夜空の下にまた夜空	2年	風間 晴斗
ほたる	ほたるの飛ぶ夜空の下にまた夜空	1年	酒川 直己

川口 諒子

ズェンバゴン

齋藤 あみ

佐藤きさら

清水 未悠

鈴木友莉香

鈴木 倫璃

高久 直子

武田 唯菜

土屋 怜子

深井 柚李

福田 伊織

藤原 沙衣

松原彪之介

宮澤 真弘

宮脇 理奈

安川 拓海

山川 美咲

山崎 琴乃

脇 ゆうり

選 鯉 幟 子 だ も の 声 に 尾 を ゆ ら す 2 年 高 津 翔
 入 愛 犬 の し つ ぽ が 揺 れ た 初 夏 の 風 3 年 大 橋 な お
 暑 き 夜 を ま ば ら に 照 ら す 螢 か な 3 年 小 堂 辰 真
 海 ぼ や け し た た り 落 ち る 花 火 か な 3 年 芝 ひ ま り
 初 雪 を 知 ら せ る 友 は く ろ ね こ よ 3 年 滝 野 隼 也
 五 月 雨 の 天 を つ ら ぬ く ス カ イ ツ リ ー 3 年 田 原 颯 太
 台 風 は 話 を ち ゃ ん と き か な い ね 3 年 松 山 美 海
 夕 焼 け を あ び て 輝 く ビ ル の 森 3 年 吉 田 幸 誠

富山県

し の び あ る け ど さ く ら ほ ろ ほ ろ と ち る 1 年 東 優 里
 夏 の 風 あ の 日 と 同 じ に お い だ ね 3 年 安 部 莉 奈
 何 ひ と つ 考 え た く な い 夏 の 空 3 年 荒 谷 真 衣 香
 風 船 を 持 っ た ま ま 泣 く 迷 子 か な 3 年 今 井 大 雅
 蟬 の 声 計 算 ミ ス し て 手 が 止 ま る 3 年 菊 地 若 奈
 宿 題 を 濡 ら す 机 上 の ア イ ス テ ィ ー 3 年 中 村 夏 己
 桜 の 枝 分 か れ し 先 の 道 思 ふ 3 年 中 谷 湖 雪
 雨 の に お い 乾 か ず に ま た 蟬 の 声 3 年 山 田 瑠 香

石川県

あ じ さ い や く ら い 気 持 ち に 光 差 す 1 年 鈴 木 穂 香
 す い か 割 り 中 か ら 妖 精 出 て く る か 1 年 相 田 歩 輝
 夏 の 昼 プ ー ル の た め に あ る 時 間 1 年 羽 村 崇 希
 梅 雨 の 日 や い つ し か 空 に 橋 架 か る 1 年 森 絢 香

福井県

大 木 に 魂 宿 り し 木 の 葉 か な 3 年 榎 本 翔
 夏 休 み 夕 日 と と も に 消 え る か な 3 年 柿 本 祐 加
 最 高 裁 向 か っ て 暑 し 道 を 行 く 3 年 加 藤 賢 宜
 中 庭 に 飛 ぶ 影 二 つ 燕 か な 3 年 岸 本 陸 甫

岐阜県

制 服 に 慣 れ て 早 苗 が ま た 育 つ 1 年 安 藤 優 希
 夕 焼 け を 見 て た ら な ぜ か な み だ 出 た 1 年 矢 木 貴 大
 蟬 時 雨 山 に ぶ つ か り こ だ ま す る 2 年 石 原 陸
 点 々 と 思 い 出 浮 か ぶ 螢 か な 3 年 今 井 那 菜
 始 ま り の 心 ま よ わ す 雪 柳 3 年 柿 ケ 野 天 智
 虹 の 橋 温 か い 雨 の 終 わ り 告 げ 3 年 佐 久 間 葵
 オ リ オ ン の 星 を 見 な が ら 寝 よ う か な 3 年 中 島 朱 佑
 横 顔 に 夕 焼 け 浴 び て 美 し や 3 年 野 中 ひ か り
 君 想 う 梅 雨 の 草 木 の 涙 み て 3 年 端 場 龍 輝
 ラ ム ネ を ね 一 口 飲 め ば 風 来 た る 3 年 藤 井 舞
 炎 天 下 精 神 的 に 揺 れ る 日 々 3 年 細 江 康 太

静岡県

夏 の 空 奥 ま で 白 い 白 い 空 1 年 稲 葉 詩 京
 夏 休 み カ バ ン の 中 の 時 止 ま る 1 年 長 島 舜
 雨 や ど り つ ば め の 宿 は 満 室 で す 1 年 藤 嶋 鮎 子

夏祭り地味な私の晴れ舞台
 静かさや一人ひたひた雪の道
 秋近しあたりの空にボール投げ
 風鈴の音色が響く祖母の家
 たんぽぽの綿毛を見つけ手を伸ばす

愛知県

体育を一緒に受けてるあまがえる
 蜂のいる集中できない弓道場
 雪降れば白いうさが飛びはねる
 ラムネのむビーダマの音すずしいな
 ねたる子のひたいの汗やせみしぐれ
 一度だけ渡ってみたい天の川
 ラムネ開けかすかに香る夏の匂い
 ふと見れば机の上にカーネーション
 冬の朝山の向こうで鳥は鳴く
 蚊が飛んで隣の君とハイタッチ
 しゃぼん玉風にふかれて旅に出る
 夏の宿戸外にありし川明かり
 矢の音に蛙の逃げる弓道場
 ブロックのすきまにはまる蛇がいる
 弟の蟬がゴツソリ宝箱
 あの中にラピュタあるかな入道雲
 ゆっくりと入道雲が侵入だ

1年	伏見 菜帆	夏の雲友と二人で観覧車	2年	池松 佳音
1年	堀部 遥花	思い出ができた証拠だ日焼けあと	2年	今村 真依
1年	森 凜華	宿題が終わりあみ戸に蛍かな	2年	梅村 歩香
3年	伏見 志太	夏空と海に畑に小さな我	2年	鏡味 来実
3年	望月 瞳	真夜中にイヤホンで消す蟬時雨	2年	加藤 昇太
1年	稲垣明日花	早起きの蟬に蹴られて起きる朝	2年	小灘 志伸
1年	金子 美優	来てみたがおどっていない盆おどり	2年	三浦 由恵
1年	河野 由奈	最後の夏コートの影が消えてゆく	3年	青木 咲智
1年	倉地 真菜	ひまわりや自信に満ちた人のよう	3年	飯田梨咲子
1年	菅沼 歩己	光る君見上げる私はサングラス	3年	石原なつ美
1年	巢元 美波	ヒマワリの頭下がりてもの悲し	3年	伊藤 怜生
1年	竹内美菜穂	白靴の汚れたままに走り出す	3年	宇地越一貴
1年	長濱 由萌	梅雨時の乗馬体験二人だけ	3年	岡 由愛香
1年	福井 健真	金木犀窓戸に届いた風便り	3年	岡本 将季
1年	藤田 優	扇風機熱風を吐く役立たず	3年	兼田 知紘
1年	古川 陽菜	冷房のきいた部屋にひとりぼっち	3年	川村 瑠美
1年	毛利 友哉	喝采に夢からさめた蟬時雨	3年	栗田 真帆
1年	山本亜姫歩	入道雲鏡のように光る水	3年	小林 愛佳
1年	山本 結貴	なつのうみかがやきてらすかがみかな	3年	小林 勇心
1年	渡邊 真菜	この暑さ私の体大洪水	3年	近藤 里咲
2年	小林 寛至	海面の瞳に映る夏の空	3年	桜井 良樹
2年	青木 佑衣	グランドで入道雲に囲まれる	3年	佐藤 隆道
2年		透き通るラムネの瓶にうつる君	3年	島津 楓花
2年		受験生心はときどき入道雲	3年	杉浦 央副

入選

虹の橋泣きやめばすぐ出てくるよ	3年	杉山 陸樹
太陽と蟬と競り合う受験生	3年	鈴木 志哉
あと一音すべてを込めた僕の夏	3年	宗宮 悠月
金魚玉ながめて眠る平和かな	3年	高津 尊
迎え火は返って欲しい祖父のため	3年	滝川 知輝
そうめんも滑りたいのかスライダー	3年	竹内 愛奈
梅雨明けてさらに輝く命かな	3年	張 夏智
夏まつり君の隣に慣れぬ僕	3年	壺井 貴生
この気持ち砂糖のような結晶で	3年	豊田このみ
卒業式意外なあの子も泣いている	3年	中島 早苗
切りすぎた前髪つまむ始業式	3年	中島 陽登
夜の道浴衣の波をかきわけて	3年	中島 美里
草笛や祖父に教わることで多し	3年	西村 光生
英単語汗と一緒に流れてく	3年	平井 菜結
雲ながれ空とプールはラムネ色	3年	前田 悠吾
汗光り竹刀の先に迷い無し	3年	三浦友里江
ひまわりに元気をもらいさあ勉強	3年	水野 真緒
夏休み目覚まし時計も休暇中	3年	宮下咲智子
涼しさや体に伝わる深呼吸	3年	毛利佐和子
白い肌ラムネに触れて冷えていく	3年	山田 奈月
風ふいて耳をすませば夏の音	3年	渡辺 菜月
冬の陽が応援してるとる試験前	3年	渡辺ほのか

三重県

ふうふうとおでんを冷ます温かさ 3年 松浦 涼

滋賀県

空見れば堂々とした虹がある 1年 伊藤 想
 白一面雪づりの松冬きたる 1年 國枝 咲奈
 花曇教室の固さほぐれだす 1年 澤田 夏樹
 炎天下はたけしごとの祖父のあせ 1年 出口 岳斗
 冬りんごぬすもうとした妹の手 1年 弘山 結
 梅雨の夜静かな家に響く音 2年 太田 遥
 はしゃぐ声ベンチに二つ夏帽子 2年 大塚 彩音
 花曇り不安な気持ちを描写する 2年 岡田 久実
 風吹いてサラサラサラサラ麦の音 2年 木下ひなた
 夏の雨アスファルト焼く匂いする 2年 國分 彩生
 ふわふわともられていくよかき氷 2年 田中 柚吏
 雪ふりて町が魔法にかかろう 2年 堀 結菜
 夏の風ひときわめだつ君のせなか 2年 松本 悠
 夏の色彩落ちゆく花火と消えてゆく 2年 室井 水月
 クリスマス君の心に耳すます 3年 片岡 春香

大阪府

春光る背のびして見るクラス分け 1年 石橋 芽衣
 桜坂もう一枚と母が撮る 1年 吉川 優里
 まひまひの自分の居場所は殻の中 2年 吉川 優里

まひまひの自分の居場所は殻の中

入選

蟻地獄 蟻入れ遊ぶ子どもたち	2年	植田 遙菜	潮風とともに流れる夏の記憶	3年	石飛 大樹
青春もいつかは過ぎて氷水	2年	黒岩木乃香	捕らえられ逃がせと暴れる兜虫	3年	磯野 巧輔
梅雨の日よ弱くなりゆく想いと	2年	水馬沙耶香	川遊びきらっとひかる魚かな	3年	窪田 安莉
向日葵のまぶしさ光る道の隅	2年	大居 咲音	「あたりまえ」その日常が幸せだ	3年	佐藤 柚月
炎昼に遊ぶ子供はもういない	2年	吉村 侑真	夏至の日の五時のチャイムに驚きぬ	3年	杉本 光
風たつやすだれとゆれる影を置く	3年	浅川 夏帆	かぶとむし動じぬ姿勇ましく	3年	仲田 旭希
夏の海 青く瞬く万華鏡	3年	阿部 花音	春近し枝先宿る恋の色	3年	西川 真央
夏の夜の月の光は川の中	3年	中村 竜太	真似をする下手な蟬の声友笑う	3年	原田 結衣
モノクロの少女は笑むや百合の花	3年	芳賀 愛海			
波打ちて想い高まる夏の海	3年	山田 七菜			
兵庫県					
大海に忍者のごとき赤がれい	2年	田中亜胡美	鳥取県		
水族園魚は明るく道は暗い	2年	長井 美晶	ゆずりははすくすく育つ春の中	3年	杠 聖哉
奈良県					
新年の第一声がねむいよう	1年	上山 葉月	照らしだす私の心十六夜に	2年	安部 百華
朝起きて青葉が光るたくましく	1年	園部 歩	制服のすそが揺らめく春一番	2年	小谷 茉央
青い空入道雲が飲みこんだ	1年	廣川 混生	ユニフォーム届かぬ汗のにおいする	3年	石田 赳弥
吹く風に夏の思い出重ねけり	2年	上田 凌丸	蟬の声時がとまりし交差点	3年	今岡美咲希
名も知らぬ草の花の香祖母の庭	2年	鈴木萌乃果	たんぽぽのいのちをつなぐわたぼうし	3年	岩坂 歩
指揮棒を見つめる我らの熱き夏	2年	田村 優花	寒月に重なる吐息雲のよう	3年	岡田 初奈
汗だくの君の背中のおそばにいる	2年	藤井 宏江	「ごめんね」を交わす二人にかかる虹	3年	岡田 日菜乃
先輩と最後に食べたとうもろこし	2年	松本 茉夕	流れ星みんなの心照らす星	3年	小藤 奈都
			うららかやみみをすませば鳶の笛	3年	古和 拓也
			流れ星夜空に祈る風の音	3年	祖田堅一郎
			夏の夜みやげと側の課題の山	3年	坪倉 由那

金風とともに万の神が来る 3年 原 鈴乃 さくら散る私のなにかも散っていく 2年 増子 彩希
 コウモリや月に負けじと光らす目 3年 福岡 青空 雪の上二人の足跡深々と 2年 吉田 百花
 はなびらを風にふかせる桜の木 3年 柳川 百 星月夜静かにまわる万華鏡 3年 荒川 花蓮
 菜の花や光を浴びて伸びるけど 3年 吉賀日菜子 スイカ割りブルーシートにあたる棒 3年 伊井 達樹
 風鈴のガラス越しにみる景色かな 3年 渡辺 あん 水鏡してあじさゐの空の色 3年 泉 翔真
 白球が僕の頭上をこえる夏 3年 今井 祐希
 ツイッターのせてすぐ消すシャボン玉 3年 牛久 恩和
 虹色の声聞こえたら風光る 3年 梅本 栞奈
 蟬達の孤独の歌に耳澄ます 3年 岡崎 もえ
 休みの日感情豊かな夏の空 3年 亀尻 結花
 ゆるやかな坂登りきるすいかずら 3年 倉本明日香
 夕焼に吸い込まれ行く蟬の声 3年 小泉 直斗
 浴衣着る君の姿にほほ熱く 3年 坂野 仁美
 クリスマスサンタは学力届けない 3年 新久保礼一
 バラの町みんなの笑顔集めるよ 3年 杉本祐一朗
 粉雪とぬくもり感じる小さな手 3年 住田 一潤
 手に取った冷蔵庫からの贈り物 3年 園田 万葉
 衣がえ今の自分にさようなら 3年 田部 穂香
 雪道の友の足跡たどって 3年 寺本 汐織
 朝起きて準備するまでかたつむり 3年 内藤 奏音
 いつまでもいっしょにいてね雪だるま 3年 南波 翔汰
 かやぶきの垂水に溶ける空のおお 3年 橋本 柚季
 愛犬と二人の朝は息白し 3年 橋本 露維斗
 汗にじむ背中に送る応援歌 3年 東舎 琴音

岡山県

初めての流れほしみて手をあわす 1年 原田 真宇 虹色の声聞こえたら風光る 3年 梅本 栞奈
 三時間踊り続ける盆の夜 2年 原田 翔宇 蟬達の孤独の歌に耳澄ます 3年 岡崎 もえ
 もちを食えぞう煮に映る僕が言う 2年 山本 誠 休みの日感情豊かな夏の空 3年 亀尻 結花
 言ってほしい私の浴衣かわいいと 3年 衣笠 秀 ゆるやかな坂登りきるすいかずら 3年 倉本明日香
 散る紅葉冬の支度をひっそりと 3年 瀧本 歩美 夕焼に吸い込まれ行く蟬の声 3年 小泉 直斗
 流れてく時間とそうめんすぐすぎる 3年 山本 拳士 浴衣着る君の姿にほほ熱く 3年 坂野 仁美

広島県

ひまわりが太陽めがけて手をのばす 1年 河相 絢佳 バラの町みんなの笑顔集めるよ 3年 杉本祐一朗
 原爆忌とべない鶴を一羽折る 1年 神原 菜緒 粉雪とぬくもり感じる小さな手 3年 住田 一潤
 声援にこえて走る君の汗 1年 高石 敬太 手に取った冷蔵庫からの贈り物 3年 園田 万葉
 汗かくも皆と頑張るボランティア 1年 永田 遥 衣がえ今の自分にさようなら 3年 田部 穂香
 ばあちゃんの元気のまほう心太 1年 水越 真咲 雪道の友の足跡たどって 3年 寺本 汐織
 ふきのとう白い大地に顔を出す 2年 今田 育海 朝起きて準備するまでかたつむり 3年 内藤 奏音
 気が付けば風鈴の音すき通る 2年 河内 星莉 いつまでもいっしょにいてね雪だるま 3年 南波 翔汰
 春風にあなたの姿思い出す 2年 竹本 悠乃 かやぶきの垂水に溶ける空のおお 3年 橋本 柚季
 鹿の子の歩く姿は積み木のように 2年 福原侑一郎 愛犬と二人の朝は息白し 3年 橋本 露維斗

科学式頭の中の小銀河 3年 藤本 大翔
 流星群待って残ったかゆみかな 3年 三好 真琴
 草のにおい風鈴響いた雨上がり 3年 森脇 俊介

山口県

浴衣着てひたいをのせた友の肩 1年 荒堀 秀斗
 白壁にひらひら金魚がおよぎ出す 1年 金田 楓花
 風鈴の音につられて猫が来る 1年 廣政 智葵
 風そよぐ柳井のまちの金魚たち 1年 福田 大翔
 はたおりの音色とともに夏の風 1年 森本 龍矢
 空蟬は始まりつげる役目あり 1年 吉崎 葵
 ヒグラシが鳴くあぜ道を駆ける僕 2年 川崎 誉大
 向日葵の存在感がうらやましい 2年 山部 真子
 夏休み過ぎる早さは風のように 3年 上谷 幸
 弟と両目細めし夏の空 3年 黒木 蓮太
 声援が蟬時雨の中こだまして 3年 奈須 彩葉
 伝えよう僕の気持ちをアサガオで 3年 西富 優香
 門限で心残りの花火かな 3年 藤井 怜奈
 シヤボン玉思ひ届かず割れていく 3年 香井 美樹

徳島県

誰とでも楽しく踊る阿波踊り 3年 繁本 桃香

愛媛県

日焼けした肌の分だけうまくなる 1年 植田 実咲
 おお騒ぎうなぎ焼くまで三時間 1年 祖母井優介
 春風やスズメがうたう屋根の上 1年 沖山 輝大
 昼ご飯「胴一本。」と蠅叩く 1年 小西 雛
 窓側に春風吹けば想う人 1年 鈴木 日向
 炎天下すき間に落ちし十円玉 1年 田中 愛万
 手を合わせ成長見せるお盆かな 1年 日野 主義
 夏祭り屋台のにおい道しるべ 1年 堀田 好美
 起きてすぐ本を手にする夏の朝 2年 大森ほほ美
 うしがえる道の幅とる横綱だ 3年 石田明香里
 更衣タンスの中が明るくいよ 3年 大久保 葵
 グッピーが静かに泳ぐ日曜日 3年 大松 稔於
 あさがおに元気をもらいってきます 3年 沖野 聡美
 畑まで祖母と歩く夏休み 3年 小島 未蘭
 せみの声いつも通りの新学期 3年 上村 萌夏
 真夏の月黒に染まったユニフォーム 3年 武田 陸玖
 窓開けて問題を解く夏の月 3年 土井真那実
 海潜るもうすぐ届くサザエまで 3年 浜中未来翔
 風鈴をわざと鳴らして風を呼ぶ 3年 薬師寺月奈
 終わらないノートに書く字とセミの声 3年 渡辺 香葉

福岡県

なつのよるあせかきながらねむるかな 1年 上原 花望

入選

春風は人との出会い運んでる	1年	兼本 紗希	空蟬は目標散った今日の僕	3年	池田 優太
盆踊り妹の手にぎり輪の中へ	1年	長崎 功弥	鳴かぬ蟬蹴れば去り行く夏の道	3年	上杉 愛海
初夏の頃白かったのにぼくの足	1年	森園 衛人	田植えでもけつきよく最後は泥遊び	3年	大岡 未空
この夏は自分の未来を創造する	2年	河浦 英虎	イケてるぞそうサングラスに教わった	3年	片倉きらら
せみの声体感温度二度上がる	3年	伊罵 直希	耳元で春風優しくささやいた	3年	木下 結希
登り坂夏が過ぎてもまだ続く	3年	内田 結	菜の花を見つめて思うもどかしさ	3年	木村 映舜
たんぽぽが風に吹かれて笑ってる	3年	内野 愛弓	日陰にてしたたり落ちる涙かな	3年	齋藤 凌
弟よなぜ持ち帰る生きたせみ	3年	川上 乃絢	勝てる気が蜃気楼のよう湧き上がる	3年	堤 香凜
コオロギや川におちこむさわの音	3年	木村 幸喜	五月雨の地に響く音眠り聞く	3年	橋本 紗季
窓開けて風鈴鳴らぬ午後三時	3年	古賀美豊子	空蟬が黄昏の空と落ちにけり	3年	宮地亮太郎
田植えする祖父母の姿仲の良き	3年	権藤 遥	紗のかかる薄墨のごとき桜かな	3年	山崎 桜子
積み上げた参考書から夕焼けだ	3年	高山 乃綾	炎昼のましろにうつるコートかな	3年	山脇 大翔
福岡の叩き付けたい暑い夏	3年	谷山 賢志			
ゆうやけがしずんでうみとまじりあう	3年	中島 花音	長崎県		
蟬の羽童心のごとく透き通る	3年	安永 楓哉	稲刈を抜け出し釣りする弟よ	1年	大櫛あすか
			夏の色ぼくの心はさわいでる	1年	湯川 暖
			茜色トンボとボールおいかける	2年	江川 拓実
			空近し盆の夕暮れ観覧車	2年	下垣 陸馬
			やどかりもつよいひざしにへやこもる	2年	濱迫響太郎
			釣り竿の先に居座る赤蜻蛉	3年	大櫛 智弘
			熊本県		
			燈籠が涙のよう流れてく	3年	木村 惇人
			戸をたたき風鈴だけが返事する	3年	富永 美樹
佐賀県					
天山を映す植田の風やさし	1年	江口 葉奈			
夏休み終わりを告げる校舎の鐘	2年	小淵 颯汰			
夏祭りいつもとちがう町がある	2年	田中 寛之			
部活道努力しかない暑い日々	2年	三溝 昭信			
向日葵が夕日に向かってまっすぐと	2年	山口 拓磨			
プールの日するつとすべりはじをかく	2年	山口 瑞貴			
炎昼のグラウンド走る二十二人	3年	朝倉 啓太			

祖母思ひ作文のような暑中見舞い	2年	成田 大河	出校日クーラーなくて顔とける	3年	長谷川京香
やぐら上やさしく波打ち祖母踊る	2年	二階 理菜	水雨から伝わる冷たさ鉄のよう	3年	福永 駿人
見つめてるてんとう虫と指の先	2年	八幡 昇伍	日記帳夏の全ては収まらない	3年	松尾 一汰
白昼の視線をうばう芝一面	2年	福山 桃香	水面には漆黒照らす蛍烏賊	3年	松元 麗蘭
汗映るラッパに気合い吹き込んで	2年	藤崎 琴子	放つ矢に魂入れて夏を射る	3年	向田ゆりか
弟の夏ほうしめがけ走っていく	2年	前田 美咲			
春一番鳥虫獣さそう風	2年	町田しずく	沖縄県		
かに触りああくすぐったい笑い声	2年	宮脇 美空	せんこう花火涙のように落ちていく	1年	仲尾 善朝
やもり達かげでこそそ暗躍中	2年	杜 睦樹	セミの声負けてたまるか俺が勝つ	2年	久場川和真
かたつむり落ちないように持ちこたえ	2年	米山 和博	熊たちがまだ寝ていると山笑う	3年	喜友名隆太
空の川いきいきおよぐ鯉幟	2年	渡 藍琉	慰霊の日祈りの時の涼風よ	3年	米須 翔海
落ち踏まれ怒りをはなつ銀杏か	3年	伊地知聖士	どうしようえんとつがないクリスマス	3年	末吉 敦喜
桜咲くここから始まる物語	3年	伊地知嵩吾	子どもでもやりなおしたい夏がある	3年	塚本アロマモネ
月光が青い世界をつくりだす	3年	上木加津馬	桜散るセーラー服に胸おどる	3年	名嘉凜々花
帰り道ひらひらと雪僕のかた	3年	上野凜太郎	山の木々つぼみたくさん春近し	3年	仲宗根頼希
夏祭り光の中を通りぬける	3年	宇都 遥	蚊のおとがあたまにひびくなつのよる	3年	仲嶺 綾菜
遠くへと想いを馳せた十五の夏	3年	奥 隆彦	みつばちや花にたずねる君の名は	3年	仲村 芽
夏の夜ピアノの音色鳴り響く	3年	上原口理音	底冷えの母の味そ汁身にしみる	3年	西川あいり
ピストルが秋空響いて風をきる	3年	川口 妃	おとうとと二人で食べたかき氷	3年	目取真雄飛
雨の中青いあじさい目を覚ます	3年	清藤 涼平	向日葵と空を見上げて生きてゆく	3年	山城 陸
日没でとんぼの羽が黄金色	3年	鮫島 愛佳			
暗やみをきりさきはじける大花火	3年	猩々えみり			
墓参り祖母の背中にセミとまる	3年	末山陽真梨			
炎天下たて掛けられたボロバット	3年	田村 幸子			

アメリカ

ゆめの 中白川ごうの ゆきけしき 1年 飯味 凜
 なみの音うみがいきてるそのしょうこ 1年 北川 礼奈
 夏の空星が見えるの少し遅い 1年 後藤 真好
 なつやすみまいにちおよぐあさはやく 1年 ハンジエミー

中国

背比べ負けず嫌いなひまわり達 3年 菊池 真緒
 河川敷おたまじゃくしとランドセル 3年 福田 美怜
 風吹けば竜になるかな鯉のぼり 3年 山田 晟叶
 カーネーション母の笑顔も花のよう 3年 横田 未侑

● 審査について ●

今年度のNHK全国短歌・俳句大会ジュニアの部には、多くの作品のご応募がありました。

短歌大会には、三一二校から、一九、九二五首（幼児・小学生四、一三九首、中学生二五、七八六首）。俳句大会には、四六六校から四三、八一一句（幼児一九六句、小学生二二、三三八句、中学生二一、二七七句）もの投稿をいただきました。

第一次審査を、九月十八日、十九日それぞれにNHK学園にて行いました。その結果の入選作品を本選に送りました。

短歌では、佐佐木頼綱先生、佐伯裕子先生、俳句では、堀本裕樹先生、權未知子先生が、選考にあたりました。

学校全体で取り組まれ、応募率が高く、入選率が高い学校・団体へ学校大賞、学校優秀賞を、また、小規模校等で独自の取り組みが見られた学校へ特別賞をお贈りいたしました。

短歌、俳句ともに、選者特選、秀作入賞作品には賞状をお贈りいたします。

平成三十年一月吉日

NHK全国短歌・俳句大会ジュニアの部事務局

一次審査会選者名 (五十音順)

短歌

大沢 優子 (中部短歌)

斎藤 知子 (玉ゆら)

関谷 啓子 (短歌人)

花山 周子 (塔)

嶺野 恵 (未来)

加藤 英彦

佐佐木定綱 (心の花)

中島 裕介 (未来)

平賀富美子 (熾)

山内 頌子 (塔)

俳句

池田 松蓮 (藍生)

川田由美子 (俳句十代・海程)

高勢 祥子 (街)

広渡 詩乃 (栞)

村上 鞆彦 (南風)

石巖 岳 (嘉祥・樵・雪解)

久野真喜恵 (麦)

田口 茉於 (若竹)

宮崎 斗士 (海程)

森下 秋露 (澤)

受賞作品が決まるまで

①作品募集



②一次審査



③本選



入選決定

④最終選考会



特別賞決定

⑤発表 (大会当日)

● 学校の取組み ●

学校からの応募票に記載いただいた「学校の取組み」から抜粋させていただきます。

☆1～3年生の国語の時間で週1時間、表現という時間を設け、色々なテーマや四季折々の俳句や短歌を創作しています。

(西武学園文理小学校 坂尾早紀)

☆毎月児童全員が俳句や短歌を作る。月一回朝会で代表者が発表する(各学年3～4名程度)発表作品は掲示板に貼って児童が鑑賞できるようにしている。

(八王子市立鹿島小学校 源田佐知子)

☆5、6年生では国語の授業で味わったあとに行事の際に一首詠んで皆で鑑賞しあいます。また百人一首にも取り組み、クラスや学年で新年にカルタ大会を開くこともあります。

(カリタス小学校 柳澤淳子)

☆地域の講師の方を招き、親子で参加する親子短歌教室を開催し贈答歌を中心に短歌を学んでいる。親子で取り組みむことで学校だけでなく家庭でも短歌に触れるきっかけとなるよい機会となっている。(郡上市立那留小学校 鈴木なつみ)

☆2年生は初めて短歌に取り組みました。お気に入りの日記を57577のリズムに書きかえてみました。「うわ楽しい」と喜んで活動しました。(白石町立北明小学校 渡邊陽子)

☆俳句を中心に取り組んできましたが、もう少し字数があれば…という子ども達の意欲を聞いて本年度より短歌に取り組み始めてみました。(始良市立重富小学校 川畑しのぶ)

☆俳句・短歌を毎回授業に取り入れて数年たちますが、先日の「NHK俳句」の中で、俳人の先生が「国語の授業はインプットだけでなく、アウトプットの時間を設けることが大切だ」と話されているのを聞き、励みになりました。「継続は力なり」で、子供たちも自然に表現技法を使ったりして早く作れるようになっていきます。また、身近に入賞者が出ると、ますます意欲的に作るようになります。

(ワシントン日本語学校(小学校) 辻川扶紀)

☆身近な自然や体験を題材に一瞬の心の動きや、じっくり深めた自分の思いを短歌のリズムで表現しようと2学年全員で取り組みました。学級で読み合った後、廊下に掲示し全校で楽しんでいきます。(佐野市立北中学校 嶋田宏美)

☆教科書に「近代の短歌」という教材があります。三十一音という少ない音の中ですてきな言葉を発見しました。心を研ぎ澄まし、言葉を選びながら作る短歌のおもしろさになんが夢中になりました。(白井市立南山中学校 山口裕子)

☆全校で朝の学習の時間帯に、また国語の学習時に取り組みんでいます。(南砺市立井口中学校 細川祐一)

☆輝く学校づくり「言葉磨き、心磨き」として短歌作りに力

を入れています。(東海市立加木屋中学校 長谷川香緒里)

☆2年生、短歌の学習のまとめとして歌を作りました。授業では教科書掲載の短歌だけでなく現代短歌や小中学生の短歌も数多く紹介しました。作歌にあたってはさまざまな表現の工夫やブツ切れにならないようなリズムの工夫、説明しすぎないことなどを指導しました。生徒は意欲的にとりくむことができました。(南伊勢町立南勢中学校 山川晃史)

☆短歌の好きな生徒、俳句の好きな生徒、子どもたちの様々な感性が短い言葉にまつて楽しいです。

(庄原市立比和中学校 松島千加)

☆卒業や帰国が迫る中学2年生。日本全国から集まり、また離れていく最後の夏です。異国の地での気付き、いつもと違う目で見た日本。何気なく通り過ぎていくものに焦点をあてて創作しました。(上海日本人学校浦東校 山口 聡)

☆3年生から6年生の書写の時間を活用して俳句作りを行っています。子どもたちの言葉に対する取り組みとして実施しています。子どもたちも指を折って楽しみながら句作しています。(青森市立合浦小学校 森 寛二)

☆国語の授業で俳句を学習した後は五・七・五のリズムに楽しさを覚えたようです。普段の何気ないおしゃべりの中で言葉あそびのように俳句をつくるようになりました。季語についてでもさらに深めていけるといいと思っています。

(聖ドミニコ学院小学校 船越美佳子)

☆日常生活や行事の時などいつでも俳句に思いを表現できるように、全校一人一人が自分用の俳句手帳を持ちつつつづいていきます。また行事として「俳句道場」を行いふるさとの自然の中で俳句をつくる活動をしました。

(八峰町立峰浜小学校 赤塚麻由)

☆全校で俳句づくりに取り組む伝統があります。その時々々の季節を背景に自分の生活や心を俳句に表現できるよう、年間を通して学習しています。

(会津若松市立二箕小学校 佐瀬智子)

☆本校では、全校児童で「みなみちゃん俳句会」と題し、4年目の取り組みとなりました。季節ごとの俳句用紙を活用し、言葉を通して日本の四季を感じながら俳句づくりを楽しんでいます。また、児童代表委員会で俳句の選考会を実施して昼の放送で紹介をしています。

(羽生市立羽生南小学校 田沼正子)

☆校長先生が季節毎に例示してくれる季語を参考にしながら、昨年度より全校で俳句作りに取り組んでいる。本年度は、全校児童が作った句から、各自好きな句を決める選句会も行った。俳句の心地よいリズムを感じたり言葉を吟詠したりし、子供たちにとって俳句が身近な存在となってきた。楽しく自由に作ることができている。

(岡崎市立恵田小学校 原田帆波)

☆本校では自分の思いを自分の言葉で表現できる子をめざし、その取り組みの1つに俳句づくりがあります。子供たちは毎日自由に俳句を作り応募箱に作った俳句を投稿します。その中から毎月校長先生賞を選び表彰しています。毎月1000近くの応募があります。

(福山市立御幸小学校 桑田美穂子)

☆毎月、全校で俳句づくりに取り組んでいます。月に1回俳句集会を行い、各学年の代表児童が俳句を発表し、意見や感想を交流し合います。(鬼北町立泉小学校 森田志穂)

☆俳句は2学年で取り組みました。前年の優秀作品をみんなで勉強したり、1つの作品をなんども推敲したりして作りました。少しずつですがみんな俳句が好きになってきました。うです。(加須市立北川辺中学校 白神朝樹)

☆全校で取り組みをしています。行事や休みごとに俳句を考え、練り直し、選句会を開き「豊かな感性」をみがく取り組みをしています。(東大阪市立石切中学校 山本篤志)

☆春夏秋冬季節の移ろい、ふるさと柳井に育つ若い感性の中、学生みんなの互いの作品を授業や行事、夏や冬の休みに文化祭にと楽しみながら味わっています。

(柳井市立柳井中学校 有海洋子)

☆石田波郷生誕の地で俳句のさかんな地のため、月1回全校

で俳句会をおこなっています。全校生が一句投句し、それを全教員で選句、入賞者を決めます。

(松山市立垣生中学校 北岡典子)

☆学校全体で俳句活動に取り組んでいます。週1回、朝自習の時間にお互いの俳句を発表し、推敲します。

(五島市立久賀中学校 尾下絵里)

☆小学校の頃から取り組んでいます。西米良村は自然豊かで、その中でこのびのびと育っている子どもたちの俳句には日本の原風景が残っているようです。ことばやふるさとを大事に思っしてほしいという願いから定期的に俳句を創る時間を設けています。(西米良村立西米良中学校 戸上由美)

☆全校生徒、夏休みの課題で取り組みました。また、授業では実際に外で五感を使いながらの俳句作りに努めています。

(肝付町立岸良中学校 馬庭光代)

☆毎週授業の15分を創作活動に当てています。日本語能力や日本体験の個人差が大きい本校では、俳句は、漢字や文法ルールも緩やかで取り組みやすく、各自の経験と感性を活かしながら作れるので、クラス全員落ちこぼれることなく、参加できています。日本語学習の意欲付けに役立っています。

(ワシントン日本語学校(中学校) 辻川扶紀)

平成29年度NHK全国短歌・俳句大会

ジュニアの部参加校名・団体一覧

(都道府県内順不同)

北海道

- 小樽市立潮見台小学校 (俳句)
- 小樽市立最上小学校 (俳句)
- 美唄市立中央小学校 (短歌)
- 富良野市立布部小学校 (短歌・俳句)
- 遠別町立遠別小学校 (俳句)
- 札幌市立幌東中学校 (短歌・俳句)
- 札幌市立明園中学校 (短歌・俳句)
- 北見市立光西中学校 (俳句)
- 網走市立第三中学校 (俳句)
- 士別市立士別中学校 (短歌)

青森県

- 青森市立合浦小学校 (俳句)
- 三沢市立木崎野小学校 (短歌・俳句)
- 十和田市立高清水小学校 (俳句)
- 平川市立金田小学校 (短歌・俳句)
- 八戸市立明治小学校 (短歌・俳句)
- 六戸町立六戸小学校 (俳句)
- 野辺地町立野辺地小学校 (俳句)
- 青森市立浪打中学校 (短歌・俳句)
- 三沢市立堀口中学校 (短歌)
- 三沢市立第一中学校 (短歌・俳句)
- 五所川原市立五所川原第一中学校 (短歌・俳句)
- つがる市立柏中学校 (短歌・俳句)
- つがる市立木造中学校 (俳句)

岩手県

- 岩手大学教育学部附属小学校 (短歌・俳句)
- 山田町立大沢小学校 (短歌・俳句)

盛岡市立仙北中学校

- 盛岡市立仙北中学校 (短歌・俳句)
- 奥州市立江刺南中学校 (短歌・俳句)
- 釜石市立唐丹中学校 (短歌・俳句)
- 宮古市立重茂中学校 (短歌・俳句)
- 岩手町立川口中学校 (短歌・俳句)
- 二戸市立福岡中学校 (短歌・俳句)
- 洋野町立宿戸中学校 (短歌・俳句)
- 久慈市立山形中学校 (短歌・俳句)
- 西和賀町立沢内中学校 (短歌)

宮城県

- 聖ドミニコ学院小学校 (短歌・俳句)
- 仙台白百合学園小学校 (俳句)
- 仙台市立連坊小路小学校 (俳句)
- 東松島市立矢本第一中学校 (俳句)
- 仙台市立高森中学校 (短歌・俳句)
- 仙台市立六郷中学校 (短歌・俳句)
- 栗原市立栗原西中学校 (短歌)
- 岩沼市立岩沼中学校 (短歌・俳句)
- 古川学園中学校 (短歌・俳句)

秋田県

- 八峰町立峰浜小学校 (俳句)
- 秋田市立秋田北中学校 (短歌・俳句)
- 湯沢市立皆瀬中学校 (短歌・俳句)
- 湯沢市立湯沢南中学校 (短歌・俳句)
- 三種町立八竜中学校 (俳句)
- 北秋田市立合川中学校 (短歌・俳句)

山形県

- 白鷹会 よつばこども園 (俳句)
- 白鷹会 愛真こども園 (俳句)
- 米沢市立六郷小学校 (短歌・俳句)
- 飯豊町立手ノ子小学校 (俳句)

福島県

- 桜の聖母学院小学校 (短歌・俳句)
- 会津若松市立一箕小学校 (俳句)
- 会津若松市立城西小学校 (俳句)
- 福島市立立子山中学校 (俳句)
- 福島市立西信中学校 (短歌)
- 須賀川市立第三中学校 (短歌)
- 石川町立石川中学校 (短歌・俳句)
- 平田村立ひらた清風中学校 (短歌)
- 会津若松市立一箕中学校 (俳句)
- 会津若松市立第六中学校 (俳句)
- いわき市立玉川中学校 (短歌・俳句)

茨城県

- 稲敷市立古渡小学校 (俳句)
- 龍ヶ崎市立大宮小学校 (短歌・俳句)
- 下妻市立高道祖小学校 (短歌)
- 潮来市立牛堀小学校 (短歌・俳句)
- 行方市立麻生小学校 (短歌・俳句)
- リリー文化学園 リリーベル小学校 (短歌・俳句)
- 常陸太田市立郡戸小学校 (短歌・俳句)
- 常陸大宮市立山方小学校 (短歌・俳句)
- 江戸川学園 取手中学校 (短歌・俳句)
- 常陸太田市立峰山中学校 (短歌・俳句)

栃木県

宇都宮市立西原小学校 (俳句)
宇都宮短期大学附属中学校 (俳句)
日光市立湯西川中学校 (短歌俳句)
大田原市立野崎中学校 (短歌俳句)
佐野市立北中学校 (短歌)

群馬県

神流町立万場小学校 (短歌俳句)
前橋市立月田小学校 (短歌俳句)
前橋市立東小学校 (短歌)
東吾妻町立岩島小学校 (短歌俳句)
伊勢崎市立あずま北小学校 (短歌俳句)
藤岡市立鬼石中学校 (短歌俳句)
神流町立中里中学校 (短歌俳句)

埼玉県

さいたま市立田島小学校 (短歌俳句)
春日部市立小淵小学校 (俳句)
春日部市立藤塚小学校 (俳句)
春日部市立中野小学校 (短歌俳句)
宮代町立笠原小学校 (俳句)
宮代町立百間小学校 (俳句)
久喜市立三箇小学校 (短歌俳句)
加須市立花崎北小学校 (俳句)
加須市立高柳小学校 (俳句)
加須市立鴻荃小学校 (短歌俳句)
羽生市立新郷第二小学校 (俳句)
羽生市立羽生南小学校 (短歌俳句)
狭山市立御狩場小学校 (俳句)

西武学園文理小学校

所沢市立富岡小学校 (俳句)
所沢市立安松小学校 (俳句)
所沢市立北秋津小学校 (俳句)
所沢市立南小学校 (短歌俳句)
本庄市立藤田小学校 (俳句)
さいたま市立宮原中学校 (短歌俳句)
幸手市立西中学校 (短歌)
春日部市立中野中学校 (短歌俳句)
加須市立北川辺中学校 (俳句)
星野学園中学校 (短歌俳句)
川越市立寺尾中学校 (俳句)
川越市立高階中学校 (俳句)
川越市立福原中学校 (俳句)
川崎市立中央中学校 (短歌俳句)
朝霞市立朝霞第二中学校 (短歌俳句)
入間市立東金子中学校 (短歌俳句)
所沢市立富岡中学校 (短歌俳句)
所沢市立向陽中学校 (短歌俳句)
桶川市立桶川東中学校 (短歌俳句)
本市市立東中学校 (俳句)
深谷市立上柴中学校 (短歌俳句)
秩父市立高篠中学校 (俳句)

千葉県

花見川さくら学園 (俳句)
千葉市立幕張小学校 (俳句)
千葉市立源小学校 (短歌俳句)
千葉市立扇田小学校 (短歌俳句)
我孫子市立湖北台東小学校 (短歌俳句)

松戸市立松飛台小学校

船橋市立法典西小学校 (短歌俳句)
船橋市立法典東小学校 (短歌俳句)
鎌ヶ谷市立中部小学校 (短歌俳句)
柏市立柏第五小学校 (短歌俳句)
佐倉市立小竹小学校 (短歌俳句)
成田市立本城小学校 (短歌俳句)
八街市立八街北小学校 (短歌俳句)
八街市立八街東小学校 (短歌俳句)
市原市立国府小学校 (短歌俳句)
市原市立鶴舞小学校 (俳句)
袖ヶ浦市立蔵波小学校 (短歌俳句)
千葉市立緑が丘中学校 (短歌俳句)
我孫子市立湖北台中学校 (短歌俳句)
白井市立南山中学校 (短歌)
専修大学松戸中学校 (俳句)
成田市立西中学校 (短歌俳句)
市原市立ちはら台南中学校 (短歌俳句)
市原市立三和中学校 (俳句)
木更津市立木更津第一中学校 (俳句)
茂原市立富士見中学校 (短歌俳句)

東京都

みのり幼稚園

千代田区立千代田小学校 (短歌俳句)
中央区立月島第一小学校 (短歌俳句)
文京区立明化小学校 (俳句)
荒川区立第四峡田小学校 (俳句)
足立区立中川東小学校 (俳句)
足立区立中川北小学校 (俳句)

葛飾区立こすげ小学校

葛飾区立新宿小学校 (短歌俳句)
墨田区立小梅小学校 (俳句)
東京朝鮮第五初中級学校 (俳句)
江戸川区立西一之江小学校 (俳句)
江戸川区立篠崎小学校 (俳句)
東京朝鮮第二初級学校 (俳句)
江東区立豊洲北小学校 (俳句)
江東区立第六砂町小学校 (俳句)
品川区立京陽小学校 (俳句)
渋谷区立神南小学校 (短歌俳句)
渋谷区立神宮前小学校 (俳句)
トキワ松学園小学校 (俳句)
新宿区立愛日小学校 (俳句)
新宿区立戸塚第一小学校 (俳句)
豊島区立巢鴨小学校 (短歌俳句)
にしみたか学園 三鷹市立井口小学校 (俳句)
調布市立若葉小学校 (俳句)
日野市立仲田小学校 (短歌俳句)
八王子市立鹿島小学校 (俳句)
武蔵村山市立中井 葛藤 大南学園 第七小学校 (短歌)
八丈町立富士中学校 (短歌俳句)
共立女子中学校 (短歌俳句)
台東区立駒形中学校 (俳句)
文京区立音羽中学校 (俳句)
荒川区立第四中学校 (短歌俳句)
東京朝鮮第一初中級学校 (俳句)
足立区立入谷南中学校 (短歌俳句)
共栄学園中学校 (短歌俳句)
葛飾区立金町中学校 (短歌俳句)

岡崎市立恵田小学校 (俳句)

西尾市立西野町小学校 (俳句)

名古屋市立小坂小学校 (短歌)

東海市教育委員会 社会教育課 (短歌)

豊橋市立青陵中学校 (短歌・俳句)

豊橋市立南陽中学校 (短歌・俳句)

幸田町立南部中学校 (短歌・俳句)

安城市立東山中学校 (短歌・俳句)

刈谷市立刈谷東中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立供米田中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立新郊中学校 (短歌)

名古屋市立鳴海中学校 (短歌・俳句)

東海学園 東海中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立桜丘中学校 (短歌・俳句)

名古屋中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立東星中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立駒方中学校 (短歌・俳句)

名古屋市立萩山中学校 (短歌・俳句)

東海市立加木屋中学校 (短歌・俳句)

長久手市立北中学校 (短歌・俳句)

三重県

鈴鹿市立一ノ宮小学校 (短歌)

南伊勢町立南勢中学校 (短歌)

亀山市立中部中学校 (短歌)

滋賀県

大津市立唐崎小学校 (短歌・俳句)

草津市立笠縫東小学校 (俳句)

草津市立矢倉小学校 (短歌)

草津市立老上小学校 (短歌・俳句)

草津市立老上西小学校 (短歌・俳句)

草津市立新堂中学校 (短歌)

草津市立草津中学校 (短歌・俳句)

京都府

ノートルダム学院小学校 (短歌・俳句)

大阪府

大阪市立大東小学校 (俳句)

大阪市立森之宮小学校 (短歌)

河内長野市立加賀田小学校 (短歌・俳句)

賢明学院小学校 (短歌・俳句)

大阪市立大正中央中学校 (短歌)

茨木市立太田中学校 (俳句)

東大阪市立石切中学校 (短歌)

兵庫県

小林聖心女子学院小学校 (短歌・俳句)

明石市立明石小学校 (短歌・俳句)

神河町立寺前小学校 (短歌)

滝川第二中学校 (短歌・俳句)

雲雀丘学園中学校 (短歌)

奈良県

帝塚山小学校 (短歌・俳句)

三郷町立三郷北小学校 (短歌・俳句)

上北山村立上北山小学校 (俳句)

奈良市立春日中学校 (俳句)

宇陀市立室生中学校 (短歌)

五條市立五條東中学校 (短歌)

香芝市立香芝東中学校 (短歌・俳句)

和歌山

新宮市立神倉小学校 (短歌)

鳥取県

鳥取市立神戸小学校 (短歌・俳句)

日野町立日野中学校 (俳句)

島根県

松江市立鹿島中学校 (俳句)

雲南市立掛合中学校 (短歌)

飯南町立頼原中学校 (短歌・俳句)

飯南町立赤来中学校 (短歌・俳句)

安来市立広瀬中学校 (俳句)

浜田市立第一中学校 (俳句)

出雲市立湖陵中学校 (短歌)

奥出雲町立仁多中学校 (短歌・俳句)

津和野町立日原中学校 (短歌・俳句)

岡山県

美作市立美作第一小学校 (短歌・俳句)

倉敷市立老松小学校 (短歌・俳句)

倉敷市立連島南小学校 (短歌・俳句)

倉敷市立乙島小学校 (短歌・俳句)

備前市立備前中学校 (短歌・俳句)

玉野市立日比中学校 (短歌・俳句)

倉敷市立玉島西中学校 (短歌)

笠岡市立白石中学校 (短歌)

真庭市立湯原中学校 (短歌・俳句)

広島県

(株)東京学習社 (俳句)

福山市立御幸小学校 (短歌)

ざんがの郷小学校 (短歌・俳句)

福山市立広瀬小学校 (俳句)

尾道市立吉和小学校 (俳句)

府中市立栗生小学校 (短歌)

庄原市立比和小学校 (短歌・俳句)

庄原市立東城小学校 (俳句)

庄原市立粟田小学校 (短歌)

安田学園 安田小学校 (短歌)

廿日市市立阿品台西小学校 (俳句)

東広島市立三永小学校 (俳句)

東広島市立三ツ城小学校 (俳句)

東広島市立西小学校 (俳句)

安芸高田市立向原小学校 (俳句)

東広島市立乃美尾小学校 (俳句)

福山市立城東中学校 (短歌)

福山市立中央中学校 (短歌・俳句)

尾道市立長江中学校 (短歌・俳句)

庄原市立庄原中学校 (短歌・俳句)

庄原市立比和中学校 (短歌・俳句)

三次市立布野中学校 (短歌)

福山市立松永中学校 (短歌・俳句)

広島市立龜山中学校 (短歌)

北広島町立千代田中学校 (短歌・俳句)

北広島町立豊平中学校 (短歌)

広島市立阿戸中学校 (短歌・俳句)

広島市立五日市中学校 (短歌)

広島市立観音中学校 (短歌・俳句)

広島市立翠町中学校 (短歌・俳句)

広島市立楠那中学校 (短歌)

呉市立豊浜中学校 (短歌・俳句)

呉市立郷原中学校 (短歌・俳句)

呉市立蒲刈中学校 (短歌・俳句)

呉市立呉中央中学校 (短歌)

呉市立両城中学校 (短歌・俳句)

山口県 (俳句)

岩国市立そお小学校 (俳句)

下関市立神田小学校 (短歌)

岩国市立川下中学校 (短歌・俳句)

柳井市立柳井中学校 (短歌・俳句)

柳井市立柳井西中学校 (俳句)

山口県立高森みどり中学校 (短歌)

周南市立桜田中学校 (短歌・俳句)

周南市立和田中学校 (短歌・俳句)

美祢市立豊田前中学校 (短歌・俳句)

山口市立阿知須中学校 (短歌)

徳島県 (短歌)

牟岐町立牟岐小学校 (短歌)

吉野川市立山川中学校 (短歌・俳句)

愛媛県 (短歌)

松山市立湯山小学校 (短歌)

今治市立立花小学校 (短歌・俳句)

西予市立多田小学校 (俳句)

鬼北町立泉小学校 (俳句)

鬼北町立近永小学校 (俳句)

愛南町立家串小学校 (俳句)

今治市立桜井小学校 (俳句)

松山市立立岩小学校 (俳句)

松山市立垣生中学校 (短歌)

内子町立五十崎中学校 (短歌・俳句)

伊方町立伊方中学校 (短歌・俳句)

高知県 (短歌)

土佐市立高岡第一小学校 (短歌・俳句)

土佐市立戸波小学校 (短歌)

南国市立久礼田小学校 (短歌・俳句)

福岡県 (俳句)

北九州市立長尾小学校 (俳句)

福岡県立北九州視覚特別支援学校小学部 (短歌)

筑紫野市立筑紫東小学校 (短歌・俳句)

大任町立今任小学校 (短歌)

麻生学園小学校 (短歌・俳句)

北九州市立曾根中学校 (短歌・俳句)

福岡教育大学附属小倉中学校 (短歌・俳句)

北九州市立黒崎中学校 (短歌・俳句)

福岡市立早良中学校 (短歌・俳句)

春日市立春日野中学校 (短歌)

大野城市立大野東中学校 (短歌・俳句)

大野城市立大野中学校 (短歌)

筑紫野市立筑紫野南中学校 (短歌・俳句)

福岡県立嘉穂高等学校附属中学校 (短歌・俳句)

行橋市立長峡中学校 (短歌・俳句)

大牟田市立田隈中学校 (短歌・俳句)

小郡市立大原中学校 (短歌)

佐賀県 (短歌)

鳥栖市立弥生が丘小学校 (短歌・俳句)

江北町立江北小学校 (短歌・俳句)

白石町立北明小学校 (短歌・俳句)

鹿島市立鹿島小学校 (短歌・俳句)

鹿島市立古枝小学校 (短歌・俳句)

太良町立多良小学校 (短歌・俳句)

鳥栖市立鳥栖中学校 (短歌・俳句)

佐賀県立武雄青陵中学校 (短歌・俳句)

伊万里市立青嶺中学校 (短歌・俳句)

弘学館中学校 (短歌・俳句)

佐賀市立城北中学校 (短歌・俳句)

太良町立多良中学校 (短歌・俳句)

伊万里市立山代中学校 (短歌・俳句)

長崎県 (俳句)

中村グループ (俳句)

長崎市立西北小学校 (俳句)

精道学園 精道三川台小学校 (俳句)

五島市立久賀小学校 (俳句)

西海市立雪浦小学校 (俳句)

南島原市立南有馬小学校 (俳句)

五島市立久賀中学校 (短歌)

諫早市立真城中学校 (短歌・俳句)

熊本県 (短歌)

大津町立美咲野小学校 (短歌)

嘉島町立嘉島中学校 (短歌・俳句)

人吉市立第一中学校 (短歌)

大分県 (短歌)

津久見市立青江小学校 (短歌・俳句)

国東市立武蔵中学校 (短歌)

佐伯市立直川中学校 (短歌・俳句)

宮崎県 (短歌)

五ヶ瀬町立三ヶ所小学校 (短歌・俳句)

日向市立財光寺小学校 (短歌・俳句)

日向市立坪谷小学校 (短歌・俳句)

都城市立乙房小学校 (短歌・俳句)

鵬翔中学校 (短歌・俳句)

西米良村立西米良中学校 (短歌・俳句)

日之影町立日之影中学校 (俳句)

鹿児島 (短歌)

南九州市立九玉小学校 (短歌)

鹿児島市立名山小学校 (短歌・俳句)

肝付町立岸良小学校 (俳句)

奄美市立名瀬小学校 (俳句)

瀬戸内町立与路小学校 (短歌)

宇検村立田検小学校 (短歌・俳句)

南九州市立中福良小学校 (俳句)

霧島市立牧之原小学校 (短歌)

始良市立永原小学校 (短歌・俳句)

始良市立重富小学校 (短歌・俳句)

霧島市立中津川小学校 (短歌・俳句)

曾於市立高岡小学校 (短歌・俳句)

鹿児島市立鴨池中学校 (短歌・俳句)

鹿児島市立谷山中学校 (短歌・俳句)

鹿児島市立喜入中学校 (短歌・俳句)

十島村立宝島中学校 (短歌・俳句)

鹿児島市立吉野中学校 (短歌・俳句)

肝付町立岸良中学校 (短歌・俳句)

長島町立長島中学校 (短歌・俳句)

長島町立鷹巣中学校 (短歌・俳句)

始良市立重富中学校 (短歌・俳句)

沖縄県

那覇市立真嘉比小学校 (短歌・俳句)

伊江村立伊江小学校 (短歌)

北谷町立北谷中学校 (短歌・俳句)

うるま市立あげな中学校 (短歌)

名護市立羽地中学校 (短歌・俳句)

海外

ワシントン日本語学校 (短歌・俳句)

上海日本人学校浦東校 (短歌・俳句)

平成29年度
●NHK全国短歌・俳句大会—ジュニアの部—
入選作品集

平成30年1月20日 発行

編集／発行 NHK全国短歌・俳句大会事務局
〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 NHK学園内
電話 042-572-3151(代) ホームページ <http://www.n-gaku.jp>
印刷／藤原印刷株式会社

© 2018 NHK・NHK学園

作品集の作成にあたっては、あきらかな誤字・脱字以外は、原作のまま掲載いたしました。
誤植など不備な点がございましたらお許してください。
また落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

表紙デザイン／菊地信義
表紙写真／櫻井瑞穂「水鏡」
(第26回生涯学習写真展「入選」)



大河ドラマ 西郷

主演 鈴木亮平

原作 林房理子 脚本 中園ミホ 音楽 富貴晴美
2018年1月7日(日)スタート 総合テレビ 日曜午後8時
BSプレミアム 日曜午後6時 再放送 土曜午後1時5分(総合)



Eテレ

日曜日 午前6:00~6:25
火曜日 午後3:00~3:25 (再)

短歌選者



永田 和宏



大松 達知



黒瀬 珂瀾



司会 剣 幸



Eテレ

日曜日 午前6:35~7:00
水曜日 午後3:00~3:25 (再)

俳句選者



今井 聖



高柳 克弘



夏井 いつき



司会 岸本 葉子

毎月第4日曜は初心者向け短歌・俳句番組をお送りしています。



Eテレ

第4日曜 午前6:00~6:25
翌週火曜 午後3:00~3:25 (再)

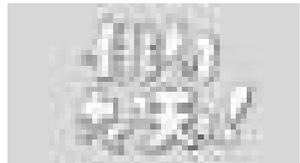
選者：佐伯 裕子 出演：スピードワゴン、星野 真里 ほか



Eテレ

第4日曜 午前6:35~7:00
翌週水曜 午後3:00~3:25 (再)

選者：榎 未知子 出演：武井 壮、加藤 諒、酒井 敏也 ほか





N学で マイスタイルOK!!

N学の
ここが魅力!

NHK学園は‘新しい学び’を提供する、伝統ある広域通信制高等学校です。
創立55周年！ 卒業生は、73,000人余りとなりました。

- ① インターネットを利用した、最先端の双方向学習で
‘わかる・できる’を実感。
- ② テレビ・ラジオの「NHK高校講座」が授業。インターネットの利用で
何度でもくり返し学習できるから、自分のペースで学べます。
- ③ 不登校生徒のための「ネット学習Do itコース」は文部科学省指定。
N学でしかできない独自のカリキュラムで3年間で卒業できます。
- ④ 面接指導会場は、全国に40か所。日本全国から入学できます。
入学のための筆記試験はありません。
- ⑤ 海外在住のまま高校を卒業できる「ネット学習海外コース」が
あり、世界中から入学できます。
- ⑥ 前籍校の修得単位をいかして転入学・編入学ができます。
高い進学実績も特長です。
- ⑦ 東京校は週3日登校して、キャンパスライフを
充実させる「登校コース」があります。
- ⑧ 学費も安心！保護者の経済的負担も少なくできます。



まずはお電話を!

広域通信制・単位制
普通科

 0120-4514-24

NHK学園高等学校

〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 (東京本校)

●資料請求・入学相談・説明会のお問い合わせ先

☎ 0120-4514-24 FAX:042-572-3332

ホームページ www.n-gaku.jp/sch

※入学案内と願書はホームページからダウンロードもできます。

●出願期間

平成30年度

新入学(推薦) 1/16～1/24

新入学(一般) 1/25～4/30

編入学 1/25～4/30

転入学 3/1～随時

※詳しくはお問い合わせ下さい。

※登校コースは募集要項をご請求下さい。

●学校説明会・個別相談会

全国各地で開催予定。詳しくは
ホームページまたは、お電話にて
ご確認下さい。

(ネット学習Do itコース、
ベーシックコース、
ネット学習コース)

はじめての短歌講座

●受講期間／6か月 ●添削／5回

短歌が作れる工夫満載のテキストと問題集！

短歌の基本を5回に分けてわかりやすく解説したテキストで段階的に学びます。

ノート形式のレポートで5回分の添削記録が一冊に！

添削講師は、前回までの作品やのアドバイスをふまえて、わかりやすく添削しますので、進度が一目でわかります。

※より力をつける **入門コース** **実作コース**、

「かなづかい」や「文法」を学ぶ **短歌 文法のツボ** もあります。



はじめての俳句講座

●受講期間／6か月 ●添削／5回

わかりやすいドリル式テキスト

テキスト『俳句必携』で五七五のリズムや季語、歳時記のことなど、俳句の基本が章ごとにわかりやすく整理されています。

間違いやすいポイントを重点的に指導！

音数の数え方や季語の分類など、間違いやすい点をレポート課題を通じてアドバイスします。

※より力をつける **入門コース** **実作コース**、

「かなづかい」や「文法」を学ぶ **俳句 文法のツボ** もあります。



基本から学ぶ。わかりやすいテキストと練習問題で無理なくマスター。

学校の授業に役立てる 自分の趣味を増やすなどNHK学園がお手伝いします。

詳しい案内書を無料でお送りします。

☎ 0120-06-8881

NHK学園

〒186-8001 東京都国立市富士見台2-36-2 6B18係

ホームページ <http://www.n-gaku.jp/life> FAX.042-574-1006 TEL.042-572-3151(代)

希望講座名
郵便番号
住所 氏名
電話番号

☒郵便はがき
〒186-8001
国立市富士見台
NHK学園
6B18係

伊藤園お〜お茶新俳句大賞

作品募集 中



イラスト：佐々木 一澄



入賞作品
2,000句は
お〜お茶
パッケージに
掲載されます

空容器の散乱防止・リサイクルにご協力ください。

日本語俳句の部

英語俳句の部



浅井慎平
(写真家)



安西 篤
(俳人)



いとうせいこう
(作家・クリエイター)



金子兜太
(俳人)



金田一秀穂
(日本語学者)



エイドリアン・ピニングトン
(日本古典文学研究者)



星野恒彦
(俳人)



黒田杏子
(俳人)



宮部みゆき
(作家)



村治佳織
(ギタリスト)



吉行和子
(女優)

お〜お茶新俳句大賞
審査員の方々です。

※敬称略 五十音順

テーマ

テーマは自由。自分で感じたこと、思ったことを季語や定型にこだわることなく、五・七・五のリズムにのせて、のびのびと表現してください。

応募方法

ハガキ、FAX (A4サイズ)、インターネット (伊藤園 ホームページ) のいずれかの方法で、ご応募いただけます。「応募部門と作品」「郵便番号」「住所」「氏名」「年齢」「電話番号」「Eメールアドレス」所属されている場合のみ「句会、学校名」を明記してください。

応募締切

平成 30年2月28日 (水) 当日消印/送信有効

※個人情報の取り扱いについて：ご応募いただいた方の個人情報は、応募者ご本人、または応募者ご本人が中学生以下の場合はその保護者の許可なく業務委託先以外の第三者に個人情報を開示することはありません。入賞・入選作品につきましては、発表のために、作者名・年齢・都道府県・市郡町村名を公表させていただきます。

応募宛先

- 「伊藤園お〜お茶 新俳句大賞」係
- ハガキ 〒102-8553 東京都千代田区紀尾井町3-23
- FAX 03-3263-5668
- インターネット <https://itoen-shinhaiku.jp>

※審査の過程で、直接お電話にてご連絡させていただく場合がございます。
※ご応募に際しての郵便料金ならびにインターネットの接続料、通信料などはお客様のご負担となります。



お問い合わせ先：伊藤園新俳句大賞事務局 TEL:03-3264-4050 10時～18時 (土日祝日・年末年始を除く)

詳しくは伊藤園ホームページまたは上記お問い合わせ先にご確認ください。

平成29年度(第19回) **NHK** *Junior* ジュニアの部

全国短歌俳句大会
NHK Zenkoku Tanka Haiku taikai

入選作品集

平成29年度(第19回)NHK全国短歌俳句大会 ジュニアの部

日時: 2018年1月20・21日 午後1時~4時

会場: NHKホール

主催: NHK・NHK学園

後援: 文化庁・東京都

〈短歌〉現代歌人協会・日本歌人クラブ

〈俳句〉公益社団法人俳人協会・現代俳句協会・

公益社団法人日本伝統俳句協会・国際俳句交流協会

協力: NHKエデュケーショナル・NHK出版

協賛: 〈俳句〉伊藤園